

※GoogleClassroomクラスコードは、教育学研究科ウェブサイト(学生生活＞時間割表・シラバス・学生便覧等)に掲載しているクラスコード一覧表を参照ください。

科目授業名	授業担当教員氏名	開講年度学期	授業区分	曜日時限	授業コード	ページ
教育政策科学演習Ⅴ	渡邊 あや(非常勤講師)	2025年度 前期	集中講義		PB10010 ...	3
カリキュラム論演習Ⅱ	板橋 孝幸(非常勤講師)	2025年度 前期	集中講義		PB10020 ...	5
発達障害学講義Ⅰ	廣澤 満之(非常勤講師)	2025年度 前期	集中講義		PB10030 ...	7
社会教育実習	松本 大／石井山 竜平	2025年度 前期	集中講義		PB10040 ...	9
道徳の理論及び指導法B	齋藤 雅俊(非常勤講師)	2025年度 前期	集中講義		PB10050 ...	11
比較人間形成論講義Ⅰ	縄田 浩志(非常勤講師)	2025年度 前期	集中講義		PB10060 ...	13
教育心理学講義Ⅲ	若松 養亮(非常勤講師)	2025年度 前期	集中講義		PB10070 ...	15
博物館教育論	生島 美和(非常勤講師)	2025年度 前期	集中講義		PB10080 ...	17
教育アセスメント論講義	西塚 孝平	2025年度 前期	週間授業	月1	PB11110 ...	19
教育統計学(心理学統計法)	久保 沙織	2025年度 前期	週間授業	月2	PB11210 ...	21
生涯学習論演習Ⅴ(社会教育演習)	金子 祥之(非常勤講師)	2025年度 前期	週間授業	月2	PB11220 ...	23
教育調査法	李 仁子	2025年度 前期	週間授業	月2	PB11420 ...	25
カリキュラム論講義Ⅱ	谷口 和也	2025年度 前期	週間授業	月2	PB11320 ...	27
教育情報デザイン論演習Ⅰ	中島 平	2025年度 前期	週間授業	月3	PB12110 ...	29
人間形成論演習Ⅲ	李 仁子	2025年度 前期	週間授業	月3	PB11310 ...	31
教育相談(教育・学校心理学)	安保 英勇	2025年度 前期	週間授業	月4	PB11410 ...	33
教育学概論	李 仁子	2025年度 前期	週間授業	月4	PB12340 ...	35
教育情報アセスメント実習	松林 優一郎／中島 平／久保 沙織	2025年度 前期	週間授業	月4 月5	PB11430 ...	37
産業・組織心理学	若島 孔文	2025年度 前期	週間授業	月5	PB11510 ...	39
福祉心理学	野口 和人／神谷 哲司	2025年度 前期	週間授業	火1	PB12120 ...	41
人間形成論演習Ⅰ	澤田 哲生	2025年度 前期	週間授業	火2	PB12210 ...	43
教育心理学演習Ⅰ	工藤 与志文	2025年度 前期	週間授業	火2	PB12220 ...	45
生涯学習論演習Ⅱ(社会教育経営論演習)	石井山 竜平	2025年度 前期	週間授業	火2	PB12230 ...	47
教育政策科学演習Ⅲ	後藤 武俊	2025年度 前期	週間授業	火2	PB12240 ...	49
教育方法・技術論(ICT活用含む)	谷口 和也	2025年度 前期	週間授業	火2	PB12250 ...	51
教育文献講読	鷲谷 洋輔／松林 優一郎／吉田 沙蘭	2025年度 前期	週間授業	火3	PB12310 ...	53
海外教育演習	劉 靖	2025年度 前期	週間授業	火3	PB12320 ...	55
教育行政学講義Ⅰ	青木 栄一	2025年度 前期	週間授業	火4	PB12410 ...	57
発達臨床論演習Ⅰ	長谷川 真里	2025年度 前期	週間授業	火4	PB12420 ...	59
発達障害学講義Ⅱ	横田 晋務	2025年度 前期	週間授業	火5	PB12510 ...	61
学習心理学演習	佐藤 誠子	2025年度 前期	週間授業	水2	PB13220 ...	63
健康・医療心理学	吉田 沙蘭	2025年度 前期	週間授業	水2	PB13230 ...	65
教育学への招待	長谷川 真里／島 一則／佐藤 誠子／熊谷 龍一／劉 靖	2025年度 前期	週間授業	木1	PB14110 ...	67
生涯学習論演習Ⅳ(社会教育演習)	鷲谷 洋輔	2025年度 前期	週間授業	木1	PB14120 ...	69
学習・発達論	佐藤 誠子／神谷 哲司	2025年度 前期	週間授業	木2	PB14210 ...	71
教育情報デザイン論演習Ⅱ	熊井 正之	2025年度 前期	週間授業	木3	PB14320 ...	73
教育政策科学演習Ⅰ	島 一則	2025年度 前期	週間授業	木3	PB14330 ...	75
発達心理学演習Ⅱ	神谷 哲司	2025年度 前期	週間授業	木3	PB14340 ...	77
発達障害学演習Ⅰ	野口 和人	2025年度 前期	週間授業	木3	PB14350 ...	79
リカレント教育論講義(生涯学習概論Ⅱ)	松本 大	2025年度 前期	週間授業	木4	PB14410 ...	81
成人教育論講義Ⅱ(生涯学習支援論講義)	大安 喜一(非常勤講師)／Yanti Shantini(非常勤講師)	2025年度 前期	週間授業	木5	PB14510 ...	83
臨床心理学講義Ⅱ(精神疾患とその治療)	本多 奈美	2025年度 前期	週間授業	金1	PB15110 ...	85
教育社会学	福田 亘孝	2025年度 前期	週間授業	金2	PB15210 ...	87
学習心理学講義	工藤 与志文	2025年度 前期	週間授業	金2	PB15220 ...	89
教育心理学実験Ⅰ(心理学研究法)	前田 駿太／教育心理学コース教員	2025年度 前期	週間授業	金3 金4	PB15310 ...	91
発達障害学演習Ⅲ	野口 和人	2025年度 前期	週間授業	金5	PB15510 ...	93

科目授業名	授業担当教員氏名	開講年度学期	授業区分	曜日時限	授業コード	ページ
道徳の理論及び指導法A	清多 英羽(非常勤講師)	2025年度 後期	集中講義		PB20010 ...	95
神経・生理心理学	横田 晋務	2025年度 後期	週間授業	月2	PB21210 ...	97
生涯学習論演習Ⅰ(生涯学習支援論演習)	松本 大	2025年度 後期	週間授業	月3	PB21310 ...	99
心理演習	前田 駿太／安保 英勇／若島 孔文／吉田 沙蘭／SCHLEMPER LENNA／坂本 一真	2025年度 後期	週間授業	月3	PB21320 ...	101
教育実践論講義Ⅰ	長島 康雄(非常勤講師)	2025年度 後期	週間授業	月4	PB21410 ...	103
心理学的支援法	吉田 沙蘭／安保 英勇／若島 孔文／前田 駿太／SCHLEMPER LENNA／坂本 一真	2025年度 後期	週間授業	月4	PB21420 ...	105
臨床心理学講義Ⅰ(臨床心理学概論)	若島 孔文	2025年度 後期	週間授業	月5	PB21510 ...	107
教育制度論	井本 佳宏	2025年度 後期	週間授業	火1	PB22110 ...	109
教育行政学講義Ⅱ	後藤 武俊	2025年度 後期	週間授業	火2	PB22210 ...	111
教育課程総論	谷口 和也	2025年度 後期	週間授業	火2	PB22220 ...	113
教育情報活用論	佐藤 克美	2025年度 後期	週間授業	火3	PB22310 ...	115
国際教育開発論講義	劉 靖	2025年度 後期	週間授業	火3	PB22320 ...	117
教育心理学講義Ⅱ	佐藤 誠子	2025年度 後期	週間授業	火3	PB22330 ...	119
公認心理師の職責	吉田 沙蘭	2025年度 後期	週間授業	火3	PB22340 ...	121
教育政策科学演習Ⅱ	青木 栄一	2025年度 後期	週間授業	火4	PB22410 ...	123
国際教育開発論演習	劉 靖	2025年度 後期	週間授業	火4	PB22420 ...	125
発達心理学講義(発達心理学)	長谷川 真里	2025年度 後期	週間授業	火4	PB22430 ...	127
発達障害学演習Ⅱ	横田 晋務	2025年度 後期	週間授業	火5	PB22510 ...	129
スポーツ文化論講義Ⅱ	佐久間 政広(非常勤講師)	2025年度 後期	週間授業	火5	PB22520 ...	131
発達臨床論講義	神谷 哲司	2025年度 後期	週間授業	水2	PB23210 ...	133
教育社会学講義	島 一則	2025年度 後期	週間授業	水2	PB23220 ...	135
人間形成史講義Ⅰ	八鍬 友広(非常勤講師)	2025年度 後期	週間授業	水2	PB13210 ...	137
教育学研究入門	佐藤 克美／前田 駿太／松本 大／横田 晋務／澤田 哲生／後藤 武俊 安保 英勇／野口 和人／吉田 沙蘭／前田 駿太／SCHLEMPER LENNA／横田 晋務／坂本 一真	2025年度 後期	週間授業	木1	PB24110 ...	139
心理検査法(心理的アセスメント)	松林 優一郎	2025年度 後期	週間授業	木1	PB24120 ...	141
統計的学習論講義	工藤 与志文／佐藤 誠子	2025年度 後期	週間授業	木2	PB24210 ...	143
教育心理学演習Ⅱ	井本 佳宏	2025年度 後期	週間授業	木2	PB24220 ...	145
比較教育学講義	小嶋 秀樹	2025年度 後期	週間授業	木3	PB24310 ...	147
教育情報デザイン論講義Ⅱ	石井山 竜平	2025年度 後期	週間授業	木3	PB24320 ...	149
成人教育論講義Ⅰ(生涯学習概論Ⅰ)	澤田 哲生	2025年度 後期	週間授業	木3	PB24330 ...	151
教育哲学講義Ⅱ	若島 孔文／本多 奈美／坂本 一真	2025年度 後期	週間授業(後期前半)	木3	PB24340 ...	155
臨床心理学演習Ⅰ	若島 孔文／本多 奈美	2025年度 後期	週間授業(後期前半)	木4	PB24350 ...	157
臨床心理学演習Ⅱ	安保 英勇／吉田 沙蘭／前田 駿太／SC HLEMPER LENNA	2025年度 後期	週間授業(後期後半)	木3	PB24360 ...	159
臨床心理学演習Ⅲ	安保 英勇／吉田 沙蘭／前田 駿太／SC HLEMPER LENNA	2025年度 後期	週間授業(後期後半)	木4	PB24370 ...	161
発達障害学講義Ⅲ(障害者・障害児心理学)	野口 和人	2025年度 後期	週間授業	木5	PB24510 ...	163
人体の構造と機能及び疾病	本多 奈美	2025年度 後期	週間授業	金1	PB25110 ...	165
教育心理学講義Ⅰ	工藤 与志文	2025年度 後期	週間授業	金2	PB25210 ...	167
関係行政論	前田 駿太／長友 周悟	2025年度 後期	週間授業	金2	PB25220 ...	169
スポーツ文化論講義Ⅰ	甲斐 健人	2025年度 後期	週間授業	金2	PB25230 ...	171
教育心理学実験Ⅱ(心理学実験)	長谷川 真里／教育心理学コース教員	2025年度 後期	週間授業	金3 金4	PB25310 ...	173
教育情報デザイン論講義Ⅰ	伊藤 文人	2025年度 後期	週間授業	金4	PB25420 ...	175
発達障害学演習Ⅳ	横田 晋務	2025年度 後期	週間授業	金5	PB25510 ...	177
心理実習	若島 孔文／安保 英勇／吉田 沙蘭／前田 駿太／SCHLEMPER LENNA／本多 奈美／坂本 一真	2025年度 通年	集中講義		PB30010 ...	179
社会科教育論Ⅰ	新福 悦郎(非常勤講師)	2025年度 通年	週間授業	水3	PB33310 ...	181
社会科教育論Ⅱ	新福 悦郎(非常勤講師)	2025年度 通年	週間授業	水4	PB33410 ...	183
公民科教育論	新福 悦郎(非常勤講師)	2025年度 通年	週間授業	水5	PB33510 ...	185
教育学実習	甲斐 健人	2025年度 通年	週間授業	木2	PB34210 ...	187
教育学実習	福田 亘孝	2025年度 通年	週間授業	木4	PB34410 ...	189

[illegible]

授業時間外学習	集中講義という形式上、授業における予習・復習を毎回設定することはありませんが、各日、総括となる課題を提示します。授業時間外に各自取り組むようにして下さい。その際には、日本語だけでなく、英語など外国語の文献・資料等にもあたることを推奨します。
実務・実践的授業	×
その他	・本授業は集中講義として実施します（８月下旬予定）。 ・授業に関する資料等は、Google Classroomを通じて配布します。
オフィスアワー	担当教員が非常勤講師であるため、まずは、メールにてご連絡ください。
更新日付	2025/03/03

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、『講義・演習』については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、『実験、実習及び実技』については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB10020				
科目名	カリキュラム論演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	集中講義				
担当教員	その他教員、松本 大				
担当教員（所属）	板橋孝幸（非常勤講師）				
科目ナンバリング					
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	カリキュラムと博学連携				
授業の目的と概要	本授業では、学習指導要領や教科書の分析を通して、カリキュラムの理論を学ぶ。それとともに、博学連携の指導案作成を行って、実践に関する基礎を身につける。				
学習の到達目標	本授業の到達目標は、以下の3点である。 1、カリキュラムの理論と方法を説明できる。 2、博学連携の指導案を作成できる。 3、博学連携に関する授業ができる。				
授業内容・方法と進度予定	第1回 オリエンテーション 第2回 博学連携とカリキュラム 第3回 学習指導要領と検定教科書・地域学習副読本 第4回 地域学習と生活科・社会科・総合学習 第5回 地域学習と博学連携 第6回 副読本と博学連携のテーマ分析 第7回 博学連携に関する教材研究 第8回 博学連携のための施設見学 第9回 教材研究と施設見学の振り返り 第10回 博学連携の指導案作成1：全体計画と目的 第11回 博学連携の指導案作成2：教材の分析 第12回 博学連携の指導案作成3：教科・領域の連携 第13回 博学連携の指導案作成4：フィールドワーク資料の検討 第14回 模擬授業・フィールドワーク 第15回 まとめ 教科書は使用しない。毎回の授業で資料を配付する。				
成績評価方法	中間レポート（50%）、期末レポート（50%）で評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
学習指導要領は国民形成の設計書	水原克敏， 高田文子， 遠藤宏美， 八木美保子	東北大学出版会	2018年	9784861633171	参考書

授業時間外学習	授業時に課される宿題を提出するだけでなく、配布されるプリントにより授業内容を復習してください。
実務・実践的授業	×
その他	授業には積極的に参加してください。
オフィスアワー	非常勤講師
更新日付	2025/03/04

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB10030				
科目名	発達障害学講義Ⅰ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	集中講義				
担当教員	その他教員、横田 晋務				
担当教員（所属）	廣澤 満之（非常勤講師）				
科目ナンバリング	PES-PSY212J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	〇				
授業題目	発達障害学概論				
授業の目的と概要	この講義では、自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠如多動症(ADHD)、限局性学習障害(LD)等の発達障害がある子どもに関する特性を学ぶ。また、法制度や学校制度を理解した上で、インクルーシブ教育の在り方について考えていく。加えて、発達障害がある子どもの保護者の支援の在り方についても理解していく。 この講義では、教員からの基礎的な講義を受けて、いくつかのテーマについて受講者同士のグループで検討・発表を行っていく。				
学習の到達目標	①発達障害がある子どもの特性とその背景について理解する ②発達障害がある子どもに関わる法制度と学校教育の制度について理解する ③発達障害がある子どもの保護者の支援について理解する				
授業内容・方法と進度予定	1. ガイダンス 2. 発達障害の特性（ASD・ADHD・LD） 3. 法制度と教育制度 4. ASD・ADHD・LDのある子どもの理解と支援① 5. ASD・ADHD・LDのある子どもの理解と支援② 6. ASD・ADHD・LDのある子どもの理解と支援③ 7. ASD・ADHD・LDのある子どもの理解と支援④ 8. ASD・ADHD・LDのある子どもの理解と支援⑤ 9. ASD・ADHD・LDのある子どもの理解と支援⑥ 10. 学校現場における支援① 11. 学校現場における支援② 12. インクルーシブ教育① 13. インクルーシブ教育② 14. 地域における保護者支援① 15. 地域における保護者支援②				
成績評価方法	授業内で課すリアクション・ペーパー(30%)及びレポート(70%)により評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	事前に配布された資料を読んでおくこと。
実務・実践的授業	×
その他	特になし
オフィスアワー	非常勤講師
更新日付	2025/03/04

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB10040				
科目名	社会教育実習				
単位数	1.0単位				
曜日・講時	集中講義				
担当教員	松本 大、石井山 竜平				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU382J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	社会教育とNPOに関する施設と労働の実際				
授業の目的と概要	社会教育やNPOの現場で実際に働く経験をするということが本実習の主要な目的である。そのうえで、以下の内容を学習することを目指している。 (1) 宮城県内の社会教育やNPOに関する施設での業務体験をとおして、社会教育やNPOに関連する施設ならびにその職員の意義を実践的に学ぶことを目的とする。 (2) 宮城県内の社会教育やNPOに関する施設での業務体験をとおして、社会教育やNPOを支援する職員に必要な専門的知識や技能を実際的に獲得することを目指す。				
学習の到達目標	(1) 社会教育やNPOに関連する施設の日常的な業務を経験することによって、社会教育やNPO支援の職員に求められる専門的知識や技能を経験的に学ぶ。 (2) 社会教育やNPOに関連する施設の業務をとおして、地域における社会教育やNPOの現状を実際的に理解する。 (3) 現場での経験をとおして社会教育における人びとの学習とその支援に関する理念・方法や実態を経験的に理解する。				
授業内容・方法と進度予定	この実習は、8月から9月にかけて約6日間実施する予定である。実習先としては、宮城県内の公民館、市民活動サポートセンター、児童館を予定している。 講座の企画、見学や補助、施設管理などの社会教育施設や市民活動サポートセンターの業務を体験し、社会教育やNPOを支援するうえで職員が有する専門的な知識や技能を実際的に学ぶ。 4～7月に事前指導を行い、8～9月の実習に取り組んでもらう。実習後は事後指導を予定している。				
成績評価方法	事前指導・実習・事後指導への参加状況（90%）、実習後のレポート（10%）				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学習	履修者が自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組むことも強く期待される。				
実務・実践的授業	×				

その他	(1) この科目は、社会教育主事・社会教育士の資格取得のための必修科目である。資格取得希望者は必ず履修すること。 (2) 受け入れ施設の都合で、実習先の施設や日程が変更になる場合がある。Google Classroom等で、教員からの連絡を確実に確認すること。 (3) 事前指導、事後指導を含め、実習の全日程への参加を原則とする。 (4) この科目は、成人教育論講義Ⅰ（生涯学習概論Ⅰ）、リカレント教育論講義（生涯学習概論Ⅱ）、生涯学習論演習Ⅰ（生涯学習支援論演習）、生涯学習論演習Ⅱ（社会教育経営論演習）の4科目を履修済みもしくは履修予定の場合に、履修することが望ましい。 (5) Google Classroomのクラスコード：w3uxnbk
オフィスアワー	オフィスアワーは、水曜 10:00～12:00 とする。事前に E-mail 等で連絡すること。教員の連絡先は授業中に伝える。
更新日付	2025/03/03

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験・実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB10050				
科目名	道徳の理論及び指導法B				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	集中講義				
担当教員	井本 佳宏、その他教員				
担当教員（所属）	齋藤 雅俊（非常勤講師）				
科目ナンバリング	PES-EDU901J				
使用言語	日本語				
主要授業科目					
授業題目	考え、議論する道徳の考え方と教科指導法				
授業の目的と概要	・「特別の教科 道徳」の指導のための理論と実践を学ぶ。 ・学校教育において「道徳」という教科が生まれ、辿ってきた歴史を概観し、学習指導要領の内容や教科の特質をふまえたさまざまな指導方法に精通していくことで、これからの道徳教育を創り上げていくための基礎力と応用力を形成する。				
学習の到達目標	①道徳の歴史や理念について理解する。 ②学習指導要領で掲げられている道徳の目標や内容について理解する。 ③道徳教育のさまざまな指導法について理解する。 ④理解したことを指導案の作成や授業実践に生かすことができる。				
授業内容・方法と進度予定	9/1 (Mon.) 2～4限目 ①オリエンテーション(「道徳」とは何か?) ②道徳の歴史(明治～第二次世界大戦) ③道徳の歴史(戦後～現在) 9/2 (Tue.) 1～4限目 ④現在の学習指導要領について(全体の概説、カリキュラムマネジメント等) ⑤道徳科の目標と内容項目(A、B)について ⑥道徳科の目標と内容項目(C、D)について ⑦道徳科におけるさまざまな教材とその活用について(文科省「道徳教育アーカイブ」より)(1) 9/3 (Wed.) 1～4限目 ⑧中等教育における道徳の取り扱い(1)(現代的課題等) ⑨中等教育における道徳の取り扱い(2)(他教科・他領域との連携等) ⑩道徳科における所見・評価のあり方 ⑪道徳科におけるさまざまな教材とその活用について(文科省「道徳教育アーカイブ」より)(2) 9/4 (Thu.) 1～4限目 ⑫模擬授業に向けて(指導案の確認・準備等) ⑬模擬授業の実践(1) ⑭模擬授業の実践(2) ⑮模擬授業の実践(3)				
成績評価方法	コメントペーパーや授業への参加状況（75%）、模擬授業（25%）				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編	文部科学省			4316300849	

授業時間外学習	予習: Googleクラスルームにおいてある授業の資料に目を通しておく(90分)。 復習: 授業の内容を振り返る(90分)。 Preparation: Go through the materials for the class that are in Google Classroom (90 min.). Review: Review the content of the lesson (90 min.).
実務・実践的授業	×
その他	
オフィスアワー	非常勤講師
更新日付	2025/03/04

1単位の授業科目は、4 5 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については1 5 ～ 3 0 時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）3 0 ～ 1 5 時間、「実験、実習及び実技」については3 0 ～ 4 5 時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）1 5 ～ 0 時間です。

授業コード	PB10060				
科目名	比較人間形成論講義Ⅰ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	集中講義				
担当教員	その他教員、李 仁子				
担当教員（所属）	縄田 浩志（非常勤講師）				
科目ナンバリング	PES-EDU212J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	共感・人づきあい・ネットワーク論				
授業の目的と概要	人づきあいは、楽しい、しかし悩みが多い。正直どうしたらいいか、戸惑うことばかりである。現代社会において、顔と顔をつきあわせる人づきあいはだんだんと希薄になってきた。それでも、人と人はつきあわずには生きていけない。人間社会にも生物社会にも主体と客体のあいだに、場合によっては種を超えて「共感」が認められるが、「認知的共感」と「情動的共感」は分けて考えなければならないとされている。本授業では、日本における日常生活からはいったん離れ、中東・アフリカのイスラーム社会という特定の地域に根ざした、文化、社会、宗教、生業、自然とのかかわりなど、生活全般の事例を紹介しながら、自己の成長と社会化は普遍的か？異文化理解と異文化に暮らすことの違いは何か？人づきあいやネットワーク形成に共感プラスとなるかマイナスとなるか？といった点について、人間形成の観点から論じてみたい。				
学習の到達目標	1. 共感、人づきあい、ネットワークに関する、霊長類学、社会学、心理学、人類学といった諸学問の最新の研究動向について理解できるようになる。 2. 子育て、成長、あいさつ、分かち合い、感情といった人間の持つ普遍的かつ個別的な側面について、教育人類学の観点から自分／自文化の「常識」「思い込み」を相対化して、多様な文化・社会について思索を深める。 3. 日本だけでなく世界中の諸社会において、どう自己と他者による共同・協働・協同へと実際に結びつけていくことができるのか、ディスカッションを通じて主体的に学ぶ。				
授業内容・方法と進度予定	1. 序論 1) 共感をめぐる最近の議論：霊長類学・社会学・心理学・人類学を横断する 2. 青年期の成長と自己の社会化：私の異文化ショックの体験から 2. 子育て、あいさつ、分かち合い：中東の事例から考える 1) 子ども達を観察する：砂漠にみる仕事の流儀、伝統の発展 2) イスラーム社会の女性の暮らしと子育て：「ゆとろぎ」 3) 分かち合いの知恵：乾燥地における稀少な資源をめぐって 4. 命のいただき方：雨乞い儀礼にみる生態的・社会的・文化的・宗教的応答 5. 異分野連携による総合科学と伝統的知識の融合：砂漠化対処「負の遺産」に向合う 3. 開発援助、感情、共同作業：アフリカの事例から考える 1) 写真〈ハゲワシと少女〉の最も近くにいた日本人として：アフリカと日本をつなぐ 2) 開発援助への主体的な関わり：現地住民の思惑と人類学者の興味のすれ違いを超えて 3) 外国人労働者との共同作業：農村開発と自然保護区管理の両立に向けて 4) 現地調査の作法と流儀：村入りで感情的になる 5) 社会との懸け橋：展示活動と多言語出版を通じて 4. 総論：共感と人づきあいとネットワーク 1) 「弱い紐帯の強さ」は本当にあるのか：スモール・ワールドにおけるつながり方 2) つながりを創る：地球環境問題にどう向き合うか 3) 人づきあいやネットワーク形成に共感プラスとなるかマイナスとなるか？ 4) 総合討論				
成績評価方法	・ディスカッションへの参加（20%） ・リアクション・ペーパーの提出（40%） ・最終レポートの内容（40%）				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
アフリカの人間開発-実践と文化人類学	松岡万亀雄・縄田浩志・石田慎一郎編	明石書店	2008年	9784750327433	参考書
砂漠誌：人間・動物・植物が水を分かち合う知恵	縄田浩志・篠田謙一編	東海大学出版部	2014年	9784486020127	参考書
サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年：「みられる私」より「みる私」	縄田浩志編	河出書房新社	2019年	9784309921778	参考書
現代中東の資源開発と環境配慮-SDGs時代の国家戦略の行方	縄田浩志著	法律文化社	2021年	参考書	
忘れられた日本人	宮本常一	岩波文庫	1984年	400331641X	参考書
ゆとろぎ-イスラームの豊かな時間	片倉もとこ	岩波書店	2008年	9784000254069	参考書
スモールワールド・ネットワーク-世界を知るための新科学的思考法	ワッツ、ダンカン	CCCメディアハウス	2004年	9784484041162	参考書
共感の時代へ-動物行動学が教えてくれること	ドゥ・ヴァール、フランス	紀伊国屋書店	2010年	9784314010634	参考書
参考書	ブルーム、ポール	白掲社	2018年	9784826902014	

「参加の力」が創る共生社会－市民の共感・主体性をどう醸成するか	早瀬昇	ミネルヴァ書房	2018年	9784623083381	参考書
授業時間外学習	参考書の内容を可能な限り（１冊以上）予習して授業に臨んでください。				
実務・実践的授業	×				
その他					
オフィスアワー	なし				
更新日付	2025/02/13				

１単位の授業科目は、４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。１単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については１５～３０時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）３０～１５時間、「実験、実習及び実技」については３０～４５時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）１５～０時間です。

授業コード	PB10070				
科目名	教育心理学講義Ⅲ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	集中講義				
担当教員	その他教員、神谷 哲司				
担当教員（所属）	若松養亮（非常勤講師）				
科目ナンバリング	PES-PSY213J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	キャリア選択の心理学				
授業の目的と概要	青年期のライフイベントであるキャリア選択を心理学的な側面から解明する。				
学習の到達目標	(1) 青年期におけるキャリア選択の特性と難しさを理解する。 (2) その難しさへの対応を理解する (3) 適合性・適性・適応の概念と査定のあるり方を知る (4) 働くことに対する社会化の過程を知る (5) キャリアの問題に対する介入・支援について知る				
授業内容・方法と進度予定	第1時 青年期とキャリア選択の関わり 第2時 意思決定の難しさと多くの人の対応 第3時 意思決定の難しさとあるべき対応 第4～5時 職業適合性 第6時 職業適性 第7時 職業適応 第8～10時 働くことへの社会化 第11～13時 キャリアの問題への支援・介入 第14時 まとめと補足 第15時 最終試験				
成績評価方法	授業日ごとに課すリアクションペーパーや授業内のディスカッション等による平常点で30%、最終時に行う試験（資料やノートは持ち込みを可とする）を70%と割合で成績を算出する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
なし（資料となるプリントを配布する）					
授業時間外学習	事前学習は必ずしも必要とはしないが、事後的に復習を行うことを勧める。				
実務・実践的授業	×				

その他	
オフィスアワー	毎時間の終了後30分間は質問等を受け付けるために教室内、または控室に滞在する。
更新日付	2025/03/03

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、『講義・演習』については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、『実験、実習及び実技』については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB10080				
科目名	博物館教育論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	集中講義				
担当教員	その他教員、石井山 竜平				
担当教員（所属）	生島 美和（非常勤講師）				
科目ナンバリング	PES-EDU902J				
使用言語	日本語				
主要授業科目					
授業題目	博物館教育の理論的展開と人々の学習・研究活動を支援する教育実践				
授業の目的と概要	資料である「モノ」と、利用者・学習者としての「人」とを、博物館という「場」はどのように結び付けることで教育機能を創出することができるのか。博物館は、設置規模や収蔵資料の種類、館が持つミッション・重点課題により、多様な在り方を持つ。こうした博物館は、どのように教育活動を捉えたり、市民の学習活動を支援したりするのか。博物館の教育機能についての考え方や特性について概観しながら、企画・実施・評価といった実践の展開について検討する。				
学習の到達目標	・博物館教育の基盤となる理論や、実践に関する方法論について理解する。 ・博物館における教育活動を通じた人間形成・主体形成について理解を深める。 これらを通じて、受講生が、博物館について資料収集や研究の場としてのみならず、人々の地域学習の拠点として機能することが説明できるようになる。また、それを具体化するための考えやスキルを持つ。				
授業内容・方法と進度予定	【授業の内容】 第1回 教育の意義と本質 : 人間形成における「教育」について考える 第2回 社会教育施設としての博物館 : 社会教育施設としての博物館の位置と役割について論じる 第3回 博物館の利用実態と利用者の博物館体験 : 博物館の教育機能について利用者の立場から検討する 第4回 博物館教育論史 : 日本における博物館教育論史について 第5回 博物館教育の特性(1) : 博物館教育の特性について、特に展示・事業を通じて論じる 第6回 博物館教育の特性(2) : 博物館教育の特性について、特に地域社会とのかかわりから論じる 第7回 博物館教育の方法(1) : 講座・講演会・参加体験などを通じた教育活動について 第8回 博物館教育の方法(2) : 学習・研究活動の支援を通じた教育活動について 第9回 博物館の分類別にみる教育活動 : 多様な分類をしながら、それぞれの教育活動について検証する 第10回 学校教育と博物館との連携 : 事例を通じながら学校教育と博物館教育の差異・連携について論じる 第11回 ボランティア・友の会 : ボランティア・友の会への参加促進による教育活動について 第12回 地域の学習活動の場としての博物館 : 「地域博物館論」及びその活動について 第13回 地域づくりと博物館 : 博物館活動と地域社会とのダイナミクスの中から教育を考える 第14回 博物館教育における学芸員の役割 : 博物館教育を進める上で学芸員に求められることは何か 第15回 まとめ : 授業のふり返りを行う 【授業の方法・進度予定】 3日間の集中授業で行う。 講義を主とし、スライドや映像などを使用しながら進める。 The meaning and essence of education The museum as a social education facility How do people utilize the museum? History of museum education Characteristics of museum education Methods of museum education Cooperation between school education and museums Volunteers Regional development and museums Role of curators in museum education, etc.				
成績評価方法	・博物館の教育活動に携わるうえでの基本的な知識・力量を身につけることができたか。 ・授業内容の理解およびそれに関する自身の関心や考えについて述べるよう、レポートを課す。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	普段から博物館や文化財の見学に足を運び、その運営や活用について検討する。また、博物館をめぐる話題や議論について関心を持ち、自分なりの考えを持てるようにする。				
実務・実践的授業	×				
その他	毎回の終了時には授業に関するコメントシートを提出する。				
オフィスアワー	非常勤講師であるため、授業に関わる質問がある場合は、以下のメールアドレスに連絡をいただきたい。				
	ojima.miwa.vs@teikyo-u.ac.jp				
更新日付	2025/02/06				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

[illegible]

授業時間外学習	・復習課題として毎回の振り返りをおこなう。
実務・実践的授業	×
その他	・教科書や参考書の購入は不要。授業で用いる各種資料は適宜Google Classroomに共有する。 ・本授業は大学院生向け授業「教育情報アセスメント基礎論」の共通科目として、合同で実施する。 ・Google Classroomのクラスコード：txmcoffg ・基本は対面授業（教室での授業）とするが、状況に応じてオンライン授業を一部おこなう可能性がある。
オフィスアワー	質問や相談がある場合は事前にメール等で連絡をすること。
更新日付	2025/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB11210				
科目名	教育統計学（心理学統計法）				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜2限				
担当教員	久保 沙織				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EIA201J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	教育統計学				
授業の目的と概要	この講義では、教育・心理学に必要となる統計学の基礎について学ぶ。レベルは初等統計であり、高校文科系程度の数学的な準備が望まれる。学部科目「統計的学習論講義」へ接続する。				
学習の到達目標	1. 心理・教育で使われる基本的な統計用語・概念が理解できるようになる。 2. 教育学的なデータの分析において記述統計学の知識を利用できるようになる。 3. 推測統計学の考え方を理解し、統計解析の結果を正しく解釈できるようになる。				
授業内容・方法と進度予定	①授業の実施方法 対面で、講義を中心に行う。 ②授業に関する連絡および資料の配布はGoogle Classroomを通して行う。 ③授業計画 第1回 分布の記述的指標とその性質 第2回 連関と独立 第3回 共分散と相関係数 第4回 回帰分析（1） 第5回 回帰分析（2） 第6回 統計的推測・確率変数と確率分布 第7回 確率モデルと標本分布（正規分布を中心に）（1） 第8回 確率モデルと標本分布（正規分布を中心に）（2） 第9回 推定と検定（1） 第10回 推定と検定（2） 第11回 推定と検定（3） 第12回 分散分析（1） 第13回 分散分析（2） 第14回 分散分析（3） 第15回 まとめ・期末試験				
成績評価方法	授業内での小テストや課題、および期末試験により評価を行う。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
心理統計学の基礎：統合的理解のために	南風原朝和	有斐閣アルマ	2002	4-641-12160-5	参考書
人間科学のための統計分析：ここに関心があるすべての人のために	石井秀宗	医歯薬出版株式会社	2014	978-4-263-73161-1	参考書

授業時間外学習	参考書や配布資料により予習・復習を行うこと。
実務・実践的授業	×
その他	Google Classroomのクラスコード：cj5ujdd ・統計学は積み重ねが重要な学問です。積極的な授業参加を求めます。 ・やむを得ず欠席する場合は、あらかじめ申し出るようにしてください。 ・上記15回の内容は目安であり、授業内容と進捗予定は変更される可能性があります。その場合には授業中に告知します。 ・電卓（計算機）を用意して持参してください。
オフィスアワー	質問等は随時受け付けます。 授業前後の時間以外で対応が必要な場合にはあらかじめE-mailで連絡してください。連絡先は授業中に伝えます。
更新日付	2025/02/28

1単位の授業科目は、4 5時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については1 5～3 0時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）3 0～1 5時間、「実験、実習及び実技」については3 0～4 5時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）1 5～0時間です。

[illegible]

授業時間外学習	演習形式のため、履修者の報告をもとに講義を進める。発表者は報告の準備、その他の履修者は課題文献の読み込みを進めること。
実務・実践的授業	×
その他	輪読する課題文献については、講義内で各自の関心を確認したうえで選定する。
オフィスアワー	事前連絡のうえ調整
更新日付	2025/03/03

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB11420				
科目名	教育調査法				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜2限				
担当教員	李 仁子				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU206J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	フィールドワーク入門				
授業の目的と概要	実証科学の方法の一つであるフィールドワークは、多様な場面で活用できる便利かつ優秀な調査研究ツールである。教育研究の手法としてはもちろんのこと、各自のプライベートにおいても、社会人としての仕事においても、さまざまに応用が利く。しかし、そのやり方はただ講義を聞くだけでは習得することが難しい。そこで、この授業では、フィールドワークの基本を学びながら自らも現場で体験してみることにより、自分で実際に使えるツールとして身につけることを目指す。				
学習の到達目標	フィールドワークの基本を学び、その初歩的な実践を体験することを通して、各自の研究や活動において質的な調査研究を行う必要が生れたときに、余裕をもった対応がとれるようになることを目標とする。				
授業内容・方法と進度予定	授業では、まず調査研究法に関する基本文献を受講者全員で読みながら自由なグループディスカッションを行い、理解を深める。その後、フィールドワークの実践に向けて具体的な手順や方法を学習する。その上で、各自の興味関心に基づいて自由に選択したフィールドにおもむき、座学で得た調査研究の基本を活かしながら、参与観察やインタビューなどを行う。授業の最後には全受講生による成果報告会を開き、討議と相互評価を行う。 1) オリエンテーション 2) 文化人類学的フィールドワーク入門① 3) 文化人類学的フィールドワーク入門② 4) 文化人類学的フィールドワーク入門③ 5) 参与観察の注意点 6) 聞き取り調査の注意点 7) フィールドノートの書き方・使い方 8) 記録の取り方・残し方 9) 資料の収集整理法 10) フィールドワークのテーマを設定 11) フィールドワーク計画書を作成 12) フィールドワーク実習① 13) フィールドワーク実習② 14) 調査データの整理と分析 15) フィールドワーク成果報告会				
成績評価方法	授業でのディスカッションへの積極的参加（30%）や、調査成果の発表およびレポートなど（70%）を総合的に判断する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
はじまりとしてのフィールドワーク：自分がひらく、世界が	李仁子・金谷美和・佐藤和久	昭和堂	2008		
授業時間外学習	1. 指定したテキスト等の予習について 授業当日までに、指定されたテキストや資料の該当箇所を読み、予習を行うこと。これは、全受講生にとって極めて重要であり、円滑な議論や理解の深化に不可欠である。 2. リアクションペーパーの提出について リアクションペーパーを提出すること。締め切りは 授業前日の（日曜日）23:59 までとする。期限を厳守すること。				
実務・実践的授業	×				
その他	対面とオンデマンド型オンライン授業の混合形態				

オフィスアワー	火曜日 3
更新日付	2025/03/03

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB11320				
科目名	カリキュラム論講義Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜2限				
担当教員	谷口 和也				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU227J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	グローバル教育とESD				
授業の目的と概要	本授業は、1980年代以降、数多く提唱されてきたグローバル教育やESDの授業について体験し、どのような系譜から生み出されて来たものか、どのような効果と問題点があるのかなどについて考えるものである。				
学習の到達目標	学習者は、現在のグローバル教育や「持続可能な発展のための教育」（Education for Sustainable Development：ESD）がどのような生まれ、どんな問題を持ち、それを克服するためにどのような教育が必要とされているかを理解する。				
授業内容・方法と進度予定	Part 1：グローバル教育とは何か？ 01：国際理解教育の系譜 02：国際理解教育とグローバル教育（「一本のバナナから」「地球がもし100人の村だったら」） 03：シミュレーション・ゲームとグローバル教育（「Bafa Bafa」「貿易ゲーム」） Part2：グローバル教育の限界とは？ 04：グローバル社会を学習しないグローバル教育（「ワールド・スタディズ」） 05：グローバル教育でわからなくなること（「貿易ゲーム」） 06：カウンター・イデオロギーとしてのグローバル教育（「エゴイストの権利のランキング」） 07：普遍性と多様性をどのように両立させるのか？ Part3：ESDとは何か？ 08：「持続可能な発展のための教育（ESD）」はどのように導入されたか？ 09：従来型ESDの限界 10：Global Citizenship Education（GCE）に見られるグローバル教育の系譜 11：GCEはどのような限界を持っているか？ Part4：シティズンシップ教育としてのESD 12：環境問題における市民のジレンマ（「ESICS版ダイヤモンド・ランキング」） 13：持続可能性とエンパワーメントを基盤としたESDの再構築（「持続可能な社会のためのインジゲーター」） 14：社会的合意形成と政治的意思決定（「人生に必要なもの」「私たちが維持するもの」） 15：50年先までつづく幸せのために（「バック・キャストिंग」「未来へのタイム・ライン」）				
成績評価方法	毎時間内の小レポート（70%）と作成物の提出（30%）で評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	毎時間の終わりに、次回授業の基本的な問題を考える課題を与える。
実務・実践的授業	×
その他	
オフィスアワー	火曜日12時～13時
更新日付	2025/03/06

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB12110				
科目名	教育情報デザイン論演習Ⅰ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜3限				
担当教員	中島 平				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EIA311J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	AIと協力しつつ真剣に実践し続ける力を育む				
授業の目的と概要	何か困難なことをやり遂げようとするならば、長い期間にわたって強い意志を保ち、努め励み続ける必要がある。 一方で、近年の生成AIの進化によりAIと協力して励むことで、自分一人では到達不可能なところまで広く・深く探求することができるようになってきた。 この授業では受講者自身がAIと協力しつつ、日々真剣に実践し続ける力を養うことを目的とする。 その目的を達成するために、受講者は自分自身に合う目標を決め、それに向かって毎日努力することが求められる。 その毎日のプロセスの中で、古今の努力を継続するための方法を試す。 試した内容をクラス内でディスカッションをしつつ、自分に合うものと合わないものを取捨選択し、あるいは自分に向けた新しい方法を見出していく。				
学習の到達目標	1. 受講者自身にとって、長期間継続できるような目標を見出せる。 2. 自分に合った、努力を継続できる方法を見出せる。 3. 自分に合った生成AIとの協力関係を構築し、実践に活かすことができる。 4. セメスターの間、努力を継続できたことを証明できる。				
授業内容・方法と進度予定	下記の内容を受講者の進度に合わせて行う。進度によっては、より高度な内容を導入することがある。 ・なぜ継続して努力する必要があるのか？ ・目標の仮設定。まずやってみる。 ・AIとの効果的な協力方法。 ・自分に向けた目標とは。 ・クラス内での経験のシェア。 ・古今の努力継続法、GRIT。 ・目標・方法の改善。 ・振り返り。 ・自分に向けた方法と向かない方法。 ・科学で証明されているけれど、自分には合わないこと。 ・まとめ				
成績評価方法	・ほぼ毎回の小レポート(20%) ・授業内外での授業目標を達成するための活動(40%) ・最終レポート(20%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

実務・実践的授業	×
その他	この授業では、知識の習得よりも実際に能力や態度を身につけることが中心となる。 それゆえに、授業に参加するだけで単位を得ることは難しく、毎日の授業時間外での活動が必要となる。
オフィスアワー	木曜１限(事前に連絡をお願いします)
更新日付	2025/02/28

1単位の授業科目は、4 5時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については1 5～3 0時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）3 0～1 5時間、「実験、実習及び実技」については3 0～4 5時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）1 5～0時間です。

授業コード	PB11310				
科目名	人間形成論演習Ⅲ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜3限				
担当教員	李 仁子				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU303J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	人間形成に関わる文化人類学的フィールドワークの演習				
授業の目的と概要	フィールドワークは、実証科学の非常に有効な調査方法の一つである。と同時にそれは、自己理解を深めるとともに新たな他者理解を開くための手法でもある。しかし、そのやり方はただ講義を聞いただけでは絵に描いた餅であり、実際に現場で体験してみないことには習得は難しい。そこで、この実習では、まずフィールドワークの方法を文献等から学んだ上で、自らも実践を試みることで、自分で実際に使えるツールとして身につけることを目指す。				
学習の到達目標	文化人類学的なフィールドワークを理論と実践の両面から学ぶことを通して、質的調査の具体的な技法を習得すると同時に、現場での実習を経る中で自分自身や他者をこれまでとは違ったまなざしでみつめられるようになることを目標とする。				
授業内容・方法と進度予定	授業の前半では、調査研究に関する教科書の文献や、文化人類学的なフィールドワークの成果である優れた民族誌を受講者全員で読む。同時にそれらについての自由なグループディスカッションを行い、理解を深めていく。その上で、頭で学んだフィールドワークの方法を現場で実践しながら自らの体験の中で鍛錬するために、各自テーマを設定し、フィールドワークを行う。今年度の調査地は、初回の授業で発表する。調査終了後には、調査結果の整理や資料化を行うと同時に、参与観察やインタビューをどのように分析していけばよいかを実践的に習得していく。 1）オリエンテーション 2）文化人類学的フィールドワークとは① 3）文化人類学的フィールドワークとは② 4）文化人類学的フィールドワークとは③ 5）民族誌のレビュー① 6）民族誌のレビュー② 7）民族誌のレビュー③ 8）民族誌のレビュー④ 9）フィールドワークの演習① 10）フィールドワークの演習② 11）フィールドワークの演習③ 12）フィールドワークの演習④ 13）調査資料の整理・分析① 14）調査資料の整理・分析② 15）フィールドワーク報告会（全受講生による成果報告と討議）				
成績評価方法	教室での発表やディスカッション（30%）、フィールドワークや整理作業等への積極的参加（40%）、報告会での成果発表など（30%）を総合的に判断する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学習	1. 指定したテキスト等の予習について 授業当日までに、参考図書や資料の該当箇所を読み、予習を行うこと。これは、全受講生にとって極めて重要であり、円滑な議論や理解の深化に不可欠である。 2. リアクションペーパーの提出について リアクションペーパーを提出すること。締め切りは 授業前日の（日曜日）23:59 までとする。期限を厳守すること。				
実務・実践的授業	×				
その他					

オフィスアワー	火曜日 3
更新日付	2025/03/04

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB11410				
科目名	教育相談（教育・学校心理学）				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜4限				
担当教員	安保 英勇				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY202J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	学校における諸問題の理解と対応				
授業の目的と概要	不登校・いじめなど児童生徒を取り巻く学校環境、そしてニート・ひきこもりなど青年のキャリア形成に、種々の問題が指摘されて久しい。この授業では、それらの問題とその対応についての基礎的な理解を目指し講義を行う。具体的な理解の促進のため、視聴覚教材も適宜用いる。				
学習の到達目標	1. 児童・生徒の問題行動や不適応行動についてその概要を理解する。 2. 学校内外における教育相談や生徒指導、支援の概要を理解する。 3. 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法について理解する。				
授業内容・方法と進度予定	1. オリエンテーション 2. 教育相談と生徒指導 1 3. 教育相談と生徒指導 2 4. カウンセリングの理論と方法 1 5. カウンセリングの理論と方法 2 6. いじめの動向 1 7. いじめの動向 2 8. いじめへの対応 1：個別事例への対応 9. いじめへの対応 2：予防と組織的対応 10. 不登校の動向 1：児童生徒のストレスと不登校の概況 11. 不登校の動向 2：不登校の関連要因 12. 不登校への対応 13. 発達障害の理解と対応 14. 進路相談とキャリア教育 15. まとめと試験				
成績評価方法	受講態度：20%、試験：80%				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	参考書等の講読。
実務・実践的授業	×
その他	試験を受けるためには、全体の 3 分の2以上の出席を要する。
オフィスアワー	火曜日、13-15時
更新日付	2025/02/27

1単位の授業科目は、4 5 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については1 5 ～ 3 0 時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）3 0 ～ 1 5 時間、「実験、実習及び実技」については3 0 ～ 4 5 時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）1 5 ～ 0 時間です。

授業コード	PB12340				
科目名	教育学概論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜4限				
担当教員	李 仁子				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU203J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	現代教育学の課題				
授業の目的と概要	本授業は、伝統的な教育学の枠組みにとどまらず、教育を広義に捉え、学校教育だけでなく、地域社会や文化、ライフコース全体における学習のあり方を考察する。教育を「人間の社会的営み」として捉え、歴史的・文化的背景の中でどのように形成されてきたのかを考えることを目的とする。				
学習の到達目標	1 教育の多様な形態を理解する ・学校教育だけでなく、地域社会や文化、ライフコース全体における学習のあり方を説明できる。 2 教育の歴史的・文化的背景を考察する ・教育が社会的・文化的要因とどのように関わりながら形成されてきたかを分析できる。 3 現代の教育課題について批判的に検討する ・グローバル化や社会変動に伴う教育の課題を理解し、自らの視点を持って議論できる。				
授業内容・方法と進度予定	第1回 オリエンテーション 第2回・第3回 教育の基本的概念 第4回・第5回 教育の歴史的変遷と社会との関係-教育人類学的視点 第6回～第8回 教育現実の諸問題（1）：「生涯学習」 ・第6回：生涯学習の理念と実践（講義） ・第7回：生涯学習に関する課題の考察（小レポート作成） ・第8回：生涯学習の意義と課題についての討論 第9回～第11回 教育現実の諸問題（2）：「地域社会」 ・第9回：地域社会における教育の役割（講義） ・第10回：地域社会と教育の関係に関する考察（小レポート作成） ・第11回：地域教育の可能性と課題についての討論 第12回～第14回 教育現実の諸問題（3）：「心のケア」 ・第12回：教育における心のケアと支援の重要性（講義） ・第13回：心のケアに関する課題の考察（小レポート作成） ・第14回：教育現場における心のケアの実践についての討論 第15回 総括：現代教育学の課題と展望 現代教育の諸課題を整理し、今後の展望について総括的に議論 最終課題 レポート作成				
成績評価方法	毎回の議論への意欲的な取り組み、毎回のコメントペーパーの提出、学期末のレポートの成果、等々から総合的に判断する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
暇と退屈の倫理学	國分 功一郎	新潮文庫	2021		

授業時間外学習	グループ討論及び課題のための授業時間外学修
実務・実践的授業	×
その他	【対面とオンデマンド型オンライン授業の混合形態】
オフィスアワー	参考資料 ”李仁子・金谷美和・佐藤和久『はじまりとしてのフィールドワーク：自分がひらく、世界がかわる』昭和堂、2008
更新日付	火曜日 3
	2025/03/06

1単位の授業科目は、4 5 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については1 5 ～ 3 0 時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）3 0 ～ 1 5 時間、「実験、実習及び実技」については3 0 ～ 4 5 時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）1 5 ～ 0 時間です。

授業コード	PB11430				
科目名	教育情報アセスメント実習				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜4限、月曜5限				
担当教員	松林 優一郎、中島 平、久保 沙織				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EIA381J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	プログラミング学習を通じた STEAM 型汎用スキルの獲得				
授業の目的と概要	「情報処理能力」「論理的思考能力」「批判的思考能力」は、これからの知識基盤社会において、学術研究はいうまでもなく、企業人・社会人としてさまざまな仕事に取り組む上で、必須の汎用的スキル・能力です。しかし、その複雑な仕事を組織的に効率よく進めていくスキル・能力を修得する上で、プログラミング実習が極めて有効であることはあまり知られていません。本演習では、自由度の高いデータ処理能力を持つ R、業務効率化に最適なプログラミング言語 Google Apps Script（GAS）、ビッグデータの処理や AI 開発などで盛んに利用されている Python の「プログラミング・スキル」習得を通してこうした能力の修得を目指します。教育心理学コースの方にも役立つ、汎用的な内容の教育学実習です。 本授業はコンピューター実習室における実習方式を採用します。				
学習の到達目標	・プログラミング・スキルの初歩がマスターできます。 ・速くて無駄のないシンプルな仕事への方向づけができるようになります。 ・情報の整理や解決すべき問題の切り分けなどができるようになります。				
授業内容・方法と進度予定	第1回 オリエンテーション 第2回 オリエンテーション 第3回 R による統計分析（基本操作、ファイル、データフレーム処理） 第4回 R による統計分析（各種統計量の算出とグラフ作成） 第5回 R による統計分析（プログラミング入門） 第6回 R による統計分析（重回帰分析、統計的仮説検定） 第7回 業務効率化に最適なプログラミング言語 Google Apps Script（GAS）って何？ 第8回 GASでメルマガ配信システムを作ってみる。 第9回 GASでGoogle Spreadsheet の操作を自動化する。 第10回 GASでやってみたい事を考えて、手をつけてみる。 第11回 Python 入門 Python による文書の自動分類（概要） 第12回 Python による文書の自動分類（ファイルと文字列の操作） 第13回 Python による文書の自動分類（文書からの特徴量抽出） 第14回 Python による文書の自動分類（文書の自動分類） 第15回 総括				
成績評価方法	実習への参加状況 10%、課題への取り組み状況 90%				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
		</			

授業時間外学習	なし
実務・実践的授業	×
その他	(Googleクラスルーム対応) クラスコード: fv2ahe4
オフィスアワー	教室変更等、重要な連絡をすることがあるので、Googleクラスルームによる連絡の確認を随時行うこと。 各教員の情報を参照のこと。
更新日付	2025/03/03

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB11510				
科目名	産業・組織心理学				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜5限				
担当教員	若島 孔文				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY248J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	産業・組織心理学				
授業の目的と概要	この授業の目的は、産業・組織心理学について学ぶことである。産業・組織心理学では、個人の心理および集団力学の理解を通して、労働者の行動と組織の特性を考えていくことができるようになることである。				
学習の到達目標	①産業・組織心理学の理論を概観し、理解する。 ②それらの知識を実際の問題に適用し、問題解決の見通し、見立てを得られるようになること。				
授業内容・方法と進度予定	授業では以下のことを扱います。 はじめに 第一部 産業・組織心理学の基礎 産業心理学とは 組織心理学の誕生 組織心理学の前提 産業・組織心理学の定義 産業・組織心理学と公認心理師 組織の構成の原則 産業・組織心理学の基本的要因 日本における働き方の課題 第二部 継続的に働くために 継続的に働ける人材の予想＊ ワークファミリーコンフリクト＊ ハラスメント＊ 第三部 仕事への取り組み 目標設定の重要性 X理論Y理論 達成動機理論 欲求と行動 仕事における満足度 職務特性論 第四部 動機づけを高める 動機づけを高める キャリア開発プログラム コーチング 小集団活動 組織開発＊ コミットメント 第五部 グループダイナミクス 集団規範と逸脱者への圧力＊ 影響力の源泉 集団凝集性 課題遂行と集団 集団での決定＊ リーダーシップ 第六部 関連する法律 注） コロナ感染状況によりオンライン meet になる場合があります。必ずGoogle Classroom を参照してください。				
成績評価方法	質疑等の参加状況、受講態度（40%）、複数回の小レポート（60%）で評価する。すべての小レポートの提出を単位取得の要件とする。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	新聞や本などを通して、現代における労働関係の問題を考えるようにしてください。 参考資料等については各授業時に適宜指示する。				
実務・実践的授業	○（企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う）				
その他					
オフィスアワー	月曜日13時から16時20分				
更新日付	2025/02/05				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB12120				
科目名	福祉心理学				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜1限				
担当教員	神谷 哲司、野口 和人				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY247J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	福祉心理学				
授業の目的と概要	障害者、子ども家庭、高齢者等の福祉を中心に、社会福祉の理念や制度を踏まえ、それぞれの現場で生じている心理社会的な問題を理解し、適切な支援とはなにかについて考える。				
学習の到達目標	1) 障害者、子ども家庭、高齢者といった主だった社会福祉の基本的な理念や制度を理解する 2) 福祉現場で生じている問題とその背景を説明し、必要とされる心理的支援を活用できる				
授業内容・方法と進度予定	1) イントロダクション & 障害児・者の福祉に関わる歴史と基本的理念 2) 障害のある子どもの乳幼児期における心理社会的課題と支援 (1) 3) 障害のある子どもの乳幼児期における心理社会的課題と支援 (2) 4) 障害のある子どもの学齢期における心理社会的課題と支援 (1) 5) 障害のある子どもの学齢期における心理社会的課題と支援 (2) 6) 障害のある青年・成人における心理社会的課題と支援 7) 中途障害の子ども・成人における心理社会的課題と支援 8) 子ども家庭福祉の理念と制度 9) 児童虐待とその支援 10) 子ども家庭福祉に関する心理社会的課題と支援 (1) 11) 子ども家庭福祉に関する心理社会的課題と支援 (2) 12) ひとり親家庭とその支援 13) 貧困家庭とその支援 14) 高齢者福祉に関する心理社会的課題と支援 15) 試験とまとめ (講義の内容や順番は変更の可能性あり) 【授業実施方法】 ・原則、対面授業とする。 ・その他詳細は、Google Classroomにて周知する。クラスコード：mmn2f7z				
成績評価方法	毎講義時のコメント (30%) 及び期末試験 (70%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間内に指示する。					

授業時間外学習	授業時間内に指示する。
実務・実践的授業	×
その他	オフィスアワーは別記のとおりだが、原則、在室時は可能な範囲で対応いたします。ただし、確実な対応を期待する場合は、事前に約束を取り付けてください。
オフィスアワー	木曜日4時限目（神谷） 火曜日3時限目（野口）
更新日付	2025/03/03

1単位の授業科目は、4 5 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については1 5 ～ 3 0 時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）3 0 ～ 1 5 時間、「実験、実習及び実技」については3 0 ～ 4 5 時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）1 5 ～ 0 時間です。

授業コード	PB12210				
科目名	人間形成論演習Ⅰ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜2限				
担当教員	澤田 哲生				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU301J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	モーリス・メルロ＝ポンティの『ソルボンヌ講義』講読				
授業の目的と概要	20世紀のフランスを代表する現象学者、モーリス・メルロ＝ポンティ『ソルボンヌ講義』を精読し、その内容を検討することで、人間形成における「教育」と「発達」の問題を考察する。				
学習の到達目標	学生が哲学的な文献を丹念に読み込み、自発的にテーマを見つけ、検討する能力の獲得。				
授業内容・方法と進度予定	『ソルボンヌ講義』の「意識と言語の獲得」（1949-50年度）を毎回読み進める。 第1回：演習の方法の説明 第2回：学生による翻訳、レジュメの発表、討論、教師による解説 第3回：学生による翻訳、レジュメの発表、討論、教師による解説 第4回：学生による翻訳、レジュメの発表、討論、教師による解説 第5回：学生による翻訳、レジュメの発表、討論、教師による解説 第6回：学生による翻訳、レジュメの発表、討論、教師による解説 第7回：学生による翻訳、レジュメの発表、討論、教師による解説 第8回：学生による翻訳、レジュメの発表、討論、教師による解説 第9回：学生による翻訳、レジュメの発表、討論、教師による解説 第10回：学生による翻訳、レジュメの発表、討論、教師による解説 第11回：学生による翻訳、レジュメの発表、討論、教師による解説 第12回：学生による翻訳、レジュメの発表、討論、教師による解説 第13回：学生による翻訳、レジュメの発表、討論、教師による解説 第14回：学生による翻訳、レジュメの発表、討論、教師による解説 第15回：まとめ ※学生の習得した外国語に応じて、フランス語の原文、英訳、日本語訳を配布する。				
成績評価方法	毎回の日本語訳の作成、発表要旨の作成、議論への参加、期末レポートから総合的に判断する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
Psychologie et pédagogie de l'enfant : Cours de Sorbonne 1949-1952	M. Merleau-Ponty	Verdier	2001		
Child psychology and pedagogy : the Sorbonne lectures 1949-1952	M. Merleau-Ponty	Northwestern University Press	2010		
意識と言語の獲得 ソルボンヌ講義1	M・メルロ＝ポンティ	みすず書房	1993		
子どもの心理-社会学 ソルボンヌ講義2	M・メルロ＝ポンティ	みすず書房	2023		
幼年期の現象学 ソルボンヌメルロ＝ポンティ	澤田 哲生	人文書院	2020		

授業時間外学習	毎回、翻訳とレジュメを準備しておくこと。演習後にテキストと他の資料を読み返しておくこと。
実務・実践的授業	×
その他	
オフィスアワー	毎週月曜日17:00-18:00
更新日付	2025/02/11

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB12220				
科目名	教育心理学演習 I				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜2限				
担当教員	工藤 与志文				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY311J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	教育心理学文献講読				
授業の目的と概要	教育心理学の研究論文、特に教授学習に関する実験的研究に関する論文を講読することで、教育心理学研究の具体的内容を知るとともに、研究の方法やまとめ方を学ぶ。				
学習の到達目標	①心理学研究論文を読解するための基本概念を理解する。 ②心理学研究を進めるための具体的な方法、研究をまとめる際の論述構成法を理解する。 ③多様な研究領域を知り、研究に対する興味を高める。				
授業内容・方法と進度予定	教育心理学関連学会誌（教育心理学研究、発達心理学研究、教授学習心理学研究など）の掲載論文を取り上げる。毎回、報告担当者がレジュメを作成し、著者の立場にたって論文を紹介する。指定討論者は、批判的な観点から討論すべき点を指摘する。それらをふまえ、全員で議論する。				
成績評価方法	報告担当者および指定討論者としての貢献度（40％）、議論への参加度（30％）、期末レポート（30％）で評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学習	あらかじめ指定された文献を読み、内容を理解しておくとともに、必要に応じて事前学習を進める。				
実務・実践的授業	×				
その他	連絡先 : yoshifumi.kudo.d6@tohoku.ac.jp (Googleクラスルーム対応) クラスコード isz6bt2				

オフィスアワー	毎週月曜 4 講時
更新日付	2025/02/27

1 単位の授業科目は、4 5 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1 単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については1 5 ～3 0 時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）3 0 ～1 5 時間、「実験、実習及び実技」については3 0 ～4 5 時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）1 5 ～0 時間です。

授業コード	PB12230				
科目名	生涯学習論演習Ⅱ（社会教育経営論演習）				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜2限				
担当教員	石井山 竜平				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU324J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	自治を築く学び				
授業の目的と概要	子育て、環境問題、地域福祉など、暮らしの質を良くするために取り組まれている市民の学習と行動に着目し、そのような営みを支える社会教育実践の実際をとらえる。さらに、それらをふまえつつ、ゼミ参加者それぞれの教育経験を振り返りながら、「教育とは何か」をあらためて考えあう。				
学習の到達目標	地域でいかなる学習実践が組み立てられているのか、その実際についての基礎的理解とともに、そうした学習を組み立てるための基礎的な素養を培う。				
授業内容・方法と進度予定	こちらで用意した論文や実践記録を素材に、学生相互で議論を行う。事前に、報告者と司会者を決め、演習当日は、報告者による論文・実践記録の内容紹介と論点の提案を受け、司会者の進行にもとづき、全員参加の議論を行う。検討する実践記録や論文は、参加者の関心や議論の方向に応じて適宜調整する。				
成績評価方法	討議への参加度、議論の深まりへの貢献度、最終レポートから、総合的に評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学習	外での生涯学習プロジェクトへの参加を授業の一環として位置づけることがある。授業内で指示する。				
実務・実践的授業	×				

その他	受講希望者数がディスカッションを行いきい規模に達したときには、人数制限がありうること、 ご容赦いただきたい。 (Googleクラスルーム対応) ①クラスコード exgtlpr ②第一回授業の開始時期 4月8日(火) 2限10:30から開始 ③授業の実施方法 初回は対面で行う。その後オンラインも活用する場合もありうる。 ④関連資料の入手方法 Classroom で紹介する。
オフィスアワー	前期は火曜4限、後期は金曜3限
更新日付	2025/02/26

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB12240				
科目名	教育政策科学演習Ⅲ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜2限				
担当教員	後藤 武俊				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU323J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	現代学校改革の理論的諸問題				
授業の目的と概要	いつの時代でも学校は改革論議の焦点とされてきたが、そこで提示されてきた論点や課題には、近代的制度としての学校の本質や矛盾を突くものから、政治・経済・社会の変動に即して徐々に変容してきたものまで、様々なものがある。本演習では、主に1990年代以降の学校改革において焦点とされてきた原理的・理論的課題（教育の公共性、新自由主義、教育を受ける権利の保障等）について、主要な文献を読み進めながら理解を深めることを目的とする。				
学習の到達目標	・2000年代以降の学校改革の動態について原理的かつ構造的に把握できるようになる。 ・教育学および教育行政学で用いられる主要概念を理解できるようになる。 ・教育学および教育行政学の主要概念を用いて論証を展開できるようになる。				
授業内容・方法と進度予定	参加者の数に応じて小グループを形成し、グループ内ディスカッションを中心とする授業を行う（対面実施）。参加者は毎回、課題論文を読んで、感想や疑問をワークシートに記入してることが求められる。授業では、教員がはじめに課題論文のポイントと論点について解説し（約30分）、その上でワークシートに基づくディスカッションをグループごとに行う（約30～40分）。最後に、グループごとにディスカッションの成果を発表し、教員がコメントや補足説明を加えていく。 1. オリエンテーション／学校改革の動態と主要争点 2. ガバナンス改革と教育の質保証 ☐ 3. 教育は誰のものかー格差社会のなかの「学校選び」 ☐ 4. 現代教育政策の公共性分析 ☐ 5. 教育主体の多様化に対する公財政支出の公共性確保 ☐ 6. 多様な教育機会の確保と学習権保障 ☐ 7. 生活・生存保障と教育をむすぶもの／へだてるもの ☐ 8. 義務教育としてのホームスクールの制度原理 ☐ 9. 「内なるグローバル化」による日本型公教育の「揺らぎ」 ☐ 10. NPM改革下におけるコミュニティ・スクールの行方 ☐ 11. 「就学」と「通学」の分離による普通教育機会保障制度の再構築 ☐ 12. 新しい日常における学習機会の多様化とその影響 ☐ 13. 別様な市民が創るオルタナティブな学び場の公共性 ☐ 14. 1970～80年代の学校論・公教育批判と夜間中学における越境的教育実践 15. まとめ				
成績評価方法	ワークシートへの評価（52%）、毎回の授業へのコメント（13%）、最終レポート（35%） ※ワークシートについては、書き込みの量と質に即して評価します（最大4点）				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	・論文の熟読（毎回）。 ・ワークシートへの記入（毎回）。
実務・実践的授業	×
その他	・授業実施方法：基本的に対面で実施する。対面でのグループワークも行うが、そうした活動に支障がある学生は事前に相談すること。 ・クラスコード：ifjixxb ・受講要件：特になし。 ・E-mail: taketoshi.goto.a8@tohoku.ac.jp
オフィスアワー	木曜10:30~12:00
更新日付	2025/02/28

1単位の授業科目は、4 5 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については1 5 ～ 3 0 時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）3 0 ～ 1 5 時間、「実験、実習及び実技」については3 0 ～ 4 5 時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）1 5 ～ 0 時間です。

授業コード	PB12250				
科目名	教育方法・技術論（ICT活用含む）				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜2限				
担当教員	谷口 和也				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU238J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	教育の方法と技術				
授業の目的と概要	本授業では、学習者は教育方法とカリキュラムの相互関係を理解した上で、授業に最適な教育方法を使えるようになることを目的としている。				
学習の到達目標	本授業では、学習者は教育目的に最適な授業方法と評価方法を選択できるとともに、アクティブ・ラーニングの授業やGIFアニメ、ARを実際に作成できるようになる。				
授業内容・方法と進度予定	パート1：教育の方法と技術に関する基本的な課題（Part1: The Basic Perspectives on the Relation between Curriculum and Education Method） 01：カリキュラムの多様性（The diverse of curriculum） 02：学校・子ども・カリキュラム（Aim of schools, nature of children and curriculum） 03：なぜ参加型学習が必要とされるのか（Why active learning is required now?） 04：議論を引き出す基礎基本とは？（What is the “Basic” in active learning） パート2：グローバル化時代の学力観と授業方法（Part2: Education in the Global Era） 05：教科書に掲載された新しい教育方法（New method featured in textbooks） 06：「正解のない問題」にどう取り組ませていくか（Questions without correct answers） 07：道徳教育における「主体的・対話的な深い学び」（Moral education and active learning） 08：持続可能な発展のための教育（Active learning in ESD） 09：アクティブ・ラーニングをどう評価するか？（How can we evaluate these learnings） パート3：授業におけるデジタル技術とその課題（Part3: Digital Technologies for Schools） 10：シミュレーション・ゲームで分からなくなるもの（Simulation games sometimes hind students understandings） 11：21世紀のシミュレーション・ゲームの特徴（Recent simulation games featured in textbooks） 12：授業で使えるGIFアニメの作成（Making GIF animation for classes） 13：拡張現実技術（AR）の授業での使用とその問題点（Use of AR in classes and its problem） 14：授業におけるメタバースの使用とその効果（What is effectiveness of using the metaverse in education?） 15：Chat GPTの使用を前提とした授業と学習評価（Learning evaluation based on using Chat GPT）				
成績評価方法	毎時間内の小レポート（70%）と作成物の提出（30%）で評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	各時間に、次回の授業の基礎となる課題を課す。
実務・実践的授業	×
その他	
オフィスアワー	火曜日12:00~13:00
更新日付	2025/03/06

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB12310				
科目名	教育文献講読				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜3限				
担当教員	鷺谷 洋輔、吉田 沙蘭、松林 優一郎				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU202J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	教育文献講読				
授業の目的と概要	この授業科目は教育学部の必修科目であり、教育学、教育心理学および教育情報アセスメント分野の論文、とりわけ英語文献を検索、収集および読解する能力を育成することを目的としている。				
学習の到達目標	学習者は、教育学、教育心理学および教育情報アセスメント分野の論文、とりわけ英語文献の読解を通じて、以下の3点を身につける。 ①英語文献収集および読解にかかわる基本的な技能 ②教育学や教育心理学の英語論文にかかわる専門的な知識の基礎 ③実際の教育学や教育心理学、教育情報アセスメント分野の論文の読解力				
授業内容・方法と進捗予定	授業は教育情報アセスメント分野、教育心理学分野、教育学分野ごとにその分野を専門とする教員が担当となり、以下の3セッション構成で進める。なお、#の後の数字は回数を示す。 第1セッション：教育情報アセスメント分野における文献の講読（担当：松林） ・特定の分野で文献を探す・読む際の心構え（#1） ・学習段階別の論文の探し方、効率の良い読み方（#2） ・多読と精読、多読のポイント（#3） ・精読と深掘り（#4-5） 第2セッション：教育心理学分野における文献の講読（担当：吉田） ・教育心理学分野における文献の特徴、論文の読み方（#6） ・教育心理学分野の論文を読む：論文の構造を理解する/批判的に読む（#7-9） ・教育心理学分野の論文を読む：情報収集の方法/興味のある論文を読む（#10） 第3セッション：教育学分野における文献の講読（担当：鷺谷） ・教育学分野における文献の概観（#11） ・関連する学術論文等の読み方、キーワードの考え方と探索（#12～14） ・まとめ（#15）				
成績評価方法	各回における文献の講読、レポート等の課題への取り組みや成果物によって総合的に評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	予習すること。
実務・実践的授業	×
その他	3人で行う授業であるため、特定の教員の授業で出席や課題の提出等を怠ると単位が取れなくなる恐れがあるので、留意すること。 (Googleクラスルーム対応) ①クラスコード shrahqz ②第一回授業の開始時期 4月8日(火)3限:13:00～ 全体のオリエンテーションと初回の講義 ③授業の実施方法 3名の教員のオムニバスのため、Meetを用いた双方向授業、Classroomに資料と課題をアップ等教員によって実施方法が異なります。 それぞれの教員の実施方法については、各Part開始前にClassroomでアナウンスします。 ④関連資料の入手方法 授業用の動画・資料・課題等はClassroomで紹介 ⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策 個別に相談(全体に関することは佐藤誠子(seiko.sato.ai@tohoku.ac.jp)へ、個別の授業については各担当回の担当教員(初回授業時にアナウンス)へ連絡のこと Eメールにて調整(yosuke.washiya.a8@tohoku.ac.jp)
オフィスアワー	
更新日付	2025/03/03

1 単位の授業科目は、4 5 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1 単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については1 5 ～3 0 時間に授業および授業時間外学修(予習・復習など)3 0 ～1 5 時間、「実験、実習及び実技」については3 0 ～4 5 時間の授業および授業時間外学修(予習・復習など)1 5 ～0 時間です。

授業コード	PB12320
科目名	海外教育演習
単位数	2.0単位
曜日・講時	火曜3限
担当教員	劉 靖
担当教員（所属）	
科目ナンバリング	PES-EDU335E
使用言語	英語
主要授業科目	○
授業題目	Education and Social Changes in East Asia: Understanding education and development in China
授業の目的と概要	With a rapid socio-economic development in the past 40 decades, China has become one of the leading economies in the world. However, in the recent years, there is an emerging concern on imbalanced development, social inequality, sustainable development and well-being of Chinese people in China. The primary objective of this course is to deepen students' understanding of China and the role of education in China's development through fieldwork in Nanjing and Beijing. The course includes four parts. It starts with the introduction of education and social changes in East Asia. Also, it gives specific focus on education and social changes in Taiwan. In the 2nd part, it provides knowledge and skills of fieldwork, such as research proposal writing, interview methods, and research ethics. Group fieldwork will be conducted in Taiwan. In the last part, participants are required to submit a short group report of the fieldwork. The fieldwork will include visits to schools, universities, communities, and intercultural activities. Japanese students taking this course will have opportunity to apply JASSO Short-term Overseas Study Scholarship. And cost of air-ticket to China will be supported by Faculty of Education. More details will be explained in the course orientation.
学習の到達目標	Goals of study are to enable students to: (1) have a more comprehensive and more in-depth understanding of education and social changes in the context of East Asia and beyond, (2) obtain knowledge and skills of critically analyzing educational issues, (3) acquire fieldwork skills through group work in a foreign context, and (4) improve their communication skills through group work and foreign languages.
授業内容・方法と進度予定	In principle the class will be conducted on-site. In case there is a shift to online class, announcement will be made in advance. Week 1 Introduction -Education and social changes for a sustainable future -Why fieldwork? Week 2 Education and Social Changes -Paradigms -Achievements & Issues Week 3 Education and Social Changes in China (1) -Inequality in education -Imbalance in education Week 4 Education and Social Changes in China (2) -Alternative approaches for Quality education -Technology and education Week 5 Education and Social Changes in China (3) -College entrance examination (Gaokao) Week 6 Education and Social Changes in China (4) -Internationalization of higher education Week 7 Fieldwork 1 -Research proposal Week 8 Interim Presentation Week 9 Fieldwork 2 -Interview Week 10 Fieldwork 3 -Interview: Rehearsal Week 11 Fieldwork 4 -About China/Chinese language Week 12 Group Presentation of Research Proposal Week 13-15 Fieldwork (Fieldwork will be conducted in Nanjing and Beijing between September 21 and 29, 2025 (Tentative schedule))
成績評価方法	Class participation and engagement (20%) Group discussion and group fieldwork (50%) Final group report (30%)

教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学習	Active engagement in group work for class and fieldwork is highly recommended.				
実務・実践的授業	×				
その他	1. Active engagement in group work is highly recommended in this course. 2. Details of fieldwork trip for Beijing, schedule, and cost will be discussed and announced in the class. There is a selection if the number of participants is beyond the limitation of the course design. 3. English is the primary instruction language of this course. Although students are encouraged to speak in English, it is possible to join the discussion and class by speaking in Japanese if necessary. Also, Japanese reading materials and explanation will be provided in the class to encourage students' active participation. (Googleクラスルーム対応) Regarding Google Classroom ①クラスコード Class Code: jauwzcl ②第一回授業の開始時期 Schedule of 1st session ・第一回目の授業4月8日 (火) 13:00~から April 8 (Tue) 13:00- ③授業の実施方法 How to implement this class ・受講希望者は4月7日 (月) 正午までに劉までDCメールにて連絡をするように (jing.liu.e8@tohoku.ac.jp)。 Students who plan to take this class, please contact Prof. Jing Liu through jing.liu.e8@tohoku.ac.jp by April 7 (Mon). ④関連資料の入手方法 How to get teaching materials and reading assignment ・授業の資料については、授業開始前までにGoogle Classroomの共有ドライブにアップロード予定 (受講希望者を招待する)。Teaching materials and reading assignment will be uploaded to Google Classroom.				
オフィスアワー	4. Office hour: Tuesday 5th period				
更新日付	2025/03/02				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB12410				
科目名	教育行政学講義Ⅰ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜4限				
担当教員	青木 栄一				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU216J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	教育制度を支える教育行政				
授業の目的と概要	教育行政、学校、教職員に関する法制度・歴史・実態を講義する。 それらに関する主要な論点を議論する。 さらに教育行政を理解するために必要な視点の一つである社会科学的な「もののみかた」の基礎を養うことも本授業の目的である。				
学習の到達目標	教育行政組織、学校、教職員に関する法制度の基本的事項を理解する。 教育行政組織、学校、教職員に関する論点について社会科学的に考察する力を身につける。				
授業内容・方法と進度予定	【対面とオンデマンド型オンライン授業の混合形態】 Google Classroomクラスコード：cjsxqcro 第1回授業開始時期：2025年04月08日（火）4限：14:40～対面 授業の実施方法：オンデマンド方式（動画配信方式）と対面の混合にて実施する。まずオンデマンド教材を視聴し、その次の回は対面で解説を加えた後、ディスカッションを行う。 予習で関連資料・文献を読みリアクションペーパーを提出し、授業で動画を視聴し毎回フィードバックを送信し、復習でさらに関連資料・文献を読む。 関連資料の配布方法：全てGoogle Classroomで配布する。当該回の資料は前週月曜日23:59までにアップロードする。 オンライン授業への対応が困難な学生への対応：個別に担当教員に相談。 内容及び進度は以下の通りであるが、内容を変更する場合もある。 講義とリアクションペーパーを用いた質疑応答を中心とした授業とする。 毎回、授業のテーマについてディスカッションを行う。 04/08 1. イントロダクション-教育政策、教育制度、教育行政（対面） 04/15 2. 教員行政 就学前教育と幼稚園（オンデマンド） 04/22 3. 解説（対面） 05/13 4. 初等中等教育と学校 高等教育・私立学校行政と学校（オンデマンド） 05/20 5. 解説（対面） 05/27 6. 特別支援教育と学校・学校外教育 教育課程行政（オンデマンド） 06/03 7. 解説（対面） 06/10 8. 教育委員会と学校/学校と外部環境 学校施設・学校統廃合（オンデマンド） 06/17 9. 解説（対面） 06/24 10. 学校安全 地方教育政治/地方教育行政（オンデマンド） 07/01 11. 解説（対面） 07/08 12. 教育財政 教育行政の政府間関係（オンデマンド） 07/15 13. 解説（対面） 07/22 14. 中央政府/教育制度の法体系と原理（オンデマンド） 07/29 15. まとめ（対面） 期末テスト（授業内）				
成績評価方法	教科書は各自購入すること。 授業への出席及び授業への貢献とリアクションペーパーの提出は成績評価の前提条件となる。 成績評価：期末テスト（100%）。 【出席状況・リアクションペーパー】 期末テストの受験資格をこれらで判断する。 【授業資料】 授業に用いる資料はGoogle Classroom上に掲載する。これには講義を収録した動画データへのリンクも含む。これらを許可無くこの授業以外に用いてはならない。これらの本人以外の第三者への転送等は厳に禁じる。他者との共有目的のための授業資料のスクリーンショット、録画、録音も禁じる。 【授業】 担当教員の指示を遵守する。授業に関してSNSへの不適切な投稿等が発覚した場合、レポートの採点対象外とする。この授業については、他大学のものがあるが「中央大学 ソーシャル・メディア・ガイドライン（学生用）」<https://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/communication/social_media/st_guideline/>も本学のガイドラインに抵触しない限り適用する。 【レポート】 剽窃等の非違行為については学則等に即した対応を行う。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
教育制度を支える教育行政	青木栄一	ミネルヴァ書房	2019	978-4623085392	教科書

授業時間外学習	指定したテキスト等の授業当日の該当箇所を読み予習すること。これは全受講生にとって極めて重要なことである。 リアクションペーパーを投稿すること。締め切りは授業の前日月曜日の23：59である。 復習を必ず行うようにすること。 大学設置基準（第21条）の規定に基づいた自己学習（予習復習等）を行うことを強く推奨する（1回あたり4時間程度が標準）。				
実務・実践的授業	×				
その他	【対面とオンデマンド型オンライン授業の混合形態】 Google Classroomクラスコード：jvw5kys 授業中の各種SNSへの投稿行為等の不適切行為が判明次第、受講資格を喪失する。 担当教員ホームページ：http://researchmap.jp/read0124718/ 事前にメールでアポイントをとってください。				
オフィスアワー					
更新日付	2025/02/25				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB12420				
科目名	発達臨床論演習Ⅰ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜4限				
担当教員	長谷川 真里				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング					
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	発達科学の展開				
授業の目的と概要	社会性の発達についてのテキストを読み、最新の文献を批判的にレビューすることを通して、研究の動向を知る。				
学習の到達目標	社会・情動発達の基礎的な理論、および最新の研究動向を理解する。この領域の発達研究の手法を身につける。注）対象年齢は、主に乳幼児期、児童期、青年期である。				
授業内容・方法と進度予定	毎回、報告担当者がレジュメを作成し、発表する。 スケジュールは以下を予定する。 第1回 オリエンテーション 第2回-4回 発表準備（各自の作業） 第5回-13回 報告者による発表と討論(1) 第12回-15回 報告者による発表と討論(2) 教科書の中から1章選択し、概要およびテキストで紹介されたあるいは関連する実証研究論文を報告する。これらを通して、当該領域の議論のポイントと研究動向を理解する。 注）受講者数によって個人発表かグループ発表にするかを決定する。発表者と指定討論者のそれぞれを担当する可能性がある。それに合わせてスケジュールも変更される。				
成績評価方法	出席状況や課題レポートを総合的に評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
社会性の発達心理学	長谷川・佐久間・林	ナカニシヤ出版	2024	9784779517914	
授業時間外学習	あらかじめ資料を読み、議論の準備をする。				

実務・実践的授業	×
その他	授業の運営については、初回に説明する。 ・ Google Classroomのクラスコード：bktjlei ・ 第一回授業の開始時期：4月8日（火）4限 ・ 授業の実施方法：対面。欠席者に対するハイブリッド授業対応は行わない。 ・ 関連資料の入手方法：授業用の資料はClassroomで共有。受講者は必ず登録してください
オフィスアワー	火曜日 3 限
更新日付	2025/02/28

1単位の授業科目は、4 5 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1 単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については1 5 ～3 0 時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）3 0 ～1 5 時間、「実験、実習及び実技」については3 0 ～4 5 時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）1 5 ～0 時間です。

授業コード	PB12510				
科目名	発達障害学講義Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜5限				
担当教員	横田 晋務				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY213J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	発達障害の基礎的理解				
授業の目的と概要	発達障害の障害特性、アセスメントと支援の視点について知識的な理解を深める				
学習の到達目標	①発達障害の障害特性、アセスメントについて理解する ②事例などを通して発達障害児・者に対する支援に関して理解を深める				
授業内容・方法と進度予定	1 オリエンテーション 2 特別支援教育と発達障害 3 発達障害とは：自閉スペクトラム症の障害特性 4 発達障害とは：自閉スペクトラム症のアセスメントと支援 5 発達障害とは：ADHDの障害特性 6 発達障害とは：ADHDのアセスメントと支援 7 発達障害とは：限局性学習症の障害特性 8 発達障害とは：限局性学習症のアセスメントと支援 9 発達障害と社会的障壁 10 事例からみる自閉スペクトラム症 11 事例からみるADHD 12 事例からみる限局性学習症 13 発達障害者への支援の実際（心理発達支援） 14 発達障害者への支援の実際（就労支援） 15 まとめと試験				
成績評価方法	受講態度 20% 試験 80%				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	予習復習、および授業内で紹介された文献等の講読
実務・実践的授業	×
その他	
オフィスアワー	事前にE-mailで連絡すること。
更新日付	2025/02/05

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB13220				
科目名	学習心理学演習				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	水曜2限				
担当教員	佐藤 誠子				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング					
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	心理学からみた学力と学習支援				
授業の目的と概要	教科学習においては、「知識・技能」の獲得、「思考力・判断力・表現力」の育成、学習内容に対する「興味・関心・意欲」を高めることが期待されている。これらはいわば「学力」の三要素と呼ばれるものである。本演習では、これらの「学力」をどのようにとらえどのように支援すべきか、心理学の観点から検討をおこなう。				
学習の到達目標	・「学力」に関連する心理学の概念について理解する。 ・心理学からみた学びと学習支援のあり方について理解する。				
授業内容・方法と進度予定	テキストの章ごとに担当者を決め、その内容についてレジュメをもとに報告してもらう。また、必要に応じて、関連する参考文献についても紹介してもらう。 オリエンテーション 第1章 学力をとらえる視点 第2章 学習意欲を育む 第3章 個に応じた学習支援 補遺 第4章 習得の授業設計 第5章 探究の学習をどう進めるか 第6章 地域に広がる学習環境 補遺 第7章 学力の診断と評価 第8章 授業力と授業改善-教員研修のあり方 第9章 心理学からみた学力と学習支援のこれから まとめ				
成績評価方法	発表（30%）、議論への参加度（30%）、期末レポート（40%）				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
これからの学力と学習支援 心理学からみた学び	市川伸一	左右社	2023	4865283781	教科書

授業時間外学習	レポーターは担当章のレジメを作成する。他の受講生は、授業内で深い議論ができるように、あらかじめ討論のポイントをつかんでおくこと。
実務・実践的授業	×
その他	連絡先：seiko.sato.a1@tohoku.ac.jp Google Classroom クラスコード：724h2y6
オフィスアワー	火曜5講時 16:20～17:50
更新日付	2025/02/26

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、『講義・演習』については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、『実験、実習及び実技』については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB13230				
科目名	健康・医療心理学				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	水曜2限				
担当教員	吉田 沙蘭				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY246J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	健康・医療心理学				
授業の目的と概要	心身の健康とは何かを広い視野で考え、またそれが損なわれる原因について理解するとともに、心身の問題に対する具体的な支援の在り方について学ぶ。また援助法について、医療現場における心理援助職の役割と課題、医療現場で活用されている心理的援助法の理論や特徴について学ぶ。				
学習の到達目標	①心身の健康とそれが損なわれる要因との関係を理解する ②さまざまな心身の問題に対する支援の在り方、医療現場における心理的援助の役割と課題、具体的な方法論について説明できる				
授業内容・方法と進度予定	1. 健康心理学概論 2. 健康心理学におけるアセスメントと支援 3. 健康心理学の実際（1）ストレスマネジメント 4. 健康心理学の実際（2）各種の心理支援法 5. 医療心理学概論 6. 医療心理学におけるアセスメントと支援 7. 医療心理学の実際（1）精神科 8. 医療心理学の実際（2）院内独立型心理室 9. 医療心理学の実際（3）心療内科 10. 医療心理学の実際（4）小児科 11. 医療心理学の実際（5）緩和医療 12. 医療心理学の実際（6）産業保健 13. 地域保健活動 14. 災害心理学 15. 多職種協働と医療連携 / 期末試験				
成績評価方法	期末試験（100％）				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
公認心理師カリキュラム準拠 健康・医療心理学	宮脇裕他	医歯薬出版	2018	4263265777	教科書

授業時間外学習	事前に当該章を予習し、自らの疑問点を明らかにした上で授業に臨むこと。
実務・実践的授業	×
その他	※クラスコード：r6egvcb
オフィスアワー	月曜日：10-12時
更新日付	2025/02/18

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB14110				
科目名	教育学への招待				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜1限				
担当教員	長谷川 真里、島 一則、熊谷 龍一、佐藤 誠子、劉 靖				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU201J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	東北大学教育学部での学び				
授業の目的と概要	この授業科目では、東北大学教育学部で学ぶことになる広義の「教育学」の諸領域の紹介ならびにグループ学習を通して、東北大学教育学部において（広義の）教育学を学び、修めるために必要な基礎知識並びに基本的な視座、学びや研究に対する科学的な態度を涵養することを目的とする。				
学習の到達目標	1. 東北大学教育学部において、教育学を学ぶための基本的な態度を涵養する。 2. 教育に関する多様な研究テーマのありようを掌握するとともに、学術的なアプローチの多様性を理解する。				
授業内容・方法と進度予定	1 オリエンテーション：大学での学び、東北大学教育学部での学び 2 グループ調査①：問いの立て方、グループで協議、研究倫理（レポートの作法） 3 グループ調査②：グループごとのテーマ決定 4 グループ調査③：テーマに関する調査計画 5 教育学への招待（1） 6 教育学への招待（2） 7 教育心理学への招待（1） 8 教育心理学への招待（2） 9 教育情報アセスメントへの招待（1） 10 教育情報アセスメントへの招待（2） 11 教育学部の現代的な取り組み：UNESCO（60m）／AEL（30m） 12 グループ調査④：まとめ作業&発表資料作成（ポスターorパワポ作成） 13 グループ調査⑤：全体発表（1） 14 グループ調査⑥：全体発表（2） 15 グループ調査⑦：全体発表（3） 1 Orientation: Learning at the university, learning at the School of Education, Tohoku University 2 Group research（1）: How to formulate questions, group discussion, research ethics（report writing） 3 Group research（2）: Deciding on a theme for each group 4 Group research（3）: Research plan on the theme 5 Invitation to Pedagogy（1） 6 Invitation to Pedagogy（2） 7 Invitation to Educational Psychology（1） 8 Invitation to Educational Psychology（2） 9 Invitation to Educational Information & Assessment（1） 10 Invitation to Educational Information & Assessment（2） 11 Contemporary Approaches in the Faculty of Education 12 Group research（4）: Summary work & preparation of presentation materials 13 Group research（5）: Presentation（1） 14 Group research（6）: Presentation（2） 15 Group research（7）: Presentation（3）				
成績評価方法	講義時間内に課されるレポート、および最終レポート（50%） グループ発表への参加度、積極度、提出物、発表内容（50%）				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	1. 「招待」シリーズで課される宿題 2. グループ調査のテーマ策定に向けたワークシートの作成 3. 各グループのテーマに即した文献講読				
実務・実践的授業	1. Homework assignment at “Invitation” series. 2. Filling out worksheets to explore the theme of group research 3. Reading books and articles based on the theme of each group				
その他	x				
オフィスアワー	本授業はグループワークを必須とする。グループワークに関して合理的な配慮の必要な学生は事前に申し出ること。 本授業では資料等の配布のためGoogleClassroomを用います。クラスコードは4eaife3です。				
更新日付	各回の授業担当教員に問い合わせをしてください。				
	2025/02/28				
1単位の授業科目は、４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。１単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については１５～３０時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）３０～１５時間、「実験、実習及び実技」については３０～４５時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）１５～０時間です。					

授業コード	PB14120				
科目名	生涯学習論演習Ⅳ（社会教育演習）				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜1限				
担当教員	鷺谷 洋輔				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU326J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	身体文化とエスノグラフィー				
授業の目的と概要	エスノグラフィーという方法をたよりに、身体をめぐる多様な活動や実践をとらえることを目指す。				
学習の到達目標	エスノグラフィーの理論と実践に取り組み、その可能性と限界を理解する。				
授業内容・方法と進度予定	1）各自の関心に即した文献の発表、ディスカッション（学期前半） 2）各自のフィールドワークに基づく発表、ディスカッション（学期後半）				
成績評価方法	出席参加、発表、期末レポートから総合的に評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
適宜指示する					
授業時間外学習	各週の文献を読み、論点を整理すること フィールドワークの実施				
実務・実践的授業	×				
その他					
オフィスアワー	Eメールにて調整（yosuke.washiya.a8@tohoku.ac.jp）				
更新日付	2025/02/18				

1 単位の授業科目は、4 5 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1 単位の修得に必要な学修時間の目安は、『講義・演習』については1 5 ～3 0 時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）3 0 ～1 5 時間、『実験、実習及び実技』については3 0 ～4 5 時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）1 5 ～0 時間です。

授業コード	PB14210				
科目名	学習・発達論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜2限				
担当教員	佐藤 誠子、神谷 哲司				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY201J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	学習と発達の基礎				
授業の目的と概要	この授業では、人の発達と学習の基礎について学ぶとともに、発達と学習との関連、またそれらの関連に教育はどのようにかわるかを学ぶことを目的とする。				
学習の到達目標	1. 発達のメカニズムについて理解する。 2. 学習の原理・過程について理解する。 3. 発達、学習、教育の関連について理解する。				
授業内容・方法と進度予定	第1回：オリエンテーション（担当：神谷） 第2回：「発達」とはなにか？（担当：神谷） 第3回：「発達」の諸理論（担当：神谷） 第4回：「発達」概念の変遷（担当：神谷） 第5回：生物学的要因がイメージされる発達の側面（運動、知覚発達）（担当：神谷） 第6回：社会・文化的要因がイメージされる発達の側面（認知、社会性発達）（担当：神谷） 第7回：初期環境の影響と発達の可塑性（担当：神谷） 第8回：特別な支援ニーズと「教育福祉」問題（担当：神谷） 第9回：「学習」とはなにか？（担当：佐藤） 第10回：行動主義的学習論（1）（担当：佐藤） 第11回：行動主義的学習論（2）（担当：佐藤） 第12回：認知主義的学習論（1）（担当：佐藤） 第13回：認知主義的学習論（2）（担当：佐藤） 第14回：状況的学習論（担当：佐藤） 第15回：教育における学習と発達（担当：佐藤） 定期試験 ・授業の実施方法： 第1回から第8回まで（神谷担当）：対面授業を実施する。欠席者対応のハイフレックス授業は行わない。 第9回から第15回まで（佐藤担当）：対面授業を実施する。欠席者対応のハイフレックス授業は行わない。				
成績評価方法	試験（70%）とミニットペーパー（30%）により評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	第1回から第8回まで(神谷担当)：事前にGoogle Classroomから授業資料を入手し一読しておくこと。 第9回から第15回まで(佐藤担当)：「感想・質問」等を通じて授業内容を振り返るとともに、次の授業に向けての課題意識を持つ。
実務・実践的授業	×
その他	参考書等は授業時間内に指示する。 初回授業日までの連絡はGoogle Classroomを介して行いますので、登録しておいてください。 Google Classroom クラスコード：kq3oljb 連絡先： 神谷哲司 kamiya@tohoku.ac.jp 佐藤誠子 seiko.sato.ai@tohoku.ac.jp
オフィスアワー	メールにて連絡すること。
更新日付	2025/02/27

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB14320				
科目名	教育情報デザイン論演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜3限				
担当教員	熊井 正之				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EIA312J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	アクセシブルデザイン				
授業の目的と概要	この授業では、アクセシブルデザインとその評価について学び、教育情報学の研究に必要な基本的知識の習得を目指す。				
学習の到達目標	この授業の目標は、(1)アクセシブルデザインとその評価を理解し、説明できるようになること、(2)教育情報学の研究に必要な基本的知識を習得することである。				
授業内容・方法と進度予定	1. イントロダクション 2. アクセシビリティの問題 3-6. アクセシブルデザイン 7-8. 評価手法 9-12. 演習 13-15. 発表と討論 15. 総括 ・ Google Classroomのコード：xuhay3u ・ 第一回授業：4月10(木曜)13時から。 ・ 授業の実施方法：4/10は教室対面。その後は履修希望者数に応じた方式で実施予定。(詳しくはClassroomでお知らせします)。 ・ 関連資料の入手方法：授業の資料はClassroomで紹介。 ・ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策：個別に相談。 ・ 教室対面授業への対応が困難な学生への対応策：個別に相談。 ・ 欠席する場合には事前に申し出てください。				
成績評価方法	授業への参加（約15%）、演習・発表への取り組み（約50%）、複数のレポート（約35%）				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	課題に取り組むことを中心に、各回の配付資料を用いて復習すること。
実務・実践的授業	×
その他	
オフィスアワー	オフィスアワーは、木曜 13:00～17:00 とする。事前に E-mail 等で連絡すること。教員の連絡先は授業中に伝える。
更新日付	2025/02/25

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB14330				
科目名	教育政策科学演習Ⅰ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜3限				
担当教員	島 一則				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-S0C321J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	教育の経済・社会的効果の計測				
授業の目的と概要	本演習では、教育を通じて獲得されることが期待される人的資本・能力が実際に所得、健康、市民的関与、幸福などどのように関係するのかについて、計量的データと多変量解析等を用いて、実証的に考究していく。				
学習の到達目標	受講学生は、専門的知識・技能という観点からは、教育経済学領域において用いられるデータや計量的手法の基礎について学び、計量的分析手法の基礎を身につける。また、汎用的技能、態度・志向性という観点からは、チームでの作業や演習形式の授業を通じて、コミュニケーションスキル・論理的思考力・自己管理能力・批判的思考力、生涯学習力を向上させる。特に数量的スキルの向上に力点を置く。				
授業内容・方法と進度予定	1～7回：基礎的統計手法とSPSSの使用法 8～10回：各種データ入手若しくは構築 11～14回：教育と所得、健康、市民的関与、幸福の関係についての分析演習（ただしテーマは個人の関心に応じて幅広く対応する予定である） 15回：報告会				
成績評価方法	授業内容についての理解とコミットメント（70%）・最終レポート（30%）による。ただし、出席状況によっては受験資格を喪失する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学習	予習・復習については授業内容や関連文献に基づいて具体的内容を指示する。				
実務・実践的授業	×				
その他	授業中の発言など積極的な関与を求める。 クラスコード:6p3bjsh				

オフィスアワー	木曜日：12:00～13:00
更新日付	2025/03/03

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB14340				
科目名	発達心理学演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜3限				
担当教員	神谷 哲司				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング					
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	青年期・成人期における発達心理学研究の実際				
授業の目的と概要	青年期、成人期を対象とした発達心理学研究を講読することで、青年期・成人期に関する研究動向を把握するとともに、その研究手法について理解する。				
学習の到達目標	当該領域における心理学研究の動向を把握するとともに、基礎的な研究方法、論文の書き方について理解する。 青年期・成人期の発達に関する心理学的知見を体得する。				
授業内容・方法と進度予定	「発達心理学研究」「心理学研究」「教育心理学研究」「Developmental Psychology」「Child Development」等の心理学ジャーナルに掲載されている論文を読む。 毎回、発表の担当を決め、担当者は、上記のジャーナルを中心として自分の興味・関心に沿った論文を1編選び、まとめたものを報告する。それを踏まえ、全体で討論を行う。 1.オリエンテーション 2.心理学研究論文の読み方 3.～14.個々のグループによる研究発表と質疑応答・討論 15.全体のまとめ				
成績評価方法	授業時間内の研究報告(30%)、授業態度・討論への参加状況(40%)、期末レポート(30%)により評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学習	各回で発表される論文は、1週間前にレジュメとともに配布されるので、必ず精読してから授業に臨むこと。 また、担当した論文については、使用されている尺度項目や実験資材について可能な限り調べ、授業時間に資料として配布すること。 自ら主体的に疑問を提示し、その解決に臨む姿勢を求める。				
実務・実践的授業	×				

その他	初回授業時に発表の担当日を決めるので必ず出席すること。 連絡事項は、Google Classroomにて周知する。クラスコード : y2s4x3y
オフィスアワー	【1学期】 木曜日4時限目 【2学期】 木曜日3時限目
更新日付	2025/03/03

1単位の授業科目は、4 5時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、『講義・演習』については1 5～3 0時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）3 0～1 5時間、『実験、実習及び実技』については3 0～4 5時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）1 5～0時間です。

授業コード	PB14350				
科目名	発達障害学演習Ⅰ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜3限				
担当教員	野口 和人				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング					
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	発達障害学基礎演習				
授業の目的と概要	発達障害領域に関わる様々なトピックやインシデントの報告と、それらに関するディスカッション通じ、発達障害について、また発達障害のある人々が必要とする支援及び彼ら・彼女らの周囲の社会や環境における課題についての理解を深める。 受講者は、個人またはグループで発達障害に関わるトピックやインシデントを報告し、ディスカッションに参加する。どのようなトピックやインシデントを報告するのかは、個人またはグループで選択すること。				
学習の到達目標	①発達障害領域の基本的な概念、支援等について理解する。 ②発達障害のある人々を取り巻く社会や環境における課題とその解決策について理解する。				
授業内容・方法と進度予定	○授業の実施方法： ・授業は対面方式で実施します。 ・受講者の人数によって、具体的な実施方法を調整します。詳細はガイダンスの際に説明します。 ○関連資料の入手方法：必要な資料はクラスの共有ドライブを利用して配付します。 1. ガイダンス（Guidance） 2. ～ 7. トピックないしはインシデントの報告とグループディスカッション (Topic/incident reporting and group discussion by students or groups.) 8. 全体討論 (General discussion) 9. ～ 14. トピックないしはインシデントの報告とグループディスカッション (Topic/incident reporting and group discussion by students or groups.) 15. 全体討論 (General discussion)				
成績評価方法	平常点 (60%)，レポート (40%) により評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学習	毎回の授業において指示する。				

実務・実践的授業	×
その他	
オフィスアワー	前期：火曜日3限目 後期：木曜日3限目
更新日付	2025/03/03

1単位の授業科目は、4 5時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については1 5～3 0時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）3 0～1 5時間、「実験、実習及び実技」については3 0～4 5時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）1 5～0時間です。

授業コード	PB14410				
科目名	リカレント教育論講義（生涯学習概論Ⅱ）				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜4限				
担当教員	松本 大				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU232J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	成人教育・社会教育の現代的実践				
授業の目的と概要	(1) 学校やフォーマル教育とは異なる学習の意味は何か。そもそも人間の学習とは何かを成人教育や生涯学習の観点から考える。 (2) 具体的な社会問題と関連づけて成人教育・生涯学習の意義を考察する。				
学習の到達目標	(1) 成人教育、生涯学習、ノンフォーマル教育、インフォーマル学習に関する理念や意味を理解できる。 (2) 成人教育や生涯学習における学習支援の理論を理解できる。 (3) 社会問題との関わりから成人教育・生涯学習の可能性を考察できる。				
授業内容・方法と進度予定	1. 日常生活における成人教育 2. 日本の社会教育とは何か 3. 成人識字教育と夜間中学 4. 成人教育と現代社会 5. ユネスコの成人教育論 6. フレイレの解放の教育学 7. 社会教育の行政と施設 8. 仙台市における社会教育施設の事例 9. 地域づくりと社会教育 10. 宮城県における地域づくり実践の事例 11. リカレント教育とは何か 12. リスキリングとワークプレイスラーニング 13. 成人教育・生涯学習における学習理論 14. ナラティブと成人教育 15. まとめ				
成績評価方法	毎回の課題提出（40%）、期末レポート（60%）による評価を行う。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	授業時に課される宿題を提出するだけでなく、配布されるプリントにより授業内容を復習し、理解できていない点があれば質問を用意し、次回授業時に質問すること。
実務・実践的授業	×
その他	Google Classroomのクラスコード：db4iuzb
オフィスアワー	オフィスアワーは、水曜 10:00～12:00 とする。事前に E-mail 等で連絡すること。教員の連絡先は授業中に伝える。
更新日付	2025/03/03

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

[illegible]

授業時間外学習	授業時に課される宿題を提出するだけでなく、配布される資料により授業内容を復習し、理解できていない点があれば質問を用意し、次回授業時に質問すること。
実務・実践的授業	×
その他	1) 授業は変則的なスケジュールで行うので、日程を確実に確認すること。授業日は次のとおり。4月10日（木）、5月17日（土）、5月18日（日）、6月5日（木）、6月12日（木）、6月19日（木）、6月26日（木）、7月3日（木）、7月10日（木）、7月17日（木）、7月26日（土）。土日の開講時間帯は、初回のオリエンテーションで連絡する。 2) 初回のオリエンテーションならびに大安先生の担当回は日本語による授業。Yanti先生の担当回は英語による授業となる。レポートも担当回の使用言語に準じ
オフィスアワー	問い合わせ先：松本大
更新日付	2025/03/04

1単位の授業科目は、4 5時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については1 5～3 0時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）3 0～1 5時間、「実験、実習及び実技」については3 0～4 5時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）1 5～0時間です。

授業コード	PB15110				
科目名	臨床心理学講義Ⅱ（精神疾患とその治療）				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜1限				
担当教員	本多 奈美				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY242J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	精神疾患とその治療				
授業の目的と概要	メンタルヘルスの概要を理解するとともに、代表的な精神疾患等を学ぶ。				
学習の到達目標	メンタルヘルスおよび代表的な精神疾患等に関する基礎的な知識を習得する。				
授業内容・方法と進度予定	1.オリエンテーション、メンタルヘルス序論(1)ー概要、福祉 2.メンタルヘルス序論(2)ー医療 3.メンタルヘルス序論(3)ー心理 4.メンタルヘルス序論(4)ー社会 5.メンタルヘルス序論(5)ー精神症状学 6.こころと発達-自閉症 7.こころと不安-神経症 8.こころと物質-依存症 9.こころと愛着-児童虐待 10.こころとスティグマ-統合失調症 11.こころとライフイベント-うつ病 12.こころと加齢-認知症 13.こころと災害-PTSD、こころと死-自殺 14.こころとリズム-睡眠障害 15.総括、筆記試験（英語を含む）				
成績評価方法	筆記試験（80％）、および平常点（20％）による総合的な評価。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	予習・復習については、その都度、指示する。
実務・実践的授業	×
その他	①クラスコード4151oxy ②第一回授業の開始時期 4月11日（金） ー限： 8： 5 0～ ③授業の実施方法 Classroomを用いた資料配布、対面授業もしくはMeetを用いた双方向授業（BCPレベル1及び2の場合） ④関連資料の入手方法 授業用の資料・課題はClassroomに掲載 ⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策 個別に相談（本多(nami.honda.b3@tohoku.ac.jp)へ連絡のこと）
オフィスアワー	設定なし
更新日付	2025/03/10

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB15210				
科目名	教育社会学				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜2限				
担当教員	福田 亘孝				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU205J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	教育社会学				
授業の目的と概要	本講義では、（１）教育社会学の学問的性格、（２）教育社会学の理論と方法の特質、について講述するとともに、（３）教育社会学の各研究領域に即して概括的な説明をする。				
学習の到達目標	教育社会学という学問の特徴と研究の現状を理解し、社会学の視点から教育に関わる研究課題をみずから設定できる力量を身に付ける。				
授業内容・方法と進度予定	1 はじめに：社会学から教育を分析する 2 メリット・クラシーの諸問題 3 学歴と資格社会 4 選抜機関としての学校 5 教育におけるラベリング理論 6 階級・言語・社会化 7 人的資本と社会関係資本 8 文化資本と教育達成 9 日本の学校の社会学 10 グローバル化と教育 11 多文化主義と教育 12 高等教育の拡大と変容 13 教育社会学のバラダイム（１）：1970年代の展開 14 教育社会学のバラダイム（２）：1990年代の展開 15 教育社会学のバラダイム（３）：2000年代の展開				
成績評価方法	授業への参加度（20％）、発表・課題（30％）、定期試験（50％）。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
教育と社会変動	カラベル&ハルゼー	東京大学出版会	1980		
教育社会学：第三のソリューション	ハルゼー	九州大学出版会	2005		
グローバル化・社会変動と教育	ヒュー・ローダー	東京大学出版会	2012		

授業時間外学習	★教科書、参考書、配布資料を理解し、授業の予習・復習をする ★必要に応じてReading AssignmentとWriting Assignmentを課す
実務・実践的授業	○（企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う）
その他	★予習・復習は必ずやり遂げてから授業に出席すること ★授業はマナーを守って受講すること。授業にとって迷惑になる場合は、退室を命じる ★授業計画は予定であり、実際の授業では予定が変更になる場合があります ★成績評価方法は目安であり、変更になる場合があります (1) 授業の実施方法： オンラインを積極的に活用して授業を行う （第1回目の授業で説明する） (2) 関連資料の入手方法： 関連資料の入手方法はgoogle classroomにおいて指示する。
オフィスアワー	※オフィス・アワー 木曜日 14:00-14:30 事前予約が必要
更新日付	2025/02/23

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB15220				
科目名	学習心理学講義				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜2限				
担当教員	工藤 与志文				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY206J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	学習心理学と教授ストラテジー				
授業の目的と概要	ストラテジー(strategy)とは目的遂行のための長期的な戦略のことである。教育においても、個別の教授活動をどうするかという問題を越えた、長期的かつ総合的な教授ストラテジー(teaching strategy)が必要となる。この講義では、教授ストラテジーとその理論的ベースを提供する学習心理学理論について概説する。				
学習の到達目標	① 学習心理学の基本概念を知る。 ② 学習心理学理論と教授ストラテジーの関連について理解を深める。				
授業内容・方法と進度予定	1. ガイダンス 2. 教授ストラテジーはなぜ必要か 3. 行動主義的学習理論 4. 行動主義的学習理論と教授ストラテジー 5. 積み重ね型ストラテジーの特徴(1) 6. 積み重ね型ストラテジーの特徴(2) 7. 認知主義的学習理論 8. 認知主義的学習理論と教授ストラテジー 9. 組みかえ型ストラテジーの特徴-対決型ストラテジー(1) 10. 組みかえ型ストラテジーの特徴-対決型ストラテジー(2) 11. 組みかえ型ストラテジーの特徴-懐柔型ストラテジー(1) 12. 組みかえ型ストラテジーの特徴-懐柔型ストラテジー(2) 13. 学習過程と教授ストラテジー 14. 知識探究型ストラテジーと知識活用型ストラテジー 15. まとめ				
成績評価方法	各講義後のレポート課題の提出状況と期末テストの結果で評価する。 Short Reports and Final Exam				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	前回の講義内容を復習するとともに、与えられた課題に取り組む。
実務・実践的授業	×
その他	連絡先：yoshifumi.kudo.d6@tohoku.ac.jp (Googleクラスルーム対応) クラスコード ivczgrm
オフィスアワー	毎週月曜 4 講時
更新日付	2025/02/27

1単位の授業科目は、4 5 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については1 5 ～ 3 0 時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）3 0 ～ 1 5 時間、「実験、実習及び実技」については3 0 ～ 4 5 時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）1 5 ～ 0 時間です。

授業コード	PB15310				
科目名	教育心理学実験Ⅰ（心理学研究法）				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜3限、金曜4限				
担当教員	前田 駿太、教育心理学コース教員				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY381J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	教育心理学実験Ⅰ（心理学研究法）				
授業の目的と概要	この授業科目は、教育心理学コースの3年次学生が実験実習を通じて研究、実践方法の基礎を習得することを目的とする。				
学習の到達目標	1 心理学実験の基礎を学ぶ。 2 心理学の統計的分析方法について学ぶ。 3 心理学研究におけるレポートの書き方について学ぶ。 4 研究者の倫理について考える。				
授業内容・方法と進度予定	1 オリエンテーション、実験レポートの書き方 2 実験計画法 3 質問紙調査法① 質問紙作成の留意点と実際 4 質問紙調査法② 作成された質問紙の検討 5 知覚実験① 6 知覚実験② 7 調査面接法 8 行動観察法① 行動観察の基礎 9 行動観察法② 行動観察の実際 10 記憶実験 11 事例研究法① 12 事例研究法② 13 研究者の倫理 14 質問紙調査法③ 仮説の検証とデータ分析の実際 15 教育心理学実験Ⅱの事前オリエンテーションと文献検索法について				
成績評価方法	各回のレポート（すべてのレポートを提出すること）をもとに、受講時の積極性を加味して評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
	</				

授業時間外学習	課題によっては、授業時間外のグループ作業が必須となる。
実務・実践的授業	×
その他	グループによる実験、実習が含まれる。授業の進行に支障のないように、遅刻、欠席をしないこと。 授業担当教員に相談がある場合にはメールでアポイントをとること（担当：前田駿太、メール：shunta.maeda.d2@tohoku.ac.jp）。 (Googleクラスルーム対応) クラスコード：tc53n44 ※教育心理学コース 3 年次学生のみ受講可。
オフィスアワー	設定なし
更新日付	2025/02/20

1単位の授業科目は、4 5 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については1 5 ～ 3 0 時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）3 0 ～ 1 5 時間、「実験、実習及び実技」については3 0 ～ 4 5 時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）1 5 ～ 0 時間です。

授業コード	PB15510				
科目名	発達障害学演習Ⅲ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜5限				
担当教員	野口 和人				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY320J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	発達障害学研究法				
授業の目的と概要	先行研究のレビューや討論を通じて自らの問題意識を明確化し、発達障害のある子どもや成人に対する心理教育支援の在り方を追求するための研究姿勢を身に付ける。				
学習の到達目標	①自らの問題意識を明確化し、研究課題として位置づける。 ②先行研究のレビューの仕方を身に付ける。 ③研究計画の立案、計画の遂行、解析方法、考察の仕方を身に付ける。 ④習得した方法を卒業論文等の作成に応用する。				
授業内容・方法と進度予定	○授業の実施方法： ・この授業は、発達障害学分野担当教員の指導学生を対象としています。 ・対面方式で実施します（ハイフレックス方式で実施する場合もありうる）。 ○関連資料の入手方法：必要な資料はクラスの共有ドライブを利用して配付します。 1～5. 各自の問題意識に沿った文献報告あるいは文献レビュー 6～10. 発表と討論を通じての研究課題の焦点化 11～15. 研究計画の立案、研究方法の検討				
成績評価方法	平常点 (50%)，討論への参加 (25%)，研究発表内容 (25%)により，総合的に評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学習	国内外の研究論文を検索・収集し、授業で紹介できるように準備を進める。				
実務・実践的授業	×				
その他	この授業は、発達障害学分野担当教員員の指導学生を対象とする。				

オフィスアワー	前期：火曜日3限目 後期：木曜日3限目
更新日付	2025/03/03

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB20010				
科目名	道徳の理論及び指導法A				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	集中講義				
担当教員	熊谷 龍一、清多 英羽				
担当教員（所属）	清多英羽（非常勤講師）				
科目ナンバリング	PES-EDU901J				
使用言語	日本語				
主要授業科目					
授業題目	学校教育における道徳教育				
授業の目的と概要	道徳性の形成という学校教育上の課題は、現代日本にあつてますます重要性を増してきている。本授業は、その社会的な期待を踏まえ、道徳教育の意義と可能性および困難さについて合理的・実践的に考察するとともに、「特別の教科 道徳」の主体的・対話的で深い学習を指導できる実践力の基礎を身に付けることをねらいとする。特に、10回目から15回目までを「道徳」の授業づくり実践に充てる。				
学習の到達目標	①道徳の概念について、その概要を体系的にまとめることができる。 ②道徳教育の意義や目的、構造等、基本的特性を説明することができる。 ③「特別の教科 道徳」の授業及び道徳教育の具体的な活動について、実践的な計画を立てることができる。				
授業内容・方法と進度予定	第1回 オリエンテーション：「考える道徳」「議論する道徳」としての道徳科 第2回 道徳と教育①：道徳とは何か～なぜ道徳教育が必要とされるのか～ 第3回 道徳と教育②：道徳教育の歴史と道徳科の位置づけ 第4回 道徳と教育③：道徳性の発達理論及び答申・学習指導要領解説の道徳教育論 第5回 道徳教育の内容①：道徳科の教科書と22の内容項目について 第6回 道徳教育の内容②：内容項目Aの取り扱いについて 第7回 道徳教育の内容③：内容項目Bの取り扱いについて 第8回 道徳教育の内容④：内容項目Cの取り扱いについて 第9回 道徳教育の内容⑤：内容項目Dの取り扱いについて 第10回 道徳教育の実際①：道徳の授業づくり①：道徳科の指導案づくりの基本的な考え方 第11回 道徳教育の実際②：道徳の授業づくり②：道徳科の評価のあり方 第12回 道徳教育の実際③：道徳の授業づくり③：道徳科の指導過程の作成方法と要点整理 第13回道徳教育の実際④：道徳の授業づくり④：指導案の事例研究A～指導案づくりを学ぶ～ 第14回 道徳教育の実際⑤：道徳の授業づくり⑤：指導案の事例研究B～指導案づくりを学ぶ～ 第15回 道徳教育の実際⑥：道徳の授業づくり⑥：総まとめ、指導案づくり				
成績評価方法	授業時の課題（5割）、指導案課題（5割）とする。6回以上の欠席で評価の対象外とする。詳細はオリエンテーション時に説明する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
中学校学習指導要領解説特別の教科 道徳編	文部科学省	教育出版			

授業時間外学習	『中学校学習指導要領解説特別の教科 道徳編』を通読しておくこと。
実務・実践的授業	×
その他	授業中の課題の提出についてはGoogleクラスルームを使用するので、ノートパソコンを持参すること。
オフィスアワー	オリエンテーション時に指示する
更新日付	2025/03/04

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB21210				
科目名	神経・生理心理学				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜2限				
担当教員	横田 晋務				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY244J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	神経・生理心理学基礎				
授業の目的と概要	大脳・中枢神経系の構造、神経伝達などの基礎的な理解を深めるとともに、言語・記憶・情動など高次機能とその障害について理解する				
学習の到達目標	①脳構造や機能について基本的な理解を深める ②高次脳機能とその障害について理解を深める				
授業内容・方法と進度予定	1 オリエンテーション_神経・生理心理学とは 2 神経心理学の歴史と機能局在 3 脳神経系の構造と機能 4 シナプス伝達 5 脳神経機能の測定法 6 感覚・知覚 7 運動 8 動機づけ 9 睡眠・生体リズム・意識 10 記憶・学習 11 感情 12 失語・失認・高次脳機能障害 13 先天性疾患と変性疾患 14 注意障害・遂行障害・精神障害 15 まとめと試験				
成績評価方法	受講態度 20% 試験 80%				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	予習復習、および授業内で紹介された文献等の講読
実務・実践的授業	×
その他	
オフィスアワー	事前にE-mailで連絡すること。
更新日付	2025/02/05

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB21310				
科目名	生涯学習論演習Ⅰ（生涯学習支援論演習）				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜3限				
担当教員	松本 大				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU331J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	社会教育・成人教育研究への誘い				
授業の目的と概要	グループワークに基づき社会教育・成人教育に関する基礎的な文献の検討を行い、社会教育・成人教育に関する知識を身につけるとともに、研究動向を理解する。				
学習の到達目標	(1) 社会教育・成人教育に関する研究と実践の領域を理解できる。 (2) 社会教育・成人教育に関する研究動向と研究課題を理解できる。 (3) 社会教育・成人教育に関する自身の研究関心を発展させることができる。				
授業内容・方法と進度予定	1.オリエンテーション 2～15.受講生による文献発表と議論				
成績評価方法	授業への参加度（30%）、発表（25%）、期末レポート（45%）による評価を行う。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学習	文献を十分に予習してくること。				
実務・実践的授業	×				
その他	リカレント教育論講義（生涯学習概論Ⅱ）もしくは成人教育論講義Ⅰ（生涯学習概論Ⅰ）と合わせて履修することが望ましい。 Google Classroomのクラスコード：vedtgbv				
オフィスアワー	オフィスアワーは、水曜 10:00～12:00 とする。事前に E-mail 等で連絡すること。教員の連絡先は授業中に伝える。				

更新日付	2025/03/03
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

授業コード	PB21320				
科目名	心理演習				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜3限				
担当教員	前田 駿太、若島 孔文、安保 英勇、吉田 沙蘭、SCHLEMPER L ENNA、その他教員				
担当教員（所属）	坂本 一真				
科目ナンバリング	PES-PSY345J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	心理演習				
授業の目的と概要	心理的な支援についての基礎的な知識と技能を習得する。				
学習の到達目標	心理的支援に求められるコミュニケーション、要支援者のニーズの把握や適切なフィードバック、心理査定、心理支援、支援計画の作成の技法などの技能の基礎を習得する。また、多職種連携・地域連携・地域支援や支援者に求められる倫理について説明できる。				
授業内容・方法と進度予定	第1回 オリエンテーション：心理演習で学ぶこと、アイスブレイク 第2回 心理学的支援におけるコミュニケーション：情報収集 第3回 心理学的支援におけるコミュニケーション：傾聴的態度① 第4回 心理学的支援におけるコミュニケーション：傾聴的態度② 第5回 心理検査① 第6回 心理検査② 第7回 心理検査③ 第8回 心理検査④ 第9回 心理面接① 第10回 心理面接② 第11回 心理面接③ 第12回 心理面接④ 第13回 公認心理師としての職業倫理および法的義務 第14回 チームアプローチ・多職種連携に関する事例検討 第15回 地域支援・地域連携に関する事例検討、まとめ				
成績評価方法	ディスカッションやロールプレイへの参加状況、受講態度（40%）、複数回の小レポート（60%）で評価する。すべての小レポートの提出を単位取得の要件とする。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	授業時間外での小レポートの作成が必要となる。内容は授業内で適宜指示する。
実務・実践的授業	○（企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う）
その他	公認心理師試験の受験資格を得るために必要な科目である。 原則として、第4セメスター終了後に実施された履修希望調査に回答し、履修を許可された者以外は履修を認めない。それ以外の者で受講を希望する場合には第1回の授業開始以前に授業担当教員（前田）まで連絡すること。 この科目は平成30年以降入学者対象科目である。 本演習ではペアワークや少人数のグループによる活動を多く実施する予定である（初回から受講生相互のアイスブレイクやペアワークを予定している）。そのため、心理的な負担がかかることも想定されることから、熟慮のうえ、受講について検討すること。 授業教員への相談を希望する場合にはメールでアポイントをとること（担当：前田駿太，メール：shunta.maeda.d2@tohoku.ac.jp）。 （Google Classroom対応） クラスコード：5kfusxa
オフィスアワー	設定なし
更新日付	2025/02/26

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB21410				
科目名	教育実践論講義Ⅰ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜4限				
担当教員	長島 康雄、松本 大				
担当教員（所属）	長島 康雄（非常勤講師）				
科目ナンバリング	PES-EDU228J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	総合的な学習ならびに特別活動の教育実践とその教育的意義				
授業の目的と概要	この講義の目的は2つある。1つは、学生は総合的な学習や特別活動がどのように成立してきたか、ならびに日本の教育政策の下で、どのようにマネジメントされ、実践されているのかを理解することである。もう1つは、討議を通じて教育について関心を深めることである。				
学習の到達目標	この講義では、学生が特別活動ならびに総合的な学習への理解を深めるとともに、教育実践を支えている教師に興味を持つことが目標である。				
授業内容・方法と進度予定	第1回：個別最適化の学びと協働的な学びの視点から見た総合的な探究の時間と特別活動 第2回：学習指導要領からみた総合的な学習と特別活動 第3回：学力観の変遷と総合的な学習・特別活動 第4回：総合的な学習におけるカリキュラム開発 第5回：総合的な学習と教科教育等の相補性 第6回：地域連携と総合的な学習 第7回：日本型教育活動として世界に広がる「特別活動」 第8回：子どもの権利条約と特別活動 第9回：学級活動（ホームルーム活動） 第10回：生徒会活動・学校行事 第11回：カリキュラム開発と大学教育 第12回：学校組織開発と特別活動 第13回：防災教育 第14回：道徳教育への総合的な学習・特別活動の果たす役割 第15回：教育課程経営の視点からみた総合的な学習の時間・特別活動				
成績評価方法	成績評価は以下の方法で行う。 ・授業毎に出す課題レポート70% ・期末レポート30% 以上の割合で、総合的に判定する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
					</

授業時間外学習	授業時に課される課題を提出するだけでなく、配布される資料により授業内容を復習し、理解できていない点があれば質問を用意し、次回授業時に質問すること。
実務・実践的授業	○（企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う）
その他	この授業は日本語で提供されます。
オフィスアワー	オフィスアワーについては授業の中で告知する。私は非常勤講師なので、メールでの対応が中心になる。
更新日付	2025/03/05

1単位の授業科目は、4 5時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については1 5～3 0時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）3 0～1 5時間、「実験、実習及び実技」については3 0～4 5時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）1 5～0時間です。

授業コード	PB21420				
科目名	心理学的支援法				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜4限				
担当教員	吉田 沙蘭、若島 孔文、安保 英勇、前田 駿太、SCHLEMPER L ENNA、その他教員				
担当教員（所属）	坂本 一真				
科目ナンバリング	PES-PSY245J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	心理学的支援法				
授業の目的と概要	代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界を学習する。 あわせて、 訪問による支援や地域支援等の多様な形態による支援の方法、心理支援に際しての倫理的配慮等についても学習する。				
学習の到達目標	本授業の到達目標は、以下のとおりである。 ・ 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できる ・ 訪問による支援や地域支援の意義について概説できる ・ 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる ・ 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につける ・ 心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できる ・ 心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できる				
授業内容・方法と進度予定	1. オリエンテーション 2. 心理学的支援の基礎 3-4. 精神分析療法・力動的心理療法 5-8. 行動療法、認知療法、認知行動療法 9. パーソンセンタード・アプローチ 10-12. 家族療法・集団療法 13. 子どもに対する心理療法 14. コミュニティ・アプローチ 15. 心の健康教育				
成績評価方法	期末試験（100％）				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学習	担当教員ごとに教室内で指示する。				
実務・実践的授業	○（企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う）				

その他	※ クラスコード : fv2buzj
オフィスアワー	設定なし
更新日付	2025/02/27

1単位の授業科目は、4 5 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、『講義・演習』については1 5 ～3 0 時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）3 0 ～1 5 時間、「実験、実習及び実技」については3 0 ～4 5 時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）1 5 ～0 時間です。

授業コード	PB21510				
科目名	臨床心理学講義Ⅰ（臨床心理学概論）				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	月曜5限				
担当教員	若島 孔文				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY241J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	臨床心理学概論				
授業の目的と概要	臨床心理学における代表的諸理論（精神分析、来談者中心療法、認知・行動療法、家族療法など）について解説する。また、それら代表的諸理論の日本への導入における東北大学の役割と貢献について補足する。				
学習の到達目標	①臨床心理学が人間を理解し、援助することを志向した実践の学問であることを知り、人間のこころの固有性と可変性に対する柔軟な視点について理解を深めること。 ②東北大学の歴史の一端を知り、臨床心理学の大きな流れに向けて興味が喚起されること。				
授業内容・方法と進度予定	1. ～ 2. 生物・心理・社会モデルと心理療法の効果的要因について 3. ～ 5. 力動的心理療法 6. 来談者中心療法 7. ～ 8. 認知・行動療法 9. ～ 10. システム理論とコミュニケーション理論 11. 家族療法のモデル 12. 解決志向短期療法 13. ナラティブセラピー 14. ～ 15. 事例の検討				
成績評価方法	質疑等の参加状況、受講態度（40%）、複数回の小レポート（60%）で評価する。すべての小レポートの提出を単位取得の要件とする。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学習	予習・復習については、授業の際、資料を配布する。				
実務・実践的授業	×				

その他	
オフィスアワー	月曜日13時から14時30分
更新日付	2025/02/05

1単位の授業科目は、4 5 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、『講義・演習』については1 5 ～3 0 時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）3 0 ～1 5 時間、「実験、実習及び実技」については3 0 ～4 5 時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）1 5 ～0 時間です。

授業コード	PB22110				
科目名	教育制度論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜1限				
担当教員	井本 佳宏				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU204J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	現代公教育制度の意義・原理・構造とその展開				
授業の目的と概要	社会的な営みとしての公教育は、さまざまな制度によって枠づけられ、支えられている。したがって、公教育の現状に対する認識および将来への展望を得るためには、教育制度に対する理解が必要不可欠である。そこで本授業では、現代公教育制度に関する基礎的知識の習得を目指して、その思想的・法的基盤、運営に関する理念と仕組みについて講義する。また、学校と地域の連携や学校の危機管理などの今日的課題への対応と教育制度改革の展開についても講義する。				
学習の到達目標	1. 現代公教育制度を支えている思想的・法的基盤について理解する。 2. 現代公教育制度の運営に関する理念と仕組みについて理解する。 3. 今日の学校教育の展開を、学校と地域の連携や学校の危機管理などの具体的な課題に即して理解する。 4. 教育をめぐる諸問題を制度の視点から主体的に考察する姿勢を身につける。				
授業内容・方法と進度予定	第1回 オリエンテーション／Orientation 第2回 教育制度の構造と現代公教育制度の原理／The structure of the education system and the principles of the modern public education system 第3回 現代公教育制度の法的基盤／Legal foundation of the modern public education system 第4回 教育行政制度／Education administration system 第5回 学校教育制度の基本的構造と歴史的展開／The structure and historical development of the school education system 第6回 現代日本の学校教育制度／The school education system in contemporary Japan 第7回 就学前教育制度／Preschool education system 第8回 初等・中等教育制度／Primary and secondary education system 第9回 高等教育制度／Higher education system 第10回 特別支援教育制度／Special needs education system 第11回 教職員制度／Teachers and staff system 第12回 社会教育行政制度／Social education administration system 第13回 学校と地域の連携／cooperation between school and local society 第14回 学校の危機管理／Risk management in school 第15回 全体のまとめと補足／Review, reflection, and course evaluation				
成績評価方法	1. 小テスト（30％）：授業の進度に合わせて3回実施予定（各回10％×3回）。講義内容の理解度を評価する。 2. 期末テスト（70％）：提示された論点について、制度の視点から考察、論述できるかを評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
教育法規スタートアップ・テキスト ver. 2.0-Crossmedia	高見茂・開沼太郎・宮村裕子編	昭和堂	2023	9784812222256	参考書
2026年度版必修教職六法		協同出版	2025	9784319641307	参考書

授業時間外学習	授業で扱ったテーマに関連する書籍の読書等を通じて、主体的に教育制度についての認識・思考を深めていくこと。また、小テストに向けての復習も欠かさないこと。
実務・実践的授業	×
その他	・授業に関する諸連絡、資料の配付、課題等の提示や提出にはGoogle Classroomを利用する。クラスコードはniqy2jgです。第1回授業よりも前に各自で生徒登録しておくこと。 ・授業は基本的に対面で行う。
オフィスアワー	・オフィスアワー 火曜日 13:00～15:00
更新日付	2025/02/18

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB22210				
科目名	教育行政学講義Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜2限				
担当教員	後藤 武俊				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU217J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	教育行政学の基本概念と争点				
授業の目的と概要	教育行政学の対象領域に関する法的概念とその理論的背景を理解しつつ、不登校や外国人の子ども、困難を抱えた若者などの現代的教育課題に関わる争点について検討を加えていく。				
学習の到達目標	・教育行政学の基本概念（法的概念および理論的背景に関する知識）の獲得 ・教育行政学の基本概念を用いて現代的教育課題を分析する力の獲得				
授業内容・方法と進度予定	内容および進度予定は以下のとおりである。 1. オリエンテーション 2. 憲法と教育基本法①～憲法における教育関連規定 3. 憲法と教育基本法②～1947年教育基本法と2006年教育基本法 4. 文部科学省と教育政策形成 5. 教育委員会制度 6. 公教育制度①～日本の学校制度 7. 公教育制度②～義務教育制度 8. 公教育制度③～学校選択と学校参加 9. 学校組織と学校経営 10. 教職員制度 11. 教員の免許・養成・研修／教員評価 12. 教育課程 13. 多様な人々への教育機会保障①～不登校の子どもたちとその支援 14. 多様な人々への教育機会保障②～外国人の子どもの教育機会保障 15. 貧困家庭の子どもへの支援、その他包括的な支援				
成績評価方法	・出席30%、試験70%				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
教育小六法2025年版	石井拓児、勝野正章、今野健一（編）	学陽書房	2025		参考書

授業時間外学習	・講義内で配布した資料の読解とワークシートへの記入。
実務・実践的授業	×
その他	・クラスコード：5xdu5cs ・E-mail：taketoshi.goto.a8@tohoku.ac.jp
オフィスアワー	木曜10:30~12:00
更新日付	2025/02/28

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、『講義・演習』については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、『実験、実習及び実技』については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB22220				
科目名	教育課程総論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜2限				
担当教員	谷口 和也				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU225J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	教育課程総論				
授業の目的と概要	学習者は、教育の歴史と各時代のカリキュラム政策上の議論を学ぶことで、現代日本における学校教育の課題を理解する。				
学習の到達目標	学習者は、各時代に試みられたカリキュラムの理論について理解するとともに、教育の内容や方法がカリキュラムの理論と密接に関わっていることや、現代日本の学校教育がグローバル化の中での人材育成を目指したものとなっていることを理解する。				
授業内容・方法と進度予定	パート1：学校におけるカリキュラムの意義と位置づけ 01：進化するカリキュラム 02：カリキュラムの多様性 03：カリキュラムの法的位置づけ 04：公的な教育課程と反省的实践家としての教師像 パート2：戦後日本の教育課程の展開 05：戦後学習指導要領のはじまり 06：系統主義への転換と民間教育団体 07：「教育の現代化」と科学化 08：「人間中心の教育」とグローバル教育 パート3：現代日本の教育課程の基本的性格 09：教育における市場原理の導入 10：新学力観から生きる力へ 11：21世紀型カリキュラムとは何か パート4：学校ベースのカリキュラムをマネジメントする 12：なぜ学校は忙しいのか 13：学校独自のカリキュラムをデザインする 14：学校間連携と地域間連携 15：残された課題				
成績評価方法	毎時間内の小レポート（70%）と作成物の提出（30%）で評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	各授業の最後に、次の授業の基礎となる課題がを課す。
実務・実践的授業	×
その他	
オフィスアワー	火曜日12時～13時
更新日付	2025/03/06

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB22310				
科目名	教育情報活用論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜3限				
担当教員	佐藤 克美				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EIA202J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	ICT活用と教育				
授業の目的と概要	教育情報学とは超高度情報化社会、知的基盤社会における教育について、基礎及び応用そして実践と言う領域を内包した、融合的・学際的・先端的な学問領域である。 教育情報活用論では、教育情報学について、教育と情報科学、テクノロジーの関連について概観することで教育情報学という学問の融合性・学際性・先端性を理解するとともに、教育情報学の基礎的な知識を学習する。				
学習の到達目標	・教育情報学の融合性・学際性・先端性について理解する ・教育情報学の基礎をなす、教育と情報科学・テクノロジーとの関連を理解する				
授業内容・方法と進度予定	第1回：オリエンテーション 第2回：近未来の教育 第3回：ICT活用教育の実際 第4回：ICTを活用することで得られる能力とは 第5回：コンピュータで何ができるのか1 第6回：コンピュータで何ができるのか2 第7回：コンピュータで何ができるのか3 第8回：プログラミング教育 第9回：プログラミング教育 第10回：人間とコンピュータ 第11回：e-ラーニングと映像教材 第12回：マルチメディア教育・シミュレーションとゲーム 第13回：AIの活用 第14回：ICTで学ぶ 第15回：まとめ				
成績評価方法	授業内の発言と数回のレポート課題、及びディスカッションでの発言内容・態度等を総合的に判断して評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	レポートの他、講義で課題を出します。
実務・実践的授業	×
その他	GoogleClassroomの クラスコードは「vsiszzc」です。
オフィスアワー	火曜日：午後
更新日付	2025/02/25

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB22320				
科目名	国際教育開発論講義				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜3限				
担当教員	劉 靖				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU239E				
使用言語	英語				
主要授業科目	○				
授業題目	Introduction to International Education and Development				
授業の目的と概要	By providing a wide range of issues and discussions on international education and development, this course aims to provide students with the basic knowledge and up-to-date understanding of historical paradigm shifts and new trends of international education and development towards 2030 and beyond. The course is divided into four sections. Following the orientation, in Section 1, the course will review history and new international education and development trends. Specifically, it will provide two perspectives to understand the relationship between education and sustainable development goals. In Section 2, the course introduces key issues and solutions in stages of learning by connecting the global context with Japan' s context. In Section 3, the course shifts focus to perspectives of teachers, technologies, governance, and partnership for international education and development. It ends with an introduction to theories and methods of research on international education and development. Students will discuss assigned readings and share their opinions and reflections that link to selected themes on international education and development in class. Also, students are invited to select themes related to international education and development for written assignments and presentations.				
学習の到達目標	Goals of course are to enable students to: (1) obtain basic and up-to-date knowledge about international education and development. (2) hold a comparative perspective on issues in international education and development at both global and local levels. (3) understand a complicated relationship between educational development and social change.				
授業内容・方法と進度予定	In principle, the class will be conducted on-site. In case there is shift to online, announcement will be made in advance. Session 1 Orientation Section 1 Rethinking the Relationship between Education and Development Session 2 International Education & Development: A historical review & new trends Session 3 Sustainable Development Goals and Education 1: Education as a goal Session 4 Sustainable Development Goals and Education 2: Education as a means Section 2 Stages of Learning Session 5 Children and Basic Skills Session 6 Youth and Adult Learning: Beyond the Classroom Session 7 Higher Education for Sustainable Development Session 8 Reflection Japan' s Progress in SDG4 Section 3 Educational Institutions and Trends Session 9 Teachers and Pedagogies Session 10 New Technologies and Future of Education Session 11 Global Governance and International Education and Development Session 12 Partnership for International Education and Development Section 4 Theories and Methods of Research on International Education and Development Session 13 Theory Paradigms on International Education and Development Session 14 Research Methods of International Education and Development Section 5 Summary & Education in the Post-2030 Session 15 Final Presentation & Reflection				
成績評価方法	Participants will be evaluated comprehensively through their participation and engagement (30%), Group works (20%), short reports (20%), final presentation (10%), and final report (20%). Absence without prior approval is subject to negative evaluation (Students with more than three times of absence will automatically fail this				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
Learning as Development: Rethinking International Education in a Changing	Daniel A. Wagner	Routledge	2018		
SDGs時代の国際教育開発学	ダニエル・A・ワグナー（前田美子 訳）	法律文化社	2020		
Routledge Handbook of International Education and Development	Simon McGrath and Qing Gu（Ed.）	Routledge	2016		
国際教育開発論：理論と実践	黒田一雄、横関 祐見子	有斐閣	2005		
Global Education Monitoring Report: Non-state actors in education: who chooses? Who loses?	UNESCO	UNESCO	2021		
教育グローバル化のダイナミズム	ジョエル スプリング（原著）、北村 友人（翻訳）	東信堂	2023		
Globalization of Education: An Introduction	Joel Spring	Routledge	2014		

授業時間外学習	1. The session time is limited, and therefore self-directed learning is essential. Students are encouraged to prepare and review for each class by individuals and groups. 2. Students are encouraged to collect information and topics related to the class' s content using newspapers, books, the internet, and other resources.				
実務・実践的授業	×				
その他	1. Google Class code: n5n7gt2 2. The 1st session will start at 13:00 on October 7, 2025. Those who plan to take course, please contact Dr. Jing Liu by jing.liu.e8@tohoku.ac.jp by October 6(12PM), 2025. 3. In principle, this course will be a face-to-face course. 4. Email of the instructor in charge: jing.liu.e8@tohoku.ac.jp				
オフィスアワー	Office hour: Wednesday 15:00-17:00, appointment is required.				
更新日付	2025/03/02				

1単位の授業科目は、4 5時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については1 5～3 0時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）3 0～1 5時間、「実験、実習及び実技」については3 0～4 5時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）1 5～0時間です。

授業コード	PB22330				
科目名	教育心理学講義Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜3限				
担当教員	佐藤 誠子				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY205J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	学習意欲の心理学				
授業の目的と概要	意欲（日常語としてのやる気）は心理学では「動機づけ」の問題として研究されてきた。本授業では、学習への動機づけとしての「学習意欲」について、欲求、認知、感情の各領域における代表的な理論を紹介する。さらに、学習意欲を高める教育環境について、知識学習のあり方および教授ストラテジーとの関連から考察する。				
学習の到達目標	・学習意欲に関する心理学理論を理解する。 ・学習意欲を高める教育環境について、知識学習および教授ストラテジーと関連づけて理解する。				
授業内容・方法と進度予定	1. オリエンテーション 2. 学習意欲と動機づけ 3. 生理的動機、親和動機、達成動機 4. 外発的動機づけ、内発的動機づけ 5. 自己決定理論 6. 期待理論（1） 7. 期待理論（2） 8. 達成目標理論 9. 興味 10. 知識学習と学習意欲（1）エンターテインメントとインタレスト 11. 知識学習と学習意欲（2）ルール学習 12. 知識学習と学習意欲（3）ルールの発展例、例外例 13. 学習意欲を高める教育環境（1） 14. 学習意欲を高める教育環境（2） 15. まとめ				
成績評価方法	各回のミニットペーパー（30%）、試験（70%）				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
学習意欲の理論-動機づけの教育心理学	鹿毛雅治	金子書房	2013	4760823794	参考書

授業時間外学習	事後学習として、各回の授業内容を他の人に説明できるように、自分なりにまとめておくこと。
実務・実践的授業	×
その他	連絡先：seiko.sato.a1@tohoku.ac.jp Google Classroom クラスコード：dys116a
オフィスアワー	火曜5講時（16:20～17:50）
更新日付	2025/02/26

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、『講義・演習』については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、『実験・実習及び実技』については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB22340				
科目名	公認心理師の職責				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜3限				
担当教員	吉田 沙蘭				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY243J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	公認心理師の職責				
授業の目的と概要	心理専門職の国家資格である公認心理師の職責について、以下の8点を中心にその基本的枠組を学ぶ。 ① 公認心理師の役割 ② 公認心理師の法的義務及び倫理 ③ 心理に関する支援を要する者等の安全の確保 ④ 情報の適切な取扱い ⑤ 保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の主要5分野における公認心理師の具体的な業務 ⑥ 自己課題発見・解決能力 ⑦ 生涯学習への準備 ⑧ 多職種連携及び地域連携				
学習の到達目標	① 公認心理師の役割について理解する。 ② 公認心理師の法的義務を理解し、必要な倫理を身につける。 ③ 心理に関する支援を要する者等の安全を最優先で確保し、常にその者中心の立場に立つ姿勢を身につける。 ④ 守秘義務の重要性および、情報共有に関する問題について理解し、情報を適切に取扱うことができる姿勢を身につける。 ⑤ 主要5分野における公認心理師の具体的な業務の内容について概説できる。 ⑥ 自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決すべく、探究を進めるための能力を身につける。 ⑦ 社会の変化を捉えながら、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲及び態度を身につける。 ⑧ 多職種連携・地域連携による支援の意義について理解し、チームにおける公認心理師の役割について説明できる。				
授業内容・方法と進度予定	1. オリエンテーション 2. 公認心理師とはどのような資格か 3. 心理支援に必要な技能 4. 心理支援の専門職になるために 5. 心理支援の専門職として働くために 6. 公認心理師の法的義務と倫理 7. 支援を必要としている人の視点に立ち、安全を守る 8. 情報の適切な取り扱い 9. チームや地域で連携して働く 10. 保健医療分野で働く 11. 福祉分野で働く 12. 教育分野で働く 13. 司法・犯罪分野で働く 14. 産業・労働分野で働く 15. まとめ・期末試験				
成績評価方法	授業中のミニレポート（15%）、期末試験（85%）				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
公認心理師の職責	下山晴彦他	ミネルヴァ書房	2020	9784623086115	教科書

授業時間外学習	授業内でグループワークを行うため、事前に当該章を予習し、自らの疑問点を明らかにした上で授業に臨むこと。
実務・実践的授業	○（企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う）
その他	※ この授業科目は学部3年生以上が対象の科目である ※ クラスコード：37gu5op
オフィスアワー	月曜日：10-12時
更新日付	2025/02/18

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、『講義・演習』については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、『実験、実習及び実技』については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

[illegible]

授業時間外学習	大学設置基準の規程に準拠した毎回4時間程度の授業時間外の学習を求める。				
実務・実践的授業	×				
その他					
オフィスアワー	事前にメールでアポイントをとってください。				
更新日付	2025/02/26				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB22420				
科目名	国際教育開発論演習				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜4限				
担当教員	劉 靖				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU334B				
使用言語	英語				
主要授業科目	○				
授業題目	持続可能な世界のための教育と開発： 必要な打開の道を求めて				
授業の目的と概要	日本人学生にJASSO奨学金 支援対象：全学すべての学部2-4年生・大学院生（多数の履修者がある場合、教育学部の学生部を優先する。） 本授業は英語と日本語で行われる。 本演習は、多分野の教員、学生および開発分野の専門家・実践者による学際的な共同学習および現地調査を通して、SDGs時代における教育と持続可能な開発の在り方を問い直すことを目的とする。本演習は4部で構成されている。第1部では、学習者は四つの視点から教育と持続可能な開発に関する講義や文献レビューを通して、教育と持続可能な開発についての理解を深める。第2部では、学習者は現地調査先の地域における知識について、専門家・実践者による講義と共同学習を通して理解する。第3部では、グループワークを通して現地調査に必要な知識やスキルを練習と現地調査の準備を行う。第4部では、学習者と調査先の大学の教員と学生との協力を通して、地域における持続可能な開発の在り方、教育の役割などについての現地調査を行い、グループでショットムービーを作成し、提出する。				
学習の到達目標	本演習で学習者は、(1)持続可能な開発の変遷に関わる講義と文献レビューを通して、教育と持続可能な開発の関係性を把握でき、(2)現地調査先の地域における持続可能性への理解に必要な知識、スキルおよび批判的な思考能力を習得し、(3)学際的・多国籍的なチームによる現地調査を通して、持続可能な開発と国際教育開発への理解を深め、(4)日本を含むアジア太平洋地域における教育と持続可能な開発に関わる課題をテーマとする研究のデザインを検討し、卒論論文のテーマを具体化できることを目指す。				
授業内容・方法と進度予定	対面授業実施 第1回 オリエンテーション 第1部 持続可能性について 第2回 教育と持続可能性 第3回 デザインと持続可能性 第4回 社会と持続可能性 第5回 災害と持続可能性 第2部 タイにおける持続可能発展について 第6回 タイについて 第7回 タイにおける持続可能性と開発 1 第8回 タイにおける持続可能性と開発 2 第9回 タイにおける持続可能性と開発 3 第10回 タイにおける持続可能性と開発 4 第3部 現地調査の準備 第11回 研究計画 第12回 現地調査デザイン 第13回 インタビュー & タイ語の学び 第4部 現地調査（2026年2月-3月予定） 第14回-第15回 現地調査				
成績評価方法	Class participation and engagement (25%) 授業参加 (25%) Group works (35%) グループワーク (35%) Final fieldwork and report (40%) 最終調査・報告 (40%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
途上国世界の教育と開発：公正な世界を求めて	小松太郎	上智大学出版	2016年	978-4-324-10115-5	
教育グローバル化のダイナミズム	ジョエル スプリング（原著）、北村 友人（翻訳）	東信堂	2023年	9784798917054	

授業時間外学習	1. 演習の時間は限られているため、自主的な学習が不可欠である。個人またはグループによる毎回の演習の予習・復習が推奨される。 2. 新聞、書籍、インターネットなどを利用して、授業内容に関連する情報やトピックを収集することが望ましい。				
実務・実践的授業	×				
その他	1. グーグルクラス コード：ytwa4h6 2. 第一回授業の開始時期 10月7日（火）14：40- . 受講希望者は10月6日（月）正午までに劉までＤＣメールにて連絡をするように（jing.liu.e8@tohoku.ac.jp）。 3. 基本的に、本演習は対面で行われる。 4. 本演習は日本語と英語で行います。 5. お問い合わせ先： jing.liu.e8@tohoku.ac.jp				
オフィスアワー	Office hour：水曜日 17:00-18:00, 事前連絡が必要。				
更新日付	2025/03/02				

1 単位の授業科目は、4 5 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1 単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については1 5 ～3 0 時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）3 0 ～1 5 時間、「実験、実習及び実技」については3 0 ～4 5 時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）1 5 ～0 時間です。

授業コード	PB22430				
科目名	発達心理学講義（発達心理学）				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜4限				
担当教員	長谷川 真里				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY215J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	社会性の発達心理学				
授業の目的と概要	本講義は、最新の理論と研究に重点を置き、社会性と道徳性の発達について学ぶ。様々な理論モデルから、社会的、感情的、道徳的発達を検討する。なお、本講義では、幼児期から青年期前期を中心的に扱う。				
学習の到達目標	社会性の発達のプロセスやメカニズムを説明できる。				
授業内容・方法と進捗予定	This is a lecture-centered course. The contents and schedule are as shown below: スケジュール（予定） 1.オリエンテーション（ガイダンスのみ） 2. 発達とは 3. 乳幼児期の発達 4. 乳幼児と親子関係 5. 社会的認知の発達 6. 中間課題（参集なし） 7. 自己制御の発達 8. 自己と感情の発達 9. 道徳性の発達(1) 10. 道徳性の発達(2) 11. 道徳性の発達(3) 12. 道徳性の発達(4) 13. 発達と文化 14. まとめ 15. 期末試験				
成績評価方法	中間課題と講義中の課題（40%）と期末試験（60%）を総合的に評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	指定した資料を予習してくること
実務・実践的授業	×
その他	[使用言語] 日本語。 ・ Google Classroomのクラスコード：fjtyk3d ・ 第一回授業の開始時期：10月7日（火）4限 ・ 授業の実施方法：対面授業。欠席者に対応したハイフレックス授業は行わない。一部、資料提示方式のオンライン授業を取り入れる。 ・ 教科書あり。関連資料をClassroomにアップする。 ・ 関連資料の入手方法：教科書は各自入手すること。パワーポイント資料を含め、その他の授業用の資料はClassroomで共有
オフィスアワー	火曜日3限
更新日付	2025/02/28

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB22510				
科目名	発達障害学演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜5限				
担当教員	横田 晋務				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY319J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	発達障害学応用演習				
授業の目的と概要	発達障害領域の英語文献を購読し、発達障害についての理解を深める				
学習の到達目標	①発達障害領域の基本的な概念、専門用語について理解する ②発達障害領域の心理・教育に関する学術論文の読解力の向上を図る				
授業内容・方法と進度予定	学術雑誌に掲載されている発達障害に関する論文を読む。 担当者はレジュメに沿って発表し、それを踏まえ、全体で討論を行う。 1 ガイダンス 2～4 発表準備 5～15 発表・ディスカッション				
成績評価方法	発表内容 40% 授業への貢献度 20% 期末レポート 40%				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学習	予習復習および担当論文の読出				
実務・実践的授業	×				
その他					

オフィスアワー	事前にE-mailで連絡すること。
更新日付	2025/02/05

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB22520				
科目名	スポーツ文化論講義Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	火曜5限				
担当教員	佐久間 政広、甲斐 健人				
担当教員（所属）	佐久間 政広（非常勤講師）				
科目ナンバリング	PES-EDU218J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	近現代社会とスポーツ				
授業の目的と概要	この講義では、スポーツそれ自体を単独でとらえるのではなく、近現代社会のシステムのうちにスポーツを埋め戻して社会学の視点から考察をおこなう。次の二つを授業目的とする。①社会の変化とともにスポーツがいかに歴史的に変化してきたのかを明らかにするとともに、②現代日本生活においてスポーツがいかなる役割をはたしているのかを考察する。				
学習の到達目標	①近代スポーツの成立とその後の展開の概略を説明できる。 ②近現代スポーツの特徴を資本主義社会という視点から大まかに説明できる。 ③現代日本社会においてスポーツがはたしている役割を自分なりに説明できる。				
授業内容・方法と進度予定	授業は講義形式でおこなう。進度予定は以下。 1. 古代オリンピック vs 近代オリンピック 2. 魔術的世界観と古代オリンピック 3. 近代オリンピックの誕生 4. 近代オリンピックとナショナリズム 5. 近代オリンピックと資本主義 6. フォーティズムにおけるスポーツ-メディア-資本主義 7. スペクタクルとしてのスポーツとメディア 8. パブリック・スクールにおける近代スポーツの誕生 9. アマチュアリズムの解体：ステートアマ、カンパニーアマ、カレッジアマ 10. 福祉国家とSports for All 政策 11. 相対的に自律化した文化領域としての近代スポーツ 12. スポーツと科学 13. 近代日本の教育における体育とスポーツ 14. 現代日本人の生活におけるスポーツ 15. 地域社会におけるスポーツ				
成績評価方法	平常点（毎回の授業で短い文章の提出を求める）50%、レポート50%				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	新聞や書籍を通して、授業内容に関する情報や話題を収集すること。
実務・実践的授業	×
その他	
オフィスアワー	非常勤講師
更新日付	2025/03/04

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB23210				
科目名	発達臨床論講義				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	水曜2限				
担当教員	神谷 哲司				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY109J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	青年心理学概論				
授業の目的と概要	青年期に関するさまざまな心理学的知見を学ぶとともに、青年期を生涯発達の一過程として位置づけることで、現代日本における「青年期」に対する理解を深める。				
学習の到達目標	青年心理学に関する基礎的な事項を理解し、現代日本における青年期の諸問題が歴史・時代的な社会変動の中で生じていることを考察する力を涵養する。				
授業内容・方法と進度予定	1. 発達理論における青年期 2. 青年期の成立と伸長 3. 青年期の身体・運動発達 4. 青年期の認知と思考 5. 青年期の社会的認知 6. 自己と自我をめぐって 7. アイデンティティ・ステイタス 8. 青年期の対人関係の発達 9. 青年期のセクシャリティ 10. 青年期の恋愛行動とアイデンティティ 11. 戦後日本の社会変動 12. 現代青年の特徴とはなにか？ 13. 戦後日本の「青年」の変遷 14. 成人期移行の問題とキャリア発達 15. まとめ：現代青年はどこへ行くのか ・Google Classroomのクラスコード：5ftrspl				
成績評価方法	毎講義時のコメント(30%)及び期末試験(70%)				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	配布資料や紹介された書籍をもとに各自学習を進めてください。
実務・実践的授業	×
その他	講義内容が青年期に関するものであることから、受講生自身にとっても身近なテーマが扱われる。そのため、受講生においては、自分の過去や現在の気にしていること、不安に思っていることなどが取り上げられることで、時には不快な思いをする可能性が指摘される。その点を予め了解の上、受講してください。 オフィスアワーは別記のとおりだが、原則、在室時は可能な範囲で対応いたします。ただし、確実な対応を期待する場合は、事前に約束を取り付けてください。 連絡事項は、Google Classroomにて周知する。クラスコード：a377xsg
オフィスアワー	【1学期】 木曜日4時限目 【2学期】 木曜日3時限目
更新日付	2025/03/03

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要なとなる学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB23220				
科目名	教育社会学講義				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	水曜2限				
担当教員	島 一則				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-S0C224J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	教育社会学概論				
授業の目的と概要	本講義では、日本においては教育社会学の一領域・境界領域としても扱われてきた①教育経済学の学問的性格、②その理論と方法の特質について講述したのち、③教育経済学の各研究領域に即して概括的な説明をし、教育がどのような経済・社会的効果を有しているのか、そして教育の意義について、教育社会学的観点を踏まえて考究する。				
学習の到達目標	受講学生は、専門的知識・技能という観点からは、教育社会学の一領域・境界領域としても扱われてきた教育経済学という学問の特徴と研究の現状を理解し、経済学と社会学の視点から教育に関わる研究課題をみずから設定できる力量を身に付ける。また、汎用的技能、態度志向性という観点からは、コミュニケーションスキル・数量的スキル・論理的思考力・自己管理能力・批判的思考力、生涯学習力の必要性についての認識を深め、これらの能力を向上させる。				
授業内容・方法と進度予定	1・2回：教育経済学の誕生 (The Birth of Economics of Education) 2・3回：教育経済学の基礎概念と方法 (Basic Concepts and Methods of Economics of Educational) 4・5回：人的資本論 (Human Capital Theory) 6・7回：シグナリング論 (Signaling Theory) 8・9回：教育の投資収益率分析 (ROI Analysis of Education) 10・11回：教育と健康 (Education and Health) 12・13回：教育と階層 (Education and Social Stratification) 14・15回：教育と能力主義 (Education and Meritocracy)				
成績評価方法	授業各回ごとの小テスト（50%）・最終レポート（50%）による。ただし、出席状況によっては受験資格を喪失する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
				</	

その他	授業中の発言など積極的な関与を求める。 Ask for active involvement, such as remarks during class. クラスコード dxl4nnd
オフィスアワー	水曜日12:00～13:00
更新日付	2025/03/03

1単位の授業科目は、4 5 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については1 5 ～ 3 0 時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）3 0 ～ 1 5 時間、「実験、実習及び実技」については3 0 ～ 4 5 時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）1 5 ～ 0 時間です。

授業コード	PB13210				
科目名	人間形成史講義Ⅰ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	水曜2限				
担当教員	八鍬 友広				
担当教員（所属）	八鍬 友広（非常勤講師）				
科目ナンバリング	PES-EDU210J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	〇				
授業題目	日本における教育の成り立ち				
授業の目的と概要	日本における教育の成り立ちについて概説する。通時的な構成を取りながら、日本の教育の成り立ちにかかわって重要なトピックについて講ずる。現在、人間形成のもっとも組織的な場所となっている学校を中心として、人間形成と教育の、日本における歴史的な形成過程を論じ、これにより、日本における教育の特質についての理解を深める。				
学習の到達目標	1. 日本の教育の成り立ちについて理解する。 2. 日本における、学校を中心とした人間形成と教育の形成過程について理解する。 3. 日本の教育の成り立ちに関する課題を自ら設定して、執筆することができる。				
授業内容・方法と進度予定	授業実施方法等について ・ グーグルクラスルームのクラスコード：segiz2q ・ 第1回授業の開始時期：2025年10月1日（水）2限：10：30～ ・ 授業の実施方法：対面授業。 ・ 関連資料の入手方法 クラスルームに資料を置いておくので、各自ダウンロードのこと。 ・ 連絡先：下記メールアドレスへメールのこと。 tomohiro.yakuwa.b8@tohoku.ac.jp 1. 歴史的な視点から考えるということ 2. みんなの学校へ（学制発布） 3. 教科書の歴史 4. 試験と競争の教育史 5. 行事・儀礼空間としての学校 6. 大学とはなにか 7. 東北大学の歴史 8. ワークショップ 9. 「文部省唱歌」の世界 10. ジェンダーと人間形成 11. 新教育運動 12. 生活綴方教育運動 13. 戦争と教育 14. 戦後教育改革 15. 人間形成と教育の現状				
成績評価方法	小レポート20%＋最終レポート80%				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	授業内容をふまえた小レポート・最終レポートの作成にむけ、授業外学習の素材・方法等について、授業時間中に適宜指示する。
実務・実践的授業	×
その他	グーグルクラスルームのクラスコード：追って連絡 欠席が5回に達した者は単位不認定となる。 隔年開講につき、次年度は開講しない。
オフィスアワー	水曜12：00～13：00
更新日付	2025/03/05

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、『講義・演習』については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB24110				
科目名	教育学研究入門				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜1限				
担当教員	佐藤 克美、前田 駿太、澤田 哲生、後藤 武俊、松本 大、横田 晋務				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU201J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	教育諸研究への誘い				
授業の目的と概要	教育学研究科の担当教員が、それぞれ専門領域においてどのような課題に対してどのような研究方法でアプローチしてきたのか、またそこで何が解明されてきたのか、今日いかなる研究が行われているのか、等について概説する。加えて、大学院生による研究発表等を通じて、教育の各専門領域における卒業研究や学びの流れ等について紹介する。				
学習の到達目標	1. 東北大学教育学部・教育学研究科において現在進められている研究について学ぶとともに、自らの学術的関心を研究に昇華するための基本的な態度を涵養する。 2. 教育に関する多様な学問領域や視点を踏まえた議論ができるようになる。				
授業内容・方法と進捗予定	1 オリエンテーション 研究倫理 以下大学院コース別研究紹介 2 生涯教育学 (1) 3 生涯教育学 (2) 4 教育政策科学 (1) 5 教育政策科学 (2) 6 グローバル共生教育論 7 教育情報アセスメント (1) 8 教育情報アセスメント (2) 9 教育情報アセスメント (3) 10 教育心理学 (1) 11 教育心理学 (2) 12 臨床心理学 (1) 13 臨床心理学 (2) 14 学部で研究生生活を送るにあたって（大学院生との質疑応答） (1) 15 学部で研究生生活を送るにあたって（大学院生との質疑応答） (2) 【授業実施方法】 原則、対面授業ですが、実施方法の詳細はGoogle Classroomにて周知します。				
成績評価方法	各回で出題される課題やレポート等をもとに判断する				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	それぞれの領域に関する研究において興味関心のある部分についての資料等を収集する必要がある。
実務・実践的授業	×
その他	Google Classroom クラスコード : xn4h6pe
オフィスアワー	直接、担当の先生と連絡をとってください
更新日付	2025/03/03

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB24120				
科目名	心理検査法（心理的アセスメント）				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜1限				
担当教員	安保 英勇、野口 和人、吉田 沙蘭、前田 駿太、横田 晋務、SCHLEMPER LENNA、その他教員				
担当教員（所属）	坂本 一真				
科目ナンバリング	PES-PSY203J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	心理検査法の基礎				
授業の目的と概要	心理検査の理論と実際について基礎的な知識を身につける。				
学習の到達目標	①心理検査の歴史や目的、および代表的な検査法などの基本的な知識を習得する。 ②検査法により得られた資料の整理や解釈の基本を理解する。 ③心理検査法を施行するにあたり必要とされる倫理について理解する。				
授業内容・方法と進度予定	1. オリエンテーション 2. 心理検査法概説 3. 心理検査の信頼性と妥当性 4. 人格検査法(1) 5. 人格検査法(2) 6. 人格検査法(3) 7. 人格検査法(4) 8. 症状評価尺度、検査の倫理(1) 9. 生理検査法、検査の倫理(2) 10. 集団における心理検査(1) 11. 集団における心理検査(2) 12. 知能検査法(1) 13. 知能検査法(2) 14. 発達検査法(1) 15. 発達検査法(2)				
成績評価方法	授業への参加状況、レポート等について総合的に評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	担当教員ごとに教室内で指示する。
実務・実践的授業	×
その他	class code:3zmu4tu
オフィスアワー	火曜日、13-15時
更新日付	2025/02/28

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB24210				
科目名	統計的学習論講義				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜2限				
担当教員	松林 優一郎				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EIA211J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	機械学習入門				
授業の目的と概要	古典的機械学習および深層学習について、基本的な概念と手法について学ぶ				
学習の到達目標	1. 線形モデルに関する基本的な概念と手法を理解する 2. 機械学習の基本的なアルゴリズムを理解する 3. ニューラルネットワークの学習原理と典型的なネットワーク構造について理解する				
授業内容・方法と進度予定	第 1回 導入＋数学的準備 (1)：集合・関数 第 2回 数学的準備 (2)：線形代数・微分 第 3回 数学的準備 (3)：確率・統計 第 4回 ナイーブベイズ分類器 第 5回 線形モデル：パーセプトロン・ロジスティック回帰 第 6回 線形モデル：学習と評価 第 7回 線形モデル：解析の具体例 (1) 第 8回 ニューラルネットワークと深層学習 第 9回 表現学習：単語埋め込みベクトル 第10回 再帰ネットワーク 第11回 アテンションメカニズム 第12回 畳み込みネットワーク 第13回 深層学習と強化学習 第14回 生成言語モデル 第15回 総論				
成績評価方法	講義毎に出題する小レポート課題（50%）と、講義への参加度（出席および質問）（50%）により評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	出題するレポート課題の提出を求める。
実務・実践的授業	×
その他	Google classroom code: e5zzkrr
オフィスアワー	線形代数、確率統計の基礎的な知識を身につけておくことが望ましい。 THU 13:00-15:00
更新日付	2025/03/02

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB24220				
科目名	教育心理学演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜2限				
担当教員	佐藤 誠子、工藤 与志文				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY302J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	教授学習心理学文献講読				
授業の目的と概要	本演習では、教授学習心理学において盛んに研究されてきた「ルール学習」に焦点を当て、関連の研究論文を講読する。論文講読をとおして、教授学習心理学の具体的内容や研究方法を学ぶとともに、最新の研究動向を知ることが目的とする。				
学習の到達目標	・教授学習心理学研究の具体的な方法と内容を理解する。 ・ルール学習に関連する研究の動向と展望を知る。				
授業内容・方法と進捗予定	『教育心理学研究』等に掲載されたルール学習研究論文を取り上げる。毎回、報告担当者がレジュメを作成し、著者の立場にたって論文を紹介する。指定討論者は、批判的な観点から討論すべき点を指摘する。それらをふまえ、全員で議論する。				
成績評価方法	報告担当者および指定討論者としての貢献度（40％）、議論への参加度（30％）、期末レポート（30％）で評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学習	あらかじめ指定された文献を読み、内容を理解しておくとともに、必要に応じて事前学習を進める。				
実務・実践的授業	×				

その他	Google Classroom クラスコード : 7lpo2hg 連絡先 : 工藤与志文 yoshifumi.kudo.d6@tohoku.ac.jp 佐藤誠子 seiko.sato.a1@tohoku.ac.jp
オフィスアワー	メールにて連絡すること。
更新日付	2025/02/27

1単位の授業科目は、4 5時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、『講義・演習』については1 5～3 0時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）3 0～1 5時間、「実験、実習及び実技」については3 0～4 5時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）1 5～0時間です。

授業コード	PB24310				
科目名	比較教育学講義				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜3限				
担当教員	井本 佳宏				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU221J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	比較・国際教育学概論				
授業の目的と概要	本授業では、比較・国際教育学の歴史、理論および方法、主要なトピックについて概説し、比較・国際教育学の強み・弱みの両面にわたってその学問的特質についての理解を深めていく。				
学習の到達目標	1. 比較・国際教育学の学問的特質について理解する。 2. 教育のあり方の多様性を理解する。 3. 教育を比較という視点から考察するセンスを身につける。				
授業内容・方法と進度予定	第1回 オリエンテーション 第2回 比較教育学とは／An introduction to comparative education 第3回 比較の方法／How are comparisons made? 第4回 文化と教育／Culture and education 第5回 比較のための経済的、政治的、社会的および歴史的文脈／Economic, political, social and historical contexts for comparison 第6回 教育と開発／Education and the developing world 第7回 ジェンダーと教育／Gender an education 第8回 第2回から第7回までのまとめと討議／Review and reflection from the 2nd to the 7th lesson 第9回 国際教育学とは／Understanding international education 第10回 グローバリゼーションと教育／Globalisation and education 第11回 グローバルなシティズンシップ教育／Global citizenship education 第12回 多文化教育／Multicultural education 第13回 インターナショナルスクール／International schools 第14回 高等教育の国際化／Internationalisation of higher education 第15回 全体のまとめと補足／Review, reflection, and course evaluation				
成績評価方法	1. 毎回記入・提出するミニットペーパー（30%）。 2. 期末レポート（70%）。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
Introduction to Comparative and International Education (3rd edition)	Marshall, J.	SAGE	2024	9781529611243	教科書

授業時間外学習	授業で扱ったテーマに関連する書籍の読書等を通じて、主体的に比較・国際教育学についての認識・思考を深めていくこと。
実務・実践的授業	×
その他	・ 授業に関する諸連絡、資料の配付、課題等の提示や提出にはGoogle Classroomを利用する。クラスコードはgjcjfgsです。第1回授業よりも前に各自で生徒登録しておくこと。 ・ 教科書は購入しなくても受講可能です。 ・ 授業は基本的に対面で行う。
オフィスアワー	・ オフィスアワー 火曜日 13:00～15:00
更新日付	2025/02/18

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

[illegible]

授業時間外学習	第2回目以降では、事前に前回の講義について自主的に復習しておくこと。
実務・実践的授業	×
その他	初回は 10/2（木）13:00 から実施する。 詳しいスケジュールや授業形態については、9月末までにクラスルームに掲示するので必ず確認しておくこと。
オフィスアワー	毎週木曜16:30～18:00、文学4階の小嶋研究室にて。
更新日付	2025/03/03

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、『講義・演習』については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、『実験・実習及び実技』については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB24330				
科目名	成人教育論講義Ⅰ（生涯学習概論Ⅰ）				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜3限				
担当教員	石井山 竜平				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU216J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	生涯学習と地域社会教育				
授業の目的と概要	成人教育とそれを支える公的条件をめぐる基本理念と、それをめぐる今日的課題についての理解を深める。				
学習の到達目標	現代では、学校教育に限定されない教育への世間的な認知は一定程度広がっている。しかし、そうした領域を指す、たとえば、「生涯学習」「社会教育」などの概念が普及したのは20世紀、とりわけその後半からのことであり、人類史からすれば、ごく最近のことであるという。このことが持つ意味とは何なのだろうか。そして今、地域における学習にはいかなる展開がみられるのだろうか。 この講義では、今日の地域学習の諸相を手がかりに、私たちが生きている現代社会の課題をとらえ返しつつ、これからの時代における地域生涯学習の在り方について考察する。				
授業内容・方法と進度予定	・成熟社会における生活課題と、その解決を目指す学習実践の実際 ・社会教育・生涯学習を支える理念と法制、国際的動向 ・社会教育・生涯学習の制度と地方分権改革 ・社会教育・生涯学習の提供主体の多元化 ・変革の時代をきりひらく学びと自治の創造 ・東日本大震災と社会教育、など。				
成績評価方法	小レポート（約3回）、および学期末レポートによる総合評価				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学習	学外の生涯学習事業への参画を授業の一環として位置付けることもありうる。授業の中で指示する。				
実務・実践的授業	×				

その他	Google クラスルーム対応 ①クラスコード ygyl yaw ②第1回授業の開始時期 10月2日(木)3限(13:00～)実施。 ③授業の実施方法 基本、対面で実施する。状況に応じて、ZOOMを活用する場合もありうる。URL等は授業開始時期にClassroomに掲示する。 なお、本授業でオンラインを活用する際は、合間にグループ討議等を行うことなどから、常時、ビデオをONにした状態で臨んで頂くことを、受講のルールとする。 ④関連資料の入手方法
オフィスアワー	前期は火曜4限、後期は金曜3限
更新日付	2025/02/26

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB14310				
科目名	教育哲学講義Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜3限				
担当教員	澤田 哲生				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU209J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	病理的現象への現象学的なアプローチと人間形成				
授業の目的と概要	人間形成と教育の過程において、人間は様々な困難に不可避免的に直面する。こうした困難の一つの典型として、この講義では、ヨーロッパの現象学者たち（メルロ＝ポンティ、サルトル、フッサール、等々）の人間の病理に対するアプローチを概説する。				
学習の到達目標	学生が1) 現象学の諸概念、2) 現象学と精神病理学の関係を理解し、3) 障害を持った人たちの世界への想像力を働かせ、4) 人間形成の手がかりをつかむことを、学習の到達目標とする。				
授業内容・方法と進捗予定	第1回：講義の概要とイントロ 第2回：哲学史における病理的現象の定義（1） 第3回：哲学史における病理的現象の定義（2） 第4回：身体と時間—幻影肢（1） 第5回：身体と時間—幻影肢（2） 第6回：時間と記憶—高次脳機能障害（1） 第7回：現実、可能、想像—高次脳機能障害（2） 第8回：知性について—高次脳機能障害（3） 第9回：愛について—高次脳機能障害（4） 第10回：欲望について—症例ドーラ（1） 第11回：夢について—症例ドーラ（2） 第12回：人間と機械—統合失調症（1） 第13回：理性と理想—統合失調症（2） 第14回：物語の終焉—そううつと現代 第15回：全体のまとめと課題作成 ※教科書は使用せず、毎回レジュメを配布して授業を行う。				
成績評価方法	授業への意欲的な取り組み、毎回のコメントペーパーの提出、課題作成の成果、等々から総合的に判断する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
『正常と病理』	G. カンギレム	法政大学出版局	1987		
『メルロ＝ポンティと病理の現象学』	澤田 哲生	人文書院	2012		

授業時間外学習	予習として、授業で紹介した著者や著作について次回までに調べておくこと。復習として、授業で配布したレジュメ、紹介した著書 や論文に目を通しておくこと。
実務・実践的授業	×
その他	
オフィスアワー	毎週月曜日17:00-18:00
更新日付	2025/02/12

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB24340				
科目名	臨床心理学演習Ⅰ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜3限				
担当教員	若島 孔文、本多 奈美、その他教員				
担当教員（所属）	坂本 一真				
科目ナンバリング	PES-PSY308J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	臨床心理学研究法				
授業の目的と概要	臨床心理学研究法の基礎およびその実際を学ぶ。				
学習の到達目標	臨床心理学研究法に関する基礎的事項を習得する。				
授業内容・方法と進度予定	受講生各自が卒業研究に向けて研究テーマ、研究内容等について計画・発表・討論する。研究論文の精読、紹介を行う。 1. オリエンテーション 2. ～ 14. 各受講生の研究に関する発表と討論、文献紹介 15. 総括 /				
成績評価方法	出席とレポートにより評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学習	各自の研究テーマに従い、論文を検索し、論文を精読し、研究を計画すること。				
実務・実践的授業	×				
その他	適宜、臨床心理学演習Ⅲ・Ⅳと合同で演習を行う。				

オフィスアワー	月曜日13時から14時30分
更新日付	2025/02/05

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB24350				
科目名	臨床心理学演習Ⅱ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜4限				
担当教員	若島 孔文、本多 奈美				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY309J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	臨床心理学研究法				
授業の目的と概要	臨床心理学研究法の基礎およびその実際を学ぶ。				
学習の到達目標	臨床心理学研究法に関する基礎的事項を習得する。				
授業内容・方法と進度予定	受講生各自が卒業研究に向けて研究テーマ、研究内容等について計画・発表・討論する。研究論文の精読、紹介を行う。 1. オリエンテーション 2. ～ 14. 各受講生の研究に関する発表と討論、文献紹介 15. 総括 /				
成績評価方法	出席とレポートにより評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学習	各自の研究テーマに従い、論文を検索し、論文を精読し、研究を計画すること。				
実務・実践的授業	×				
その他	適宜、臨床心理学演習Ⅲ・Ⅳと合同で演習を行う。				

オフィスアワー	月曜日13時から14時30分
更新日付	2025/02/05

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB24360				
科目名	臨床心理学演習Ⅲ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜3限				
担当教員	安保 英勇、吉田 沙蘭、前田 駿太、SCHLEMPER LENNA				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY310J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	臨床心理学研究法				
授業の目的と概要	臨床心理学研究法の基礎およびその実際を学ぶ。				
学習の到達目標	臨床心理学研究法に関する基礎的事項を習得する。				
授業内容・方法と進度予定	受講生各自が卒業研究に向けて研究テーマ、研究内容等について計画・発表・討論する。研究論文の精読、紹介を行う。 1. オリエンテーション 2. ～ 14. 各受講生の研究に関する発表と討論、文献紹介 15. 総括				
成績評価方法	レポート（70%）、授業への参加度（30%）による。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学習	各自の研究テーマに従い、論文を検索し、論文を精読し、研究を計画すること。				
実務・実践的授業	×				
その他	適宜、臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱと合同で演習を行う。 class_code: nnaeui4				

オフィスアワー	火曜日、13時から15時
更新日付	2025/02/27

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB24370				
科目名	臨床心理学演習Ⅳ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜4限				
担当教員	安保 英勇、吉田 沙蘭、前田 駿太、SCHLEMPER LENNA				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY311J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	臨床心理学研究法				
授業の目的と概要	臨床心理学研究法の基礎およびその実際を学ぶ。				
学習の到達目標	臨床心理学研究法に関する基礎的事項を習得する。				
授業内容・方法と進度予定	受講生各自が卒業研究に向けて研究テーマ、研究内容等について計画・発表・討論する。研究論文の精読、紹介を行う。 1. オリエンテーション 2. ～ 14. 各受講生の研究に関する発表と討論、文献紹介 15. 総括				
成績評価方法	レポート（70%）、授業への参加度（30%）による。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学習	各自の研究テーマに従い、論文を検索し、論文を精読し、研究を計画すること。				
実務・実践的授業	×				
その他	適宜、臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱと合同で演習を行う。 class_code: vfgqb26				

オフィスアワー	火曜日、13時から15時
更新日付	2025/02/27

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB24510				
科目名	発達障害学講義Ⅲ（障害者・障害児心理学）				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜5限				
担当教員	野口 和人				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY219J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	〇				
授業題目	障害の理解と心理・教育的支援				
授業の目的と概要	障害に関わる法制度、療育・教育制度、診断基準、心理・教育的支援について講述するとともに、発達障害のある子どもたちへの心理・教育的支援における課題を論じる。				
学習の到達目標	①障害に関わる法制度、療育・教育制度、診断基準、心理・教育的支援について学ぶ。 ②発達障害学について多角的に理解する。				
授業内容・方法と進度予定	○授業の実施方法：対面方式で実施します（特段の理由がある場合に限り、オンラインでの受講を認めます）。 ○関連資料の入手方法：必要な資料はクラスの共有ドライブを利用して配付します。 1. オリエンテーション（公認心理師に求められる、障害に関する基礎知識について） 2. 障害者の権利に関する条約、障害者基本法等 3. 我が国における特別支援教育の仕組み① 4. 我が国における特別支援教育の仕組み② 5. 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律等 6. 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保険及び精神障害者福祉に関する法律、発達障害者支援法等① 7. 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保険及び精神障害者福祉に関する法律、発達障害者支援法等② 8. 国際障害分類（ICIDH）、国際生活機能分類（ICF）等 9. 国際疾病分類（ICD）、精神疾患の診断と統計マニュアル（DSM）、AAIDDによるマニュアル① 10. 国際疾病分類（ICD）、精神疾患の診断と統計マニュアル（DSM）、AAIDDによるマニュアル② 11. アセスメントの視点と方法、主な心理・教育的支援 12. 発達障害について、事例に基づき理解する① 13. 発達障害について、事例に基づき理解する② 14. 発達障害について、事例に基づき理解する③ 15. まとめ				
成績評価方法	平常点（50%）及びレポート（50%）により総合的に評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	毎回の授業において指示する。
実務・実践的授業	×
その他	
オフィスアワー	前期：火曜日3限目 後期：木曜日3限目
更新日付	2025/03/03

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB25110				
科目名	人体の構造と機能及び疾病				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜1限				
担当教員	本多 奈美				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY249J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	人体の構造と機能及び疾病				
授業の目的と概要	人体の構造と機能の概要を理解するとともに、各種疾病や障害等を学ぶ。				
学習の到達目標	人体の構造と機能および各種疾病や障害等に関する基礎的な知識を習得する。				
授業内容・方法と進度予定	対面授業を実施する。 01 オリエンテーション、診断と治療 02 人体の構造と機能 03 感覚器、神経、内分泌 04 小児、遺伝 05 加齢 06 内科疾患 07 整形外科疾患 08 精神疾患 09 神経疾患 10 難病、医療安全、感染症、免疫 11 がん、終末期医療 12 周産期、産科疾患、婦人科疾患 13 リハビリテーション、在宅医療 14 ICF、健康と病気 15 まとめ・筆記試験				
成績評価方法	試験（40点）、レポート(40点)および平常点（20点）による総合的な評価。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
人体の構造と機能及び疾病 第二版	武田克彦他編	医歯薬出版	2024	978-4-263-26597-0	

授業時間外学習	その都度、指示します。
実務・実践的授業	×
その他	クラスコード p7d276i
オフィスアワー	設定なし
更新日付	2025/03/10

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、『講義・演習』については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、『実験、実習及び実技』については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB25210				
科目名	教育心理学講義Ⅰ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜2限				
担当教員	工藤 与志文				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY204J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	知識の教授と学習の心理学				
授業の目的と概要	学校教育の目標の一つは、当該領域における重要概念やルールによって構成された知識システムを学習者内に構築することである。この講義では、概念やルールの教授・学習に関する心理学的知見を概説するとともに、関連する心理学的諸問題について論じる。				
学習の到達目標	① 概念やルールに関する教授学習心理学研究の基礎的成果について知る。 ② 学校教育における知識システムの構築の重要性について理解する。				
授業内容・方法と進度予定	1. ガイダンス 2. 概念とは何か 3. 概念と思考 4. 概念に関する古典的見解 5. 概念学習の心理学(1) 6. 概念学習の心理学(2) 7. ルール学習の心理学(1) 8. ルール学習の心理学(2) 9. ルール学習と問題解決(1) 10. ルール学習と問題解決(2) 11. ルール学習と知識操作(1) 12. ルール学習と知識操作(2) 13. 知識操作と創造性 14. 今後の課題 15. まとめ				
成績評価方法	各講義後のレポート課題の提出状況と最終試験の成績で評価する				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	前回の講義内容を復習するとともに、与えられたレポート課題に取り組む。
実務・実践的授業	×
その他	連絡先：yoshifumi.kudo.d6@tohoku.ac.jp (G o o g l e クラスルーム対応) クラスコード 2zktjzm
オフィスアワー	毎週月曜 4 講時
更新日付	2025/02/27

1単位の授業科目は、4 5 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については1 5 ～ 3 0 時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）3 0 ～ 1 5 時間、「実験、実習及び実技」については3 0 ～ 4 5 時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）1 5 ～ 0 時間です。

授業コード	PB25220				
科目名	関係行政論				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜2限				
担当教員	前田 駿太、長友 周悟				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY250J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	関係行政論				
授業の目的と概要	心理学的支援に関係する法律・制度の基本について学ぶ。				
学習の到達目標	保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野における心理学的支援に関係する法律・制度の概要について理解する。				
授業内容・方法と進度予定	第1回 オリエンテーション、法律・制度の基本と公認心理師 第2回 公認心理師の法的立場と多職種連携 第3回 公認心理師の各分野への展開 第4回 保健医療分野に関連する法律・制度（1）：保健医療全般 第5回 保健医療分野に関連する法律・制度（2）：精神科医療 第6回 保健医療分野に関連する法律・制度（3）：地域保健・医療 第7回 福祉分野に関連する法律・制度（1）：児童福祉、高齢者福祉 第8回 福祉分野に関連する法律・制度（2）：障害児・障害者福祉 第9回 教育分野に関連する法律・制度 第10回 司法・犯罪分野に関連する法律・制度（1）：家事 第11回 司法・犯罪分野に関連する法律・制度（2）：刑事 第12回 司法・犯罪分野に関連する法律・制度（3）：少年非行 第13回 産業・労働分野に関連する法律・制度 第14回 各分野に横断して関係する法律・制度、最近のトピック 第15回 まとめ・筆記試験				
成績評価方法	毎回のミニットペーパー 30%、レポート 35%、筆記試験 35%				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	授業終了後の復習に取り組むことが期待される。
実務・実践的授業	○（企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う）
その他	公認心理師試験を受験するために必要な科目である。 この科目は平成３０年以降入学者対象科目である。 (Googleクラスルーム対応) クラスコード：nksvfuz
オフィスアワー	設定なし
更新日付	2025/02/20

1単位の授業科目は、４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については１５～３０時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）３０～１５時間、「実験、実習及び実技」については３０～４５時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）１５～０時間です。

授業コード	PB25230				
科目名	スポーツ文化論講義Ⅰ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜2限				
担当教員	甲斐 健人				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU217J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	生涯スポーツへの社会学的アプローチ				
授業の目的と概要	産業形態の変化、ライフスタイルの変化、高齢化など、さまざまに変容する現代社会において、身体活動の意義は見直されつつある。生涯スポーツという語は、多くの人々にとってますます耳慣れた言葉となっているようだ。一方で、市場と結びついたスポーツの肥大化も進み、私たちのスポーツとのかかわりは多様化している。生涯スポーツとはどのようなものを理解するとともに、現代におけるスポーツの諸相を社会的に理解しようとする。そのうえで、スポーツやからだと各自がどのようにつきあってゆくか、その基礎的視点について考察する。				
学習の到達目標	生涯スポーツが理念であることを理解する。今日のスポーツの諸相を通して現代社会や教育について理解を深める。スポーツやからだとどのようにつきあっていけばよいか、考察を深める。				
授業内容・方法と進度予定	1) イントロダクション：スポーツ社会学とは 2) 生涯スポーツという理念 3) スポーツの肥大化とからだ 4) スポーツの需要と供給 5) 規律化装置としてのスポーツ 6) ブラック部活と部活の地域移行 7) 競技スポーツの前提 8) 「さえない」部活の積極性 9) 「からだ」と学校文化 10) スポーツと環境問題 11) 開発主義とスポーツ 12) 山村住民の誇りと身体文化 13) 誰のための健康か 14) ジェンダーとスポーツ 15) スポーツ人材育成と生活戦略				
成績評価方法	出席（30%）とレポートまたは試験（70%）によって評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
				</	

授業時間外学習	適宜指示する。
実務・実践的授業	×
その他	担当教員の学部開講授業は「生涯学習論演習」と隔年開講になる可能性がある。 各回で取り扱うトピックスは、変更する可能性がある（例、オリンピックと東京&東北など）。
オフィスアワー	月曜日 12：10-12：50
更新日付	2025/03/06

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、『講義・演習』については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、『実験、実習及び実技』については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB25310				
科目名	教育心理学実験Ⅱ（心理学実験）				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜3限、金曜4限				
担当教員	長谷川 真里、教育心理学コース教員				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY382J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	教育心理学実験Ⅱ（心理学実験）				
授業の目的と概要	この授業科目は、教育心理学コースの3年次学生が、従来の研究を追試的に検討することにより、心理学研究の基礎的技法を習得することを目的とする。				
学習の到達目標	1. 心理学研究の技法を学ぶ。 2. SPSSなどを用いた心理学の統計的分析方法について学ぶ。 3. 心理学の研究論文における記述方法について学ぶ。				
授業内容・方法と進度予定	1. オリエンテーション 2. 追試研究構想発表 3. 追試研究構想再発表 4. 追試研究構想再々発表 5. データ収集の依頼と実際 6. データの入力方法 7. 仮説検証とデータの分析 8. 「結果」「考察」のまとめ方 9. 追試研究発表と討議 10. 追試研究再発表と再討議 11. 追試研究再々発表と再々討議 12. 討議の振り返りと論文のまとめ方 13. 合同発表会最終レポート作成(1) 14. 合同発表会最終レポート作成(2) 15. 最終レポート作成				
成績評価方法	(1)授業への参加度（研究への取り組みの積極さ、他の班の発表時の聴講態度なども含む）と(2)レポート（追試研究最終レポート（班ごと）および(3)追試研究を振りかえるレポート（個人））によって評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別

授業時間外学習	構想発表ならびに研究発表に関しては、授業時間を発表に充てるため、その準備は授業時間外での作業が中心となる。
実務・実践的授業	×
その他	班に分かれての作業が中心となる。 事前に教育心理学実験Iを履修のこと。 (Googleクラスルーム対応) クラスコード：ayskx6b
オフィスアワー	教員に問い合わせをしてください。
更新日付	2025/02/28

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB25420				
科目名	教育情報デザイン論講義Ⅰ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜4限				
担当教員	伊藤 文人				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EIA221J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	社会神経科学入門				
授業の目的と概要	本講義では、人の認知や社会性を支える情報処理のプロセスや関連する脳のメカニズムについて学ぶ。これまでの研究で明らかにされてきた重要な知見について歴史的な流れも踏まえ概説し、認知神経科学や神経心理学、神経経済学など社会神経科学と関わりの深い学問分野の知見も交えながら、脳とところについて幅広く学ぶ。また、最近の研究動向についても紹介し、教育・福祉・コミュニケーションの未来を切り拓いていくための知的基盤形成を目指す。				
学習の到達目標	・人間の脳・ところ・社会的認知の仕組みに関する基礎的な知見を理解する。 ・人間の脳・ところ・社会的認知を科学的に調べる方法を理解する。 ・社会神経科学の周辺領域の知見も踏まえ、教育・福祉・コミュニケーションへの展開について考察・デザインできる。				
授業内容・方法と進度予定	第1回：ガイダンス、脳神経系の構造と機能 第2回：脳損傷に基づく脳機能の理解、さまざまな脳計測技術・非侵襲的脳刺激法 第3回：脳画像の見方 第4回：視覚・注意 第5回：言語 第6回：学習・記憶 第7回：運動、感覚 第8回：報酬、情動 第9回：脳科学観点からの発達過程と社会情動スキルⅠ 第10回：脳科学観点からの発達過程と社会情動スキルⅡ 第11回：社会神経科学Ⅰ 第12回：社会神経科学Ⅱ 第13回：神経経済学 第14回：社会神経科学Ⅲ 第15回：まとめ 定期試験（レポート） （上記の予定は変更となることがあります。）				
成績評価方法	授業時間内に行うミニットペーパー（50%）と最終レポート（50%）を総合して評価する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
</					

授業時間外学習	前回の講義について自主的に復習すること。
実務・実践的授業	×
その他	講義の進め方や評価等の詳細は第1回の講義で説明する。 講義の進捗に応じて内容が前後したり変更される可能性がある。
オフィスアワー	木曜3限（事前にメールにてアポイントメントを取ってください） Email: ayahito.ito.c2@tohoku.ac.jp
更新日付	2025/02/27

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、『講義・演習』については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、『実験、実習及び実技』については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB25510				
科目名	発達障害学演習Ⅳ				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	金曜5限				
担当教員	横田 晋務				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-PSY213J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	発達障害研究法				
授業の目的と概要	発達障害学に関する研究デザイン、およびデータ取得の方法論、解析方法などについてディスカッションを行い、自律的に研究を進める能力を養う				
学習の到達目標	①先行知見・理論に基づいた適切に問題設定できる ②リサーチクエストを明らかにするために適切な研究デザイン、分析計画を立案することができる ③得られた結果に対し、先行知見を踏まえた適切な考察をすることができる ④上記①～③を卒業論文等の作成の際に応用することができる				
授業内容・方法と進度予定	1～5 問題設定および文献レビュー 6～10 発表・討論による問題・研究全体のデザインの精緻化 11～15 研究方法・分析方法の立案・検討				
成績評価方法	発表内容・ディスカッションへの参加度 100%				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学習	先行研究のレビューおよび研究デザインを考案し、発表の準備をすること				
実務・実践的授業	×				
その他					
オフィスアワー	事前にE-mailで連絡すること。				

更新日付	2025/02/05
1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。	

授業コード	PB30010				
科目名	心理実習				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	集中講義				
担当教員	前田 駿太、若島 孔文、安保 英勇、本多 奈美、吉田 沙蘭、SCHLEMPER LENNA、その他教員				
担当教員（所属）	坂本 一真				
科目ナンバリング	PES-PSY383J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	心理実習				
授業の目的と概要	心理学的な支援について、見学等による実習を通し、基本的な水準で習得する。				
学習の到達目標	異なる分野における心理師の多様な働き方について、見学および活動への参加等を通して知識を得る。多職種連携の方法について、施設内連携だけでなく、施設間連携も含め、知識を得る。見学および講義等を通して、各分野における職業倫理及び法的義務について知識を得る。				
授業内容・方法と進度予定	実習事前指導、および学外実習施設（保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野）での見学を中心とした実習を軸に進める。これらを通じて、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解等について学習する。				
成績評価方法	各実習施設ごとの事前学習レポート（50％）および事後学習レポート（50％）で総合的に判断する。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学習	授業時間外での実習記録の作成が必要になる。内容は事前指導で適宜指示する。				
実務・実践的授業	○（企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う）				

その他	この科目は公認心理師試験の受験資格を得るために必要な科目である。この科目は平成30年以降入学者対象科目である。この科目は原則として「心理演習」の単位を習得済の者を受講対象者とする。 授業教員への相談を希望する場合にはメールでアポイントをとること（担当：前田駿太、メール：shunta.maeda.d2@tohoku.ac.jp）。 (Google classroom対応) クラスコード：4lgshse
オフィスアワー	設定なし
更新日付	2025/02/27

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB33310				
科目名	社会科教育論Ⅰ				
単位数	4.0単位				
曜日・講時	水曜3限				
担当教員	新福 悦郎、李 仁子				
担当教員（所属）	新福 悦郎（非常勤講師）				
科目ナンバリング	PES-EDU902J				
使用言語	日本語				
主要授業科目					
授業題目	社会科教育論Ⅰ				
授業の目的と概要	本講義では、社会科教育の理論と実践についての理解を深めることを目的とする。 本講義では、社会科教育の目標・内容・方法について、その基本的な問題を検討する。注目されてきた実践に学ぶことで、特に社会科教育の実践的方法を理解する。				
学習の到達目標	①中学校社会科教師として必要な実践的指導力の基礎を習得する。 具体的には次のような、実践的指導力を習得する。 ・模擬授業を契機に、具体的な学習指導案を書けるようになる。 ・模擬授業において、教育内容および教材、教育方法の観点から総合的に授業成立できるようにする。 ・子どもたちの視点から授業を分析する力を学ぶ。 ② 教育実習に臨む準備を整える。				
授業内容・方法と進度予定	授業計画 第1回：オリエンテーション、学びの履歴 第2回：社会科誕生の経緯（加藤章『戦後歴史教育史論』、梅野正信『社会科歴史教科書成立史』をもとに） 第3回：社会科の変遷Ⅰ（初期社会科プランとカリキュラム） 第4回：社会科の変遷Ⅱ（やまびこ学校、勝田・梅根論争） 第5回：社会科の変遷Ⅲ（学習指導要領の変遷） 第6回：社会科における人権と法Ⅰ 第7回：社会科における人権と法Ⅱ 第8回：社会科実践史Ⅰ（安井俊夫の楽しくわかる社会科授業） 第9回：社会科実践史Ⅱ（杉浦正和・和井田清司のディベート） 第10回：社会科の目標と学力（社会科で育てる学力とは何か。平成29年版学習指導要領） 第11回：社会科の授業方法Ⅰ（問題解決、理解、説明、議論、意思決定、社会参加） 第12回：社会科の授業方法Ⅱ（アクティブラーニングと討論の技法） 第13回：社会科の授業方法Ⅲ（佐藤学「学びの共同体」と社会科） 第14回：社会科の内容と社会科の課題Ⅰ（いじめ問題の授業） 第15回：社会科の内容と社会科の課題Ⅱ（ハンセン病問題の授業） 第16回：社会科の内容と社会科の課題Ⅲ（防災教育と安全確保義務） 第17回：社会科の内容と社会科の課題Ⅲ（戦後補償問題の授業） 第18回：社会科における教材づくりⅠ 第19回：社会科における教材づくりⅡ 第20回：社会科と討論授業 第21回：地域教材づくりと授業（地域の歴史教材開発の授業） 第22回：社会科教育とICT 第23回：学習指導案の作成 第24回：模擬授業と省察Ⅰ 第25回：模擬授業と省察Ⅱ 第26回：模擬授業と省察Ⅲ 第27回：模擬授業と省察Ⅲ 第28回：模擬授業と省察Ⅳ 第29回：模擬授業と省察Ⅴ 第30回：本授業におけるまとめ 定期試験				
成績評価方法	前期・後期テスト 25点 模擬授業および学習指導案 30点 リアクションペーパーや課題レポート45点				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
公民科教育と学校教育	梅野正信・新福悦郎・蜂須賀洋一	三恵社	2021年	978-4-86693-367-2	教科書
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編	文部科学省	東洋館出版社	2018年	978-4-491-03471-3	参考書

授業時間外学習	①模擬授業発表時の指導案作成と授業準備 ②各授業ごとのリアクションペーパーや課題レポート				
実務・実践的授業	○（企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う）				
その他	質問がある場合は担当教員の次のメールに連絡すること。 etsuro.shimpuku.d3@tohoku.ac.jp (Googleクラスルーム対応) ①クラスコード ②第1回授業の開始時期 2025年4月9日3限 ③授業の実施方法 対面授業 ④関連資料の入手方法 授業用の資料はClassroomで紹介 ⑤対面授業への対応が困難な学生への対応策：個別に相談 個別に相談（<mailto:etsuro.shimpuku.d3@tohoku.ac.jp>へ連絡のこと）				
オフィスアワー	毎週水曜日午後、2階非常勤講師室				
更新日付	2025/03/04				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB33410				
科目名	社会科教育論Ⅱ				
単位数	4.0単位				
曜日・講時	水曜4限				
担当教員	新福 悦郎、李 仁子				
担当教員（所属）	新福 悦郎（非常勤講師）				
科目ナンバリング	PES-EDU903J				
使用言語	日本語				
主要授業科目					
授業題目	社会科教育論Ⅱ				
授業の目的と概要	本授業では、履修者が中学校社会科における教育内容や授業の進め方について、実際の現場で指導できる資質能力を養成することを目的とする。特に教育内容に特化し、具体的に深い学びになることを目指す。そのために、映像や新聞記事などを活用して理解を進める。同時に、学習内容と教材研究の関係性を把握し、社会科授業づくりへの応用を目指す。				
学習の到達目標	① 中学校社会科教師として必要な実践的授業づくりの基礎となる学習内容の具体的な認識を獲得することができる。 具体的には、歴史的分野、公民的分野を中心に、法と人権の視点からの学習内容について社会認識の形成深化を図ることができる。 ② 教育内容を授業づくりに活かす教材研究の手法を理解できる。				
授業内容・方法と進度予定	授業計画 第1回：オリエンテーション、 第2回：高度経済成長期の日本社会の背景 第3回：高度経済成長期の社会問題 第4回：司法制度の内容理解 第5回：司法制度改革と冤罪 第6回：第2次世界大戦の時代背景 第7回：ホロコーストとヨーロッパ社会 第8回：ハンセン病問題の歴史的社会的背景 第9回：人権教育としてのハンセン病問題 第10回：アジアの民主化問題 第11回：韓国における民主化運動 第12回：原爆による被害と日本社会 第13回：核兵器をめぐる問題と被爆者 第14回：子どもの権利条約と子どもの権利条例 第15回：本授業における前期のまとめ 第16回：子どもの権利条約と虐待の問題 第17回：第一次世界大戦の特色と時代背景 第18回：第一次世界大戦と日本 第19回：戦後の日本社会と教育Ⅰ 第20回：戦後の日本社会と教育Ⅱ 第21回：アジア太平洋戦争と日本 第22回：沖縄戦の実相 第23回：明治大正期の日本の労働問題 第24回：明治大正期の日本民衆の実相 第25回：戦前の教育制度と若者 第26回：旧制高校と学徒出陣の実相 第27回：韓国併合と植民地化 第28回：戦後補償問題と日本 第29回：新聞記事を活用した社会科授業 第30回：本授業におけるまとめ 定期試験 <br				
成績評価方法	前期・後期テスト 40点 レポート報告2回（新聞記事内容、教科書内容の要素）30点 リアクションペーパーもしくは授業後の課題レポート30点				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
公民科教育と学校教育	梅野正信・新福悦郎・蜂須賀洋一	三恵社	2021年	978-4-86693-367-2	教科書
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編	文部科学省	東洋館出版社	2018年	978-4-491-03571-3	参考書

授業時間外学習	①レポートの作成と報告の準備 ②授業ごとのリアクションペーパーや課題レポート作成				
実務・実践的授業	○（企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う）				
その他	質問がある場合は担当教員の次のメールに連絡すること。 etsuro.shimpuku.d3@tohoku.ac.jp (Googleクラスルーム対応) ①クラスコード ②第1回授業の開始時期 2025年4月9日 4限 ③授業の実施方法 対面授業 ④関連資料の入手方法 授業用の資料はClassroomで紹介 ⑤対面授業への対応が困難な学生への対応策：個別に相談 個別に相談（<mailto:etsuro.shimpuku.d3@tohoku.ac.jp>へ連絡のこと）				
オフィスアワー	毎週水曜日午後、2階非常勤講師室				
更新日付	2025/03/04				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB33510				
科目名	公民科教育論				
単位数	4.0単位				
曜日・講時	水曜5限				
担当教員	新福 悦郎、李 仁子				
担当教員（所属）	新福 悦郎（非常勤講師）				
科目ナンバリング	PES-EDU904J				
使用言語	日本語				
主要授業科目					
授業題目	公民科教育論				
授業の目的と概要	本講義では、公民科教育の理論と実践についての理解を深めることを目的とする。 本講義では、公民科教育の目標・内容・方法について、その基本的な問題を検討する。注目されてきた実践に学ぶことで、特に公民科教育の実践的方法を理解する。				
学習の到達目標	① 高等公民科教師として必要な実践的指導力の基礎を習得する。 具体的には次のような実践的指導力を習得する。 ・公民科教育の意義と課題について考察できる。 ・公民科教育の目標論、学力論について考察できる。 ・新しい学習指導要領の内容について理解し分析できる。 ・教材を創意工夫して作成できる。 ・学習指導案を作成できる。 ・模擬授業を機会にして、授業を教育内容、教材、教育方法の観点から総合的に成立できる。 ・子どもたちの視点から授業を分析できる。 ② 教育実習に臨む準備を整える。				
授業内容・方法と進度予定	授業計画 第1回：オリエンテーション、公民科と社会的課題 第2回：公民系教科・科目の成立と変遷、公民科目標の変遷 第3回：新しい学習指導要領と改訂の特色 第4回：公民科教育の到達目標 第5回：教育実習と公民科の授業 第6回：学習指導案の要諦（略案と正案と細案） 第7回：授業づくりと教材づくり 第8回：新聞活用の方法 第9回：アクティブ・ラーニングと公民科授業 第10回：討論の技法 第11回：ディベート学習 第12回：模擬選挙 第13回：政治的教養と政治的中立性 第14回：評価の方法 第15回：公民科教育と省察（総合的なまとめⅠ） 第16回：司法参加の方法と内容 第17回：高度情報化社会 第18回：環境問題の出発点 第19回：子どもの権利条約と権利条例 第20回：いじめ問題の学習 第21回：脳死と死 第22回：消費者教育 第23回：先人の哲学者思想の授業づくり 第24回：模擬授業と評価Ⅰ 第25回：模擬授業と評価Ⅱ 第26回：模擬授業と評価Ⅲ 第27回：模擬授業と評価Ⅳ 第28回：模擬授業と評価Ⅴ 第29回：模擬授業と評価Ⅵ 第30回：まとめ 定期試験				
成績評価方法	前期・後期テスト 25点 模擬授業および学習指導案 30点 リアクションペーパーもしくは授業後の課題レポート45点				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
公民科教育と学校教育	梅野正信・新福悦郎・蜂須賀洋一	三恵社	2021年	978-4-86693-367-2	教科書
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説公民編	文部科学省	東京書籍	2019年	978-4-487-28633-1	参考書

授業時間外学習	①模擬授業発表時の指導案作成と授業準備 ②各授業ごとのリアクションペーパーもしくは課題レポート ③次回授業時の論文を事前に読んでくること。				
実務・実践的授業	○（企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う）				
その他	質問がある場合は担当教員の次のメールに連絡すること。 etsuro.shimpuku.d3@tohoku.ac.jp (Googleクラスルーム対応) ①クラスコード ②第1回授業の開始時期：2025年4月9日 5限 ③授業の実施方法 対面授業 ④関連資料の入手方法 授業用の資料はClassroomで紹介 ⑤対面授業への対応が困難な学生への対応策：個別に相談 個別に相談（<mailto:etsuro.shimpuku.d3@tohoku.ac.jp>へ連絡のこと）				
オフィスアワー	毎週水曜日午後、2階非常勤講師室				
更新日付	2025/03/04				

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験・実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB34210				
科目名	教育学実習				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜2限				
担当教員	甲斐 健人				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU321J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	質的調査法を学ぶ				
授業の目的と概要	この授業では、教育現象を実証的に研究する上で必要な社会調査の方法を理解し、それを実際に遂行できる基礎的な技法の習得を目指す。このため、①社会調査の理論と技法に関する学習をした後、②研究テーマと対象地の選定、③現地調査の実施、④調査の分析と報告書の作成、⑤報告会の開催など、調査の一連の過程を体験する。 研究テーマや対象地の選定は授業の中で議論し決定していくが、学校教育、社会教育、スポーツ、身体文化などと関連するテーマを予定している。				
学習の到達目標	「社会調査」の技法について学習し、自分の力で調査を企画・実施する能力を身につけることを目指す。				
授業内容・方法と進度予定	1. イントロダクション 2. 質的研究法とはどのようなものか 3. 研究テーマとリサーチクエスト 4. 調査の方法の学習とテーマに応じた手法の選定 5. 調査の研究倫理 6. フィールドワークの実際 7. 分析の方法 8. 理論の構築法 9. 研究報告の作成技法 10. まとめプレゼンテーションの方法				
成績評価方法	グループワークを中心に実習を行う予定であり、出席を重視する（80％）。また、グループで作成したレポートの評価を加える（20％）。				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
授業時間外学習	実際に調査活動をする予定であり、必要に応じて授業時間外に活動を行う。 学外の他者と関わる授業であり、調査対象者と関わる心構えの無い受講者は授業期間内に受講を断る可能性があるので留意すること。				
実務・実践的授業	×				

その他	連絡先：taketo.kai.a2@tohoku.ac.jp
オフィスアワー	月曜日 12：10-12：50
更新日付	2025/03/06

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1単位の修得に必要な学修時間の目安は、『講義・演習』については15～30時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間、「実験、実習及び実技」については30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間です。

授業コード	PB34410				
科目名	教育学実習				
単位数	2.0単位				
曜日・講時	木曜4限				
担当教員	福田 亘孝				
担当教員（所属）					
科目ナンバリング	PES-EDU321J				
使用言語	日本語				
主要授業科目	○				
授業題目	データ・サイエンスとしての社会調査の理論と実践				
授業の目的と概要	社会調査を実際に行い、調査データを分析し、報告書を作成する				
学習の到達目標	(1) 仮説や分析枠組みを構築し、調査票が作成することができる (2) 社会調査のフィールド・ワークを行うことができる (3) コーディング、データ入力、クリーニング作業を行い、データの計量分析と報告書の作成ができる				
授業内容・方法と進度予定	1 はじめに：「研究倫理」と「調査倫理」 2 年間スケジュールと調査企画書の説明 3 調査企画書の確定と調査方法の決定 4 仮説構成と質問項目の決定 5 調査票の作成とプリテスト 6 調査対象者の決定と対象者原簿の作成 7 調査票の修正と依頼状・催促状の作成 8 調査対象者原簿確定と調査票・依頼状・催促状の最終チェック 9 調査依頼状と調査票の印刷 10 調査依頼状の発送 11 フィールド・ワークのマニュアル作成 12 フィールド・ワークについての解説 13 調査票の回収状況の確認と回収調査票の整理 14 エディティングとコーディングの準備 15 フィールド・ワーク（1） 16 フィールド・ワーク（2） 17 調査票の点検 有効調査票の確定 18 コーディング 19 コンピュータへのデータ入力 20 SPSSの使い方（1） 22 SPSSの使い方（2） 21 集計とデータ・クリーニング 22 単変量分析 23 二変量分析 24 多変量分析 25 調査報告書の構成と執筆分担案の検討 26 執筆内容の具体化 27 報告書の草稿の報告 28 分析結果のプレゼンテーション（1） 29 分析結果のプレゼンテーション（2） 30 報告書原稿の提出と検討				
成績評価方法	授業への参加度（20％）、発表・レポート（40％）、課題（40％）				
教科書及び参考書					
書名	著者名	出版社	出版年	ISBN/ISSN	資料種別
社会調査法入門	盛山和夫	有斐閣	2004		
ガイドブック社会調査	森岡清志	日本評論社	2006		
SPSSによる応用多変量解析	三輪 哲・林 雄亮	オーム社	2014		
社会統計学ベーシック	片瀬一男・阿部晃士・高橋征仁	ミネルヴァ書房	2015		
社会統計学アドバンスト	片瀬一男・阿部晃士・高橋征仁	ミネルヴァ書房	2019		
社会統計学	ボーンシュテット&ノーキ	ハーベスト社	1992		
心理統計学の基礎	南風原朝和	有斐閣	2002		

授業時間外学習	★教科書、参考書、配布資料を理解し、授業の予習・復習をする ★必要に応じてReading AssignmentとWriting Assignmentを課す				
実務・実践的授業	○（企業等での勤務経歴を有しており実務経験を活かした授業を行う）				
その他	★予習・復習は必ずやり遂げてから授業に出席すること ★授業はマナーを守って受講すること。授業にとって迷惑になる場合は、退室を命じる ★授業計画は予定であり、実際の授業では予定が変更になる場合があります ★成績評価方法は目安であり、変更になる場合があります ★本授業科目は、日本社会学会、日本教育社会学会、日本行動計量学会が共同で設立した一般社団法人社会調査協会の定める「社会調査士のための必修科目」のうち、「G. 社会調査の実習を中心とする科目」として認定の申請を予定している授業科目である。社会調査士資格については、 http://jasr.or.jp/ を参照のこと。 (1) 授業の実施方法： オンラインを積極的に活用して授業を行う （第1回目の授業で説明する） (2) 関連資料の入手方法： 関連資料の入手方法はgoogle classroomにおいて指示する。				
オフィスアワー	※オフィス・アワー 木曜日 13:10-13:40 事前予約が必要				
更新日付	2025/02/23				

1 単位の授業科目は、4 5 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。1 単位の修得に必要な学修時間の目安は、「講義・演習」については1 5 ～3 0 時間に授業および授業時間外学修（予習・復習など）3 0 ～1 5 時間、「実験、実習及び実技」については3 0 ～4 5 時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）1 5 ～0 時間です。